

HOBBY JAPAN MOOK

機動戦士ガンダム

鉄血のオルフェンズ

第2巻

コンプリーション

戦場の果てに 結ばれた“絆”

メカニック・キャラクター設定、さらにガンブラ開発秘話も網羅した
『鉄血のオルフェンズ』の完全読本

MOBILE SUITS GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS SECOND SEASON COMPLETION

HOBBY
JAPAN MOOK



機動戦士ガンダム
鉄血のオルフェンズ
第2期 **コンプリーション**

MOBILE SUITS GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS SECOND SEASON COMPLETION



鉄血の立体作品展 発売中

ガンダムウ・ポンズ 機動戦士ガンダム 鉄血のオルファーズ 新

〔発行元〕ホビージャパン 定価：本体3,400円＋税

ガンダム製作の手引き 9月30日発売予定

機動戦士ガンダム 鉄血のオルファーズ

超・鉄血のガンダム教科書

〔発行元〕ホビージャパン 定価：本体2,500円＋税



9784798614939



1929476026002

ISBN978-4-7986-1493-9

C9476 ¥2600E

ガンダムMOOK 907
機動戦士ガンダム 鉄血のオルファーズ
第2期 コレクション

定価：〔本体2,600円〕＋税

雑誌68149-07

Hobby
JAPAN

©前編・サンク44・2005
Printed in Japan

STORY

- 4 鉄華団とマクギリス 孤児達の反逆
5 各話ストーリー紹介
22 FILLIA | その後の世界

CONTENTS

MECHANICS

- 24 ガンダム・フレーム
33 イオ・フレーム
35 テイワズ・フレーム
36 ロディ・フレーム
37 ヘキサ・フレーム
38 レギンレイズ・フレーム
40 グレイズ・フレーム
42 ヴェルキュリア・フレーム
43 ゲイレール・フレーム
44 モビルアーマー
45 その他
48 FILLIA | 巨祭戦、そして大戦後の「フレーム」

CHARACTERS

- 50 鉄華団
64 キャラルホルン
71 タービーズ
73 テイワズ
74 その他
76 FILLIA | 独立の果て

SPECIAL INTERVIEW

- 78 長井龍雪×鶴尾直広[特別対談]
84 小川正和×千葉道徳×有澤寛×大張正己[座談会]
90 安永亮彦×西村悠紀[対談]

CREATORS COMMENT

- 97 『機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ』ガンブラ&グッスカタログ
106 『機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 月鋼』第2期紹介
108 ガンダムトライエイジ×『鉄血のオルフェンズ』
110 ALL CREDIT



HOBBY JAPAN MOOK

機動戦士ガンダム

鉄血のオルフェンズ

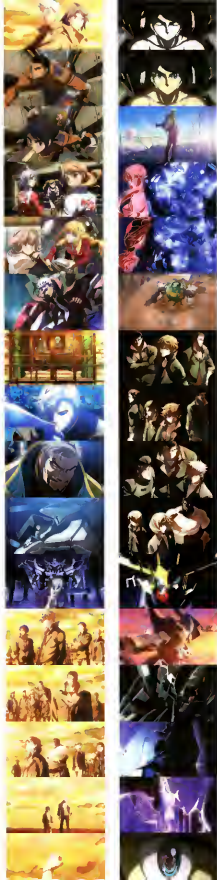
第2期

コンプリート

IRON-BLOODED ORPHANS SECOND PERIOD COMPLETION



STORY





JOBEX JAPAN

BOOK

戦国時代から現代まで

第2期

JOBEX JAPAN

Printed in Japan

鉄華団とマクギリス 孤児達の反逆

決起する少年たち



火星の民間警備会社CGSでは、志願した少年たちを揃い入れていた。しかし、その待遇は劣悪で、彼らは常に差別と暴力に晒されていた。だが、CGSが革命の乙女ターデリア・藍露・パンスタインの地球行きの通函を依頼されたことから、運命は大きな変わりを見せる。ターデリアの命を狙う、ギャラルホルンとの戦いを機に、少年たちはターデリアを救済、CGSを奪取り、「鉄華団」を立ち上げる。

凄惨なる少年時代



貧民窟で育った少年マクギリスは、ギャラルホルンのアザリド家当主イズナリオに拾われる。やがてその知性と力を認められ、「妾の子」という名目で継取りとして同家に迎えられた。そして、ここでカルタ・イシュエとガエリオ・ボードウィンに出会い、幼い頃から共に過ごすことになる。この時点で少年に恐るべき野心があることに気づいた者は少なかった。

火星での邂逅



桜・ブレッツェルの農場へ手伝いに来ていた三月月・オーガスたちは、ギャラルホルン監査局の特務三佐となったマクギリスと運命的な出合いを果たす。内に秘めた野望を押し隠し、同僚のガエリオと偽りの友情を育んでいたマクギリスは、貧困の底から自らの力のみで登り上がったという鉄華団の底に衝撃を受ける。それは、マクギリスが思い描いていた理想の強さであった。



革命の騎士団



団長オルガ・イツカに率えられる鉄華団の快進撃は続く。ギャラルホルンや宇宙海賊の妨害を跳ね返し、大会要タイワズに認められ、その傘下に入ることに。中でもガンダム・バルバトスを自在に操る三月月の戦術力は凄まじく、不利な戦いを勝利に導いてきた。そんな彼らから、植民地で育てられてきた人々は、革命の乙女を守る騎士団として英雄視するようになっていった。

仮面の下で



地球に帰還してからのマクギリスの動きは目まぐるしい。ボードウィン家との養子縁組など義父イズナリオによるギャラルホルン内での勢力拡大に便乗する影で、隠蔽されていた阿頼耶識システムの研究も進行していく。これに関しては、自分がガンダム・バルバトスを起動することが目的であった。さらに仮面の男モントークを名乗り、苦境に立つ鉄華団へ援助の手も差し伸べている。

彼らが目指す場所



地球に到達した鉄華団はターデリアの交渉相手、帝衛・高麗ノ介をアープラウ代表に返り咲かせるためにエンドモントンへ向かう。そこまでのギャラルホルンとの激戦りの中、多くの仲間を失いながらも、彼らは「家族」としての結束を高めていく。敵、阿頼耶識システム搭載のグレイズ・アインを避け、勝利をもぎ取るも、彼らの歩む先には、戦いがつきまとい続ける……。

解き放たれた野心



鉄華団が地球に到達してから、マクギリスの暗躍はさらに加速する。鉄華団に敗退を続けるカルタをそそのかし、バルバトスとの決闘で死に追いやる。さらにエンドモントンでは、自らモビルスーツを駆り、ガエリオの前に立ち塞がり、これを倒す。鉄華団の勝利の後、アープラウ代表候補であったアンリ・フリーユ議員との権争を繰くことでイズナリオを失脚させる。自らを愛した者を捨て駒とし、マクギリスの野望は続く。

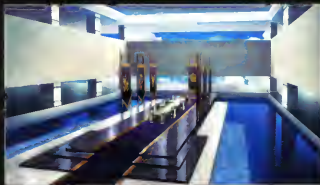
第26話 新しい血



チャールズ・ホルンの軍用兵器により、世界は勢力を失い、治安は悪化。また、鉄軍団の活動で少年兵の有用性が示され、身寄りの無い子供が組織へ投入される結果となった。



戦力としてのモビルスーツの重要性も再認識され、各地で旧連戦時代のモビルスーツの復元と整備が進みモビルスーツの数は爆発的に伸びている。



マクギリスはファリド軍閥主となり、さらに地球外縁軌道軌道統合艦隊の司令に就任。艦隊の組織を改編し、地球上の各経済圏との新たな関係をも構築しようとしている。



さらにマクギリスは、火曜連出を申し出る。新連出時代の自らの表層により火曜主部が活性化し、そのため新連出区域が海軍艦隊などの新軍により無法地帯と化しているというのだ。



マクギリスの火曜への干渉が、自らの艦隊の戦域を侵すことを平和と見たリオン。だが、この時点ですでにマクギリスの野心は見抜かれていたのだ。

クーデリアの人氣にあやかうときまとう思想家アリウム・ギョウジャン。極端のハーメタル保護政策等の提議について動いていた彼を助けたクーデリアは鉄軍団の活動を開始する。



自分になびかぬクーデリアはアリウムにとって邪魔者でしかなかった。彼は、宇宙海賊「夜明けの地平線」を金で雇い、クーデリア抹殺を依頼する。



新団員を大量に招き入れ、ティウス製モビルスーツも拡充。さらにアーブラウの軍事顧問となり地球にも進出する鉄軍団。誰もがその勢力を畏れ企て成長した。

KEYWORD

◆アドモス商会

クーデリアが設立した企業。ティウスと提携して火星のアーブラウ連のハーメタルの一次加工と流通を一手に引き受け、鉄軍団と協力して旧連戦や小学校の設立にも力を入れている。アドモスはクーデリアのかつての恋人であったフミタン・アドモスの姓から取られている。

◆革命の乙女

火星独立運動の中心人物であるクーデリアをいつしか人々々は「革命の乙女」と呼ぶようになった。アドモス商会の旗に描かれているのは、「HISTORY OF REVOLUTION」という本に掲載されていたもので、クーデリアとフミタンの抱擁の一枚である。

◆アキスの七月会議

火星の独立運動家の集會。クーデリアが登壇し、その演説が今まで敵対であった運動家たちにひとつの方向性を見出させ、会議は大成功を収めたという。テラ・リパリオニスの代表アリウムはクーデリアを賛賞させた人物でもあった。

◆鉄軍団の悪魔

ガンダム・バルバトスを駆り、鬼神の如き戦士と見せつけてきた三月月に敵が付け二つ。鉄軍団内はもちろぬ。敵対するギャラルホルンや宇宙海賊などの組織にも三月月の実力は知れ渡っており、彼を倒してを上げようとする輩もいるようだ。



撤退時の鉄華団は、その前身であるCGS本部をそのまま使用していたが、地球での活動で名を上げた後は、多くの改修を行なっている。タイワズより新たに複数のモビルスーツを調達、そのための格納庫とエンペーターが増設された。かつて少年兵は屋外で簡素な屋根を設けたスペースで食事をとっていたが、その食堂も拡充され、衣食住の空間は見違えるほどに整えられている。

◆鉄華団火星本部

団長室



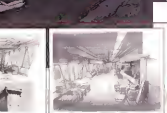
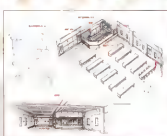
モビルスーツ格納庫



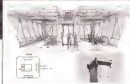
モビルワーカー格納庫



新食堂



監視塔・ロビー内部



第27話 嫉心の渦中で



バルバトスルプスの登場によって夜明けの地平線団は撤退した。だが、それは宇宙海賊に打倒・鉄拳団の念をつのらせるだけであった。そんな折、マクギリスはギャラルホルンからの正式な依頼として、鉄拳団へ夜明けの地平線団討伐を依頼する。ティワズの許しも得て、ギャラルホルンの支援を受けることになり意気上がる鉄拳団。だが、同じ頃、仮面の男ウィダールの示唆により、アリアンロッドのイオク・クジャンの艦隊も地平線団討伐に向けて出撃していた。

高空のシャトルより由緒降下し、夜明けの地平線団のモビルスーツ3機を撃破する。三日月のガンダム・バルバトスルプス。だが、無理を重ねたことがたたり、セツカクの故障も補修不全に。



KEYWORD

◆アプレット



元々はアトラ。ミクスが三日月とのベアアプレットとして作ったものだが、三人の絆を深めるため、新たにクーデリア用を作成。三日月が、アトラが、クーデリアが白である。



地平線団は、活動拠アリウムに全て集められ、クーデリア抹殺を掛け食っていたが、鉄拳団への怒りが鬱り、アリウムの言うことには耳を貸さない。

鉄拳団の動きを察するが如く、地平線団討伐を依頼するマクギリス。さらに部下の石松を支援に向かわせる手出しの良さを、これも火星での地盤固めを指摘してのことである。



地平線団は3隻のみ残る。動力を切った7隻を撃破することでエイハブ・ウェーブの数を減らす。サンドバルは力押しだけでなく謀士でもあった。

第28話 夜明け前の戦い



鉄拳団はオノミラーザップを脱出した。彼の目を夜襲。さらにイザリ、ホタルビを同僚形態で一気に捕縛するユージン・セブンスタークの技が冴え、総艦隊の背後に食らいつく。



新たに出現したアリアンロッド艦隊。攻撃を受けた地平線団は撤退を要請。艦隊を逃がすためにサンドバルは自らモビルスーツ・ユゴを犠牲に、前線へと躍り出る。



アリアンロッド艦隊からは、ジュリエッタ・ジュリスとイオクのレギンレイズを中核としたモビルスーツ隊が出撃。サンドバルの首を断って鉄拳団との争奪戦が開始される。

かつての敵であったギャラルホルン先行艦1隻と合流、3隻の陣を組む鉄拳団。狙うは、地平線団の首魁サンドバル・ロイターが乗る旗艦である。だが、当初3隻と思われていた敵艦隊は、すでに全10隻を揃え、待ち伏せをしていた。圧倒的な戦力差にも関わらず、得意の奇襲で敵艦隊の背後に回り込んだ鉄拳団は、持久戦へと持ち込むことに成功した。だが、そこへイオクの艦隊5隻が乱入。戦いは、三つ巴の様相を呈し、混迷を極める。

Turning Point



仮面の男ウィダールことガエリオ・ボードウィン、エドモントンでの戦いでマクギリスに討たれた直は、ラスタルのもとで保護されていた。ラスタルは、この時点ですでにマクギリスと鉄拳団の繋がりを察知していたようである。

KEYWORD

◆弁当とバグ

補給のために派遣した三日月たちのために弁当を運ぶアトラが使用。持久戦ではモビルスーツだけでなく、パイロットへの補給体制も重要なカギとなるのだ。



混戦の中、三日月のバルバトスルプスの活躍により夜明けの地平線国国民サンドバルは鉄華団の元に落ちた。さらに鉄華団は海賊団と裏で繋がっていた活動家アリウムを制裁し、かかる火の粉を振り払った。これら一連の迅速な動きの影にはマクギリスの影響力があったことは言うまでも無い。この件を機に鉄華団はマクギリスと提携、アリアンロッド艦隊司令ラスタルを共通の敵として見据えることとなる。

アリアンロッド艦隊ジョリエッタとの争奪戦を制して、ついに三日月のバルバトスルプスは、サンドバルのキビルスーツ・ユーゴを撃破。地平線国は事実上壊滅した。



捕縛されたサンドバルは、新参の鉄華団を妬み、狙う者はこれからも現われ続ける、と言い放つ。この言葉は、まさに今後の鉄華団の運命を予告するものであった。



火災に陥った鉄華団は、今朝の火難ともいえるアリウムを攻撃。同時にテラ・リベリオスもギャラルホルンによって拘束され、事件は遂やかに処理された。

Timeline Point



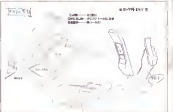
海賊討伐で名を上げたアリウム・ウマード・バリス頓より新機種のハーブメタル格闘機の運用を任されることに。だが、この件は、ジャスレイド・ニコルスの拘束を買ったこととなり、その後の悲劇の引き金となる。



◆オフィスの電話

企業や団体の多くが使っている電話。タッチパネル式で受話器は利便式で伸縮自在となっている。アリウムが使っていたのもこのタイプである。

KEYWORD



KEYWORD

◆新桜農場

グリオン兄妹の祖母、桜の経営する農場。CGS時代から鉄華団とは思慮であり。現在は従機関係にある。敷地内にはアドモス商会が運営する孤児院や三日月専用の農園も設けられている。



▲寄居舎



◆鉄華団地球支部

アープラウの軍事顧問となった鉄華団の出先機関。チャド・チャダーンが主役を務めるが、実質運営はレイクスから派遣された販売員ライオン・リットが行っている。かつてエドモントンの戦いで拠点となった駅舎を改修して使用。モビルスーツ格納庫も2棟増設され、火星本部からの新機輸入を待ち受けている。





アーブラウ防衛軍発足式典の当日風景。会場である議事堂の前には、モビルワーカー隊が並ぶ。また会場周辺には警備のため防衛軍と新軍団が配備されている。

地球内外各地でギャラルホルンに頼らず独立した軍事組織を作る動きが盛んになっている。その先駆ともいえるのがアーブラウによる鉄軍団の軍事顧問招聘であった。だが、鉄軍団の少年兵と正規軍の大人たちとの関係は決して上々とは言えなかった。さらに宇宙海賊・夜明けの竜平組討伐に失敗したラスタルは、次手として、この地に新たな火種を蒔く。それは、毒苗に対する爆弾テロという形で開始された。



地球支部は、チャドを中心に、タカキ・ウノ、宇宙海賊ブルフーズから解放されたアストン・アルトランドなどが盛を極めていく。



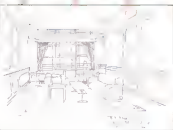
式典直前、毒苗の隠え窟に跡の花瓶が置かれている。いち早く真実を知ったチャドは身を削って毒苗を庇うが、ふたりとも意識不明の重傷を貰ってしまう。



火原本郎との連絡が途絶する中、軍事上の数軍団地球支部リーダーとなったタカキ。彼の前に軍事顧問をも乗るガラン・モッサが現れる。波こそ、この騒動の仕掛け人なのだ。



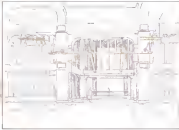
連絡途絶の地球支部を苦しめた火原本郎は、モビルスーツ部隊の機入予定を断絶す。ユージン、三日月、朝弘・アルトランドなどの主力に加え、毒苗の身を案ずるクーデリアも地球へ向かう。



配膳室▲



◀通り廊下

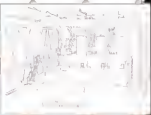


入り口ホール▶

事務室▼▶



モビルスーツ格納庫▼▶



◆アープラウ・SAU紛争

ラスタルとマクギリスの勢力闘争を起因とする仕組まれた紛争。高価を狙った爆発テロ事件を発端にアープラウとSAUは険悪な状況に陥る。アープラウ側は一方的に外交チャンネルを開くが、同経済圏の境界地帯パルフォー平原に屯陣。SAUは地球外縁軌道統制統合艦隊に調停を依頼するが、SAU偵察機隊を先陣に両軍はついに戦闘状態に突入した。



式典当日、議事堂で起きた爆発事件。これにより被害者を出したアープラウは混乱。



窮乏状態の境界地帯付近、SAU側の偵察機が、アープラウ側のモビルスーツに搭載されたエイハブ・リアクターの干渉を受けて墜落。この事故を契機に両軍は戦闘状態に突入してしまう。



SAU側から調停を依頼された地球外縁軌道統制統合艦隊も派遣部隊を投入して、一気に事態を収束させようとしたが、アープラウの攻撃隊の奮戦も手伝い、膠着状態に陥ってしまう。



アープラウ、SAU両軍ともに実戦経験の無い若者集の部隊。だが、度一経験豊富な機動力に勝る鉄華団をラスタルの密使がガンガ巧みに操り、紛争を激化に長期化させていく。

第31話 無音の戦争



火星周辺の衛星防衛計画でマクギリスに不意を喰ったラスタル。だが、今度はマクギリスの本拠である地球圏内で紛争を起こすことで両軍の力を削いでいく。



初の経済圏同士の武力衝突に、世界中が注目する中、すでに半月が経過していた。調停を依頼されたマクギリスは、現状を打開するために自らモビルスーツに乗り、前線へと赴く。

ラスタルが放った傭兵ガンは、荷面とチャドが意識不明となり、火星本部とも連絡が取れない鉄華団を巧みに操り、紛争を見事な膠着状態に陥らせた。地球で起こった紛争の調停は地球外縁軌道統制統合艦隊の職務の範疇である。衆人環視の中、紛争を長引かせマクギリスの権威を失墜させるのが、ラスタルの真の狙いである。そんな大人の政略に利用されたタカキやアストンら鉄華団の少年たちは、先の見えぬ戦いに日に日に消耗していくだけであった。



火星から3週間、ようやく地球圏に到達した超長距離エンジン駆る鉄華団。だが、アープラウは非常事態宣言を理由に鉄華団のシャトル着陸を許可しない。

◆鉄華団の食事



かつてのCGS時代は大人たちに比べて貧しい食事をとっていた鉄華団の少年たち。そのせい経験からか、本部改修の際には食堂を建設するなど、この食事に関しては気を遣っているようだ。

◆汎用タブレット



軍事関係から一般事業まで、あらゆるシチュエーションで使われている多目的端末。これはタカキの妹フカ・ウメのタブレットで、学校の勉強などで使っている。

第32話 友よ



自らグレイスリッターに搭乗したマカギリスを襲撃した女性とアストンを助けた。マカギリスといえども阿蘭摩摩システムによる2機のモビルスーツ相手では苦戦を強いられる。



激戦の末、マカギリスはアストンを死に至らしめてしまう。火星の鉄軍団本部の到着により、ようやく連年の戦争は終わりを迎えるが、その犠牲はあまりにも大きかった。

KEYWORD

◆アグニカ・カイル

厄戦艦を結核に導き、ギャラルホルンを創設した部族の人物。三日月に野地を放つたマカギリスは、その地にアグニカの魂を見たという。故郷からマカギリス自身の心の支えであり、別送すべき妻であるらしい。



◆鉄軍団野営地

戦争勃発当初より鉄軍団は国境地点に拠点を張り、戦の動きに合わせて遊撃戦を展開していた。周囲にはモビルスーツやモビルワーカーが常時出撃態勢で待機している。だが、長期に及ぶ戦のため兵は疲弊している。

戦争勃発から、すでに1ヶ月が経過していた。事態を打開すべく前線に赴いたマカギリスだったが、ガランの策にはまり窮地に立つ。危機を救ったのは三日月のバルバトスであった。周囲からアップラウ発着場を諒め、SAU経由で迂回路を取ったのである。撤退したガランだが、地球支部の内通者ラディエルの自白により、逃げ場所を鉄軍団に強要され、あえなく長期を逃げる。幾多の犠牲と共に仕組まれた戦争は終焉を迎えた。

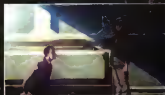


作戦失敗と見るや、部下と共に戦線を離脱するガラン。また、傭兵としており経路に欠けつらかったが、一時避難場所を鉄軍団に強要され、逃げ場所を諒められた。



窮乏を悟ったガランは乗機ゲイルと共に自爆。すべてのデータは機体のソフトウェアで管理していたため、事件の真相を解き明かすことはほぼ不可能となる。

ガランと結託していた高切り者アップラウを創設し、自らにけじめをつけたマカギリス。だが、これを機にタカキは鉄軍団内情を決定することとなる。



第33話 火星の王



KEYWORD

◆バエル

アグニカが乗機としたガンダム・フリームMSであり、ギャラルホルンの乗機士バエルズ。マカギリスがファッド家に引き取られて居るという噂。ラスタルと対面、「何か欲しいものは？」と問われた際、その名を発した。

アップラウ・SAU戦争終結から1ヶ月後。多くの犠牲を払ったにも関わらず、鉄軍団は地球からの撤退を余儀なくされる。これはあまりにも急激に成長しすぎた組織の綻びの表出でもあった。一方、マカギリスは、今回の一連の事件がラスタルの策し金であることを確信、全面対決が近いことを予期する。彼は、鉄軍団との共闘を強く要求すると共に、ギャラルホルン掌握の晩には、火星支部の全権限を譲渡することを約束する。

地球支部撤退の手続きのためアップラウを助けていたオルガをマカギリスが助ける。共通の敵ラスタルとの全面対決に備えて、さらなる同盟関係を結ぶことを提案する。



一方、クーデリアは入院中の病室を訪ねる。自らの辛い境遇、クーデリアに依頼者として地球戦況を希望するが、彼女には火星で果たさねばならぬ使命があった。

Turning Point



「家業」である鉄軍団を母国に帰還へと導きたいオルガにとって地球戦況は重要であった。そこへ持ちかけられる「火星の王」。オルガはマカギリスと共に、さらに進んでいくことを決める。

第34話 ヴィダール立つ



タイワズ幹部会議の席上、タービンの名義、タービンはジャスレイの糾弾を受ける。だが、火屋宣道の特占を期待するマクマードは、鉄華団の惨状を看過することでその場を収めるが……



さらに拡大する鉄華団を支援するためクーデリアは、アドム商会として父屋の家系ノブリス・ゴルドンに道義融資を申し出る。その裏人との取引はクーデリアの心を痛くする。



ヴィダールは、サーベルによる一挙反乱戦法を駆使し、瞬く間にコロニー暴動集団のモビルスーツを撃破していった。

マクギリスと本格的な共闘を決意した鉄華団は、火屋での座組みを進めていく。だが、この密約はタイワズの幹部たちに大きな波紋を呼ぶ。特に以前から鉄華団とタービンを快く思っていないジャスレイの反応は厳しく、結果的にマクマードの計りは得るものの前途は多難が予想された。一方、日々激化するコロニー暴動を鎮圧すべく、ヴィダールに出撃命令が下る。その任務は、エースパイロット・ジュリエッタをも愁らせるものであった。

KEYWORD

◆ドルトの一件

ドルトカンパニーの管理下にあったコロニー群では、労働者階級の特遇は劣悪で不満がくすぶっていた。そこへ、地球を目指していた革命の乙女クーデリアと美徳である鉄華団が立ち寄ったことにより、一部過激派が蜂起。コロニー全体を巻き込む暴動へと発展した。これを契機として、その後も各地で暴動は続いている。



◆THE LIFE OF AGNIKA KAIERU

マクギリスの座右の書。ギャルホルン創始者アグニカの傳記を称えた伝記である。フリド家に引き取られて間もなく、この本を懐かし手にしたアグニカは、アグニカの絶対的な力と、彼が実現しようとした自由競争社会に傾倒する。その後のマクギリスの行動原理を決定づけたと言っても過言ではない。

第35話 目覚めし厄祭

鉄華団を招くジャスレイは、その監視を強化し、自らもギャラルホルンに取り入ろうと暗躍する。タイワズから管理運営を譲渡されたハーフメタル採掘所から出土した大型メカは、厄祭の元凶でもあったモビルアーマーと判明する。この事態に早急に対処すべく現場に向かう鉄華団とマクギリス。だが、この動きはジャスレイを通じて、アリアンロッドの面々にも知られるところとなっていた。



ハーフメタル採掘現場を訪れたマクギリス一行の前にイオウのモビルスーツ群が立ち塞がる。だが、そのエイハブ・ウェーブに反応し、モビルアーマーが起動してしまう……



鉄華団を監視するジャスレイは、発掘された巨大メカの件で鉄華団とマクギリスが紛争渦に巻き込まれることを防ぐ。この情報は旧知のクジャン家へと送られる。



成程で調査中の巨大メカのサブユニットについて鉄華団はマクギリスに調査を依頼する。マクギリスは、これら一連のメカ群をモビルアーマーであると判断する。

KEYWORD

◆JPTトラスト

ジャスレイが経営するタイワズ連系の商社。旗艦「黄金のジャスレイ」を中核に独自の権限も所掌する大企業である。かつて、イオウの父の代に没落があり、ジャスレイは、そのツタを最大限に利用してアリアンロッドとのパイプを構築しようとした。

◆モビルアーマー

食糧製造人形として開発されたが、その後、人間の無差別殺戮兵器として。その人口の4分の1を死に至らしめ、厄祭戦の総動員となった。実態とも異なるモビルスーツには無敵に見え、コックピットを集中的に撃つてくる。

◆七星勲章

厄祭でモビルアーマーを倒した勇者にだけ与えられる最高の称号。セブンスターズの虎次は七星勲章の故で決まったといわれている。ヴィダールは、マクギリスの若い同僚である虎次と見たが、これは早計であった。

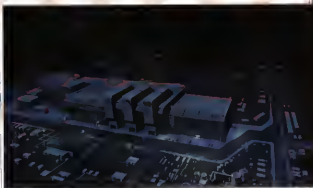
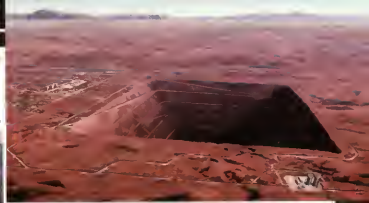
KEYWORD

◆ハーフメタル採掘場

火星で産出される希少金属ハーフメタルは、エイハブ・ウェーブによる電流障害を誘う特性を有しており、電子機器の保護には必須の素材である。採掘場には巨大な相関穴が穿たれ、その付近には処理施設が併設されている。



プラント&オフィス棟▶▶



第36話 穢れた翼



イオクのモビルスーツ隊の不用意な接近により巨大モビルアーマー・ハッシュマルが約300年の眠りから覚醒した。かつて数億の人間を抹殺したという自動殺戮兵器は、イオク隊を一蹴すると、さらなる稼働を求めて移動を開始。それは鉄拳国の拠点でもあるクリュセであった。鉄拳国はクリュセに通ずる渓谷地帯でハッシュマルを待ち伏せる。だが、部下の復讐に燃えるイオクの一騎がハッシュマルの退路を変えさせてしまい、農業プラントが犠牲となる。

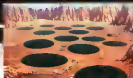


復活したモビルアーマーは生物のような滑らかな質感でモビルスーツ隊を襲撃。その動きは「地球で見た鳥のよう」と三日目さえ驚かすものであった。

新たに七層軌道への興味も増したマクギリス。モビルアーマーとの決戦に臨み途中、ヴィーデルと遭遇してしまう。



補給と作戦を担うブルーマ郡がいる隣り、ハッシュマルは半永久的に稼働を繰り返す。



◆農業プラント

渓谷の南側に位置し、土壌開発中の円形緑化農地を中心に収穫加工プラントと居住区から成るハッシュマルによるドーム型の一翼によって住民もうろとを構築しています。



鉄拳国はクリュセに続く渓谷地帯をモビルアーマーとの決戦場にした。

KEYWORD



第37話 クリュセ防衛戦



火星で運命の再会を果たしたふたりの男。復讐を誓いながらも冷静に戦いを回避するヴィイダール。だが、その意図と所作にマクギリスはある部分の生存を予測する。



天敵モビルアーマーを熟知したガンダム・フレームは出力を全開攻撃となるが、その反面、阿摩明眼はハイロットを保護するためにリミッターをかける。そのためバルバトスとグシオンは機能不全に。

Turning Point

投入されたフラウロスの兵器機能は、本来、禁止兵器ダイナミクスを発射するグレイゾーンの設定である。後にこの件をギャラルホルンによって逆手に取られることとなる。



KEYWORD

◆鉄華団野戦司令部



モビルアーマーのクリュセ侵攻を防ぐために深谷に設置。鉄華団ラインとの連携を要する。だが、目まぐるしく変化する戦況に警戒を強られる。

深谷を埋没させ、ハッシュマルとブルーマスを分断させる作戦は最終を極めた。モビルアーマーに対してガンダム・フレームはリミッターが掛かり使用不能。さらにイオクの無敵な攻撃によってハッシュマルの高度が上がり、足止めのための防衛ラインは突破されてしまう。だが、投入されたフラウロスのレールガンが深谷を崩し、分断作戦は辛うじて成功する。孤立したハッシュマルの前にリミッターを解除したバルバトスブルースが立ち塞がる。



マクギリスと敵軍の立場を覆くためには、何としてもハッシュマルを倒さなければならぬ。危機を察してリミッターを解除した三日目のバルバトスブルースが再び。



一度は、七聖勅令を一笑に伏したマクギリスであったが、モビルアーマー軍治の爆光に統しきらずに立ち向かう。だが、彼の能力は彼の感情をはかりに運いでいた。



マクギリスを結成し、ラスタルに七聖勅令をもらすべく機組に駆けつけたジュリエッタだが、そこでバルバトスとハッシュマルの人間を思えない戦いを見せつけられることに。

第38話 天使を狩る者

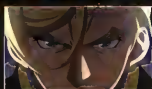
リミッターを解除したバルバトスは、鬼神の如き機動性で、モビルアーマーを乗り去った。だが、その代償は大きく、バルバトスブルースは火災、三日後も右半身の自由を失ってしまう。一方、マクギリスも火星で運命の再会を果たす。かつて自らの手で殺めたガリエオである、という確信を得るに至った。今朝の一件に納得のいかないイオクは、名譽挽回のため、事もあろうに自らジャスレイへの投訴を試みる。



自分では移動することもできない三日目だが、特に気にしてはいない。阿摩明眼に接触すれば、本来の動きを取り戻し、バルバトスを乗換えることが可能となる。



激戦の中、メイスを失い、機組のバルバトスブルース。だが、石動・カミチエのヘルムヴィーゲ・リンカーからヴァルキューリアスターソードを奪い取る。ハッシュマルの機組を乗換し、決戦をつける。



アリアンロッド艦隊との戦いの前に、デイズに連絡をかける。話を済ませる。マクマードは話を聞き、面切けは整えないと念を押すのだった。



火星での運命でガリエオの生存を確認したマクギリス。ラスタルが、その切り札を使うことを予想しつつ、それを仏恥出来るような「本物の伝説」を手に入ると決意する。

マクギリスの野心を察知しないラスタルを乗換するイオクだったが、冷静さを欠くその行動を容れられなくなる。だが、この一件でイオクはさらに進めることとなる。

第39話 助言

鉄軍団への警戒心を
募らせるイオクには、
巨艦たちの言葉も耳
に入らず、ジャスレ
イと手を組む意を決
して見よう。



ジャスレイは言葉巧みに
イオクをれめ込み、鉄軍
団とタービンを主とめ
て亡き者にする策略を遂
行す。

イオクのタービンを捕獲
はアリアンロッド艦隊の
艦隊内の行動であり、マ
クギリスも争がでない
だが、革命の時が来たこ
とを悟り、すべての同志
への連絡を決意する。



イオクによるタービンを奪取取り組みが開始された。秘密
艦隊や看板すら出ていない事務所まで及んだ驚愕したもの
であった。その捜査の中で、貨物船より禁止兵器ダインス
レイヴが発見される。火星で鉄軍団のフラウロス用に使用した
弾頭をタービンを手配したとされたが、これはジャスレイ
の手引きによるでっち上げの捜査であった。違法組織として
孤立した名流たちに危機が迫る。



ギャラル小川の平穏しの良から、ティウス内閣に内通者がいると見抜くも、
救援を申し出るオルガに、鉄軍団の介入は敵の思う役と手出し難用を言い渡す。

KEYWORD

◆タービンの結成

フリーの運び屋だった名流はアミタ・アルカと
共に苦境に立つ女性新送業者をまとめ上げる。
ティウス傘下に入ってから、輸送網を拡充
構成費5万の巨大船艦タービンを作り上げる。



◆ダインスレイヴ

ナノミネットアーマーすら貫く凄絶な破壊
力から使用・保有が禁止されている大型弾頭
この兵器が、その後の戦況を大きく変えてい
く

第40話 燃ゆる太陽に照らされて



タービンの艦隊に
必要以上の大部隊
で進むイオク。ハン
マーヘッドの重
なる機体番号を
無視して、奇襲な
攻撃を繰り返す。



さらに譲渡理由の
禁兵器ダインス
レイヴを使用し、
非武装の輸送船ま
で狙い撃つ。その
無行が、その後の
状況に大きな転機
を授けようとする。



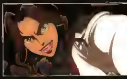
駆けつけた鉄軍団
に敵艦であるター
ビンを任せ、ひと
りハンマーヘッ
ドを奪り、イオク
の艦隊へ向けて突
撃をかける名流。
戦艦一隻を捕獲し
に臨戦する。

違法組織の汚名を着せられ、孤立させられたタービンはイオクの艦隊が迫
る。怒り騒ぎを恐れてティウス本隊も手が出せない。イオクは、停戦信号も
降伏信号も無視し、あろうことか禁止兵器ダインスレイヴで民間輸送船を攻
撃する非道ぶりである。鉄軍団はモビルスーツの運用試験中と偽り、グンシ
オンリベイクフルシティ、フラウロス、雷電号を派遣、タービンの逃走を援
護する。仲間同士の裏切りとなり、名流とアミダは艦隊に特攻、散華した。

KEYWORD

◆タービンの中継基地

アリアドネ艦隊外にある
小惑星をそのまま利
用しており、300メー
トル級の宇宙船を擁
護する。中継基地を
入居し、食料、居住設
備などが設置されてい
る。



新機体レギンレイス、ジェリアで出陣
したジョリエッタだったが、アミダの
百練の艦に急す捕が難い。機体の性能
差を警告パイロットの苦闘の差を突き
つけられる。



第41話 人として当たり前の



名瀬とアミダの群像。道徳は即収めず、あの機の前で語るタービンスと鉄軍団。ジャスレイは、ここでも鉄軍団を擁護してくるが、彼らはひたすら耐える。



鉄軍団が名瀬の若い会話を盗める中で、マクギリスは配下のライザ・エンザをリザーブとする革命軍の青年将校たちを招請する。

車庫用ヤとラスタルに降臨するイオウであったが、本部から持ち出されたダンスレイウの件をマクギリスが調査していると告げられ、逆に自責を促される。



ラフタ島で爆発騒動の跡が叫びだした鉄軍団。ジャスレイと戦うことはディウスを離れることを意味する。そんな鉄軍団にマクギリスは道義共同体として支度を断れることを約束する。

KEYWORD

◆BEAR FACTORY

倉庫内にあるクマのぬいぐるみ専門店。買い入れのために買ったアソーグルミンを待つためにラフタが立ち寄った。船底を思わせる表情のクマを見つけたところで鉄軍団を交えてしまう。



第42話 落とし前



新で圧倒的に上回るジャスレイ降参であったが、敵々の死傷をくくり付けてきた鉄軍団の勢ではない。怒りのバルバトスルプスレグが黄金のジャスレイ号艦橋前に降り立つ。



ジャスレイのディウス奪取計画は、すでにマクマードの知るどころとなっており、イオウ艦隊も現れない。バルバトスの巨大メイスが艦橋ごとジャスレイを叩き潰す。

圧倒的な鉄軍団の機動力の前に防戦一方のジャスレイ降参。頼みの綱であったイオウの艦隊は現れず、ジャスレイはマクマードに仲介を頼み込む。だが、すでにマクマードはラスタルと裏取引をしており、ジャスレイは完全に孤立した。オルガに命令をしようとするも、聞き入れられるわけもなく、バルバトスルプスレグに艦橋ごと封鎖される。同じ頃、マクギリス配下のライザたちが、ラスタル以下アリアンロッド艦隊の閉鎖を暴発し、革命の旗幟を上げていた。



革命軍のライザは、アープラウ・SAU 降参、イオウによるタービンスへの暴発、鉄軍団など、ラスタルおよびアリアンロッド艦隊の汚染を次々と暴発し、同市民の暴発を促した。

火車のクーデリアを盗むメリビット・ステープルトンは、鉄軍団とアドムス連合との連携網を叩き出す。鉄軍団はディウスを離れ、アリアンロッドとの全面戦争参戦を決意したのである。



マクマードはタービンス輸送艦隊の仲は問わない。約4年、遠征兵隊出陣の作を遂行するとする取引をラスタルと結んでいた。

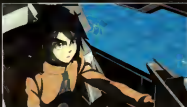
第43話 たどりついた真意



革命軍によってギアールホルンの地球本部ヴィン・ゴールヴは制圧され、セブンスターズのボードウィン、バカラザン、ファルクの三家も閉塞されてしまう。



ついに真面を取り、素顔を示したガエリオ。マクギリスの真意が真神な力の源泉であることを見抜き、いち早くバエルの祭壇にやって来たのだ。



マクギリスの救援にバルバトスが現われる。だが、アイン・ダルトンの機をベースにした同僚型 TypeE の機動性は、三日月のそれと、まさに互角であった。

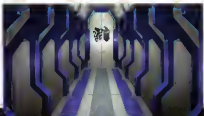
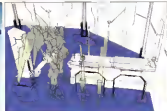


アインの実験データを元に、自らに同僚型機を改造していたマクギリス。アグニカの機が落ちとされる、バエルを捕る者こそが、ギアールホルンの頂点に立つのだと宣言する。

バルバトスと TypeE の機動性を比べたヴィンダーだったが、バエルがマクギリスの手に落ちたことを確認するや、撤退する。

KEYWORD

◆バエルの祭壇



ヴィン・ゴールヴの地下にある格納庫。アグニカのバエルおよびセブンスターズ各家のガンダム・フレームを保管。ボートウィン家とバカラザン家のガンダム・フレームは不在となっている。

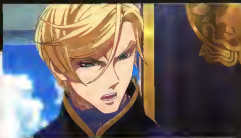
◀祭壇への通路

第44話 魂を手にした男

ヴィダールという仮面を脱ぎ去ったガエリオは、マクギリスを逆賊と言い放つ。“アダニカ・カイエル”の威光を笠に着るマクギリスは、ギャラルホルンの地球上の戦力全てを動員するようボードウィン、バクラザン、ファルクの三家当主に強要する。だが、三家はあくまで中立の立場を固持。結果、鉄軍団とマクギリスは、2倍以上の戦力を持つアリアンロッド艦隊と対決せざるを得なくなってしまった。

Turning Point

ギャラルホルンの海軍、バエルと手中に収めれば、全軍がほろろと思いついていたマクギリス。結果は事実上の孤立。アダニカもバエルも、すでにおとぎ話に過ぎなかったのさ……



中立を宣言する3家。強敵こそあれどネモ、バクラザンもまた、アダニカの用意など信じていなかった。



マクギリスの語りの音で、鉄軍団は前面に押し出されることに、オルガは激怒する。



ガエリオを生きた人間に、遂にマクギリスの真実を暴露するラスタル。もはや戦局は不可逆。

第45話 これが最後なら



戦況は数で勝るアリアンロッド艦隊有利の中で進められた。頼みの鉄軍団もジュリエッタのセピルススーツ隊により、封じ込められてしまう。さらにラスタルは、革命軍に潜伏中のスパイに自軍に向かってダインスレイヴを打ち込ませ、公然としかも大量の報復攻撃を仕掛ける。これにより革命軍は事実上壊滅、鉄軍団も多大な被害を受けてしまう。フラウロスによる決死の旗艦狙撃も失敗し、さしもの鉄軍団も万策尽き果てる。

アリアンロッド艦隊は、練度の高いライザの革命軍艦隊に火力を集中させ、まずは敵戦力の分析を図る。マクギリス軍は限られた戦力を徐々に磨り取られていった。



ラスタルの老練な策に終く、革命軍の中に間者を忍び込ませ、自軍に禁止兵器ダインスレイヴを打ち込ませたのである。忠実なる間者は即座に自決し、事実上隠蔽された。



禁止兵器の先制攻撃を受けたとし、公明正大にダインスレイヴの駆除演習を敢行するアリアンロッド艦隊。この狡猾な自作自演により、マクギリス軍は絶体絶命となる。



艦隊を立て直すべくマクギリスは自らガンダム・バエルで先頭に立つ。だが、敵方の士気は上がったものの、戦局を覆せるものではなかった。



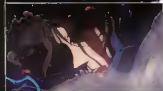
Turning Point

大破したホタルビロの中にノルバ・シノの降参するガンダム、フラウロスを抑えさせる。ラスタルの乗る旗艦にダインスレイヴによる長距離狙撃を敢行。だが、ジュリエッタによる必死の迎撃で惜しくも失敗に終わる。この一撃が決まっていれば、戦局はかたまり変わっていたかもしれない。

第46話

誰が為

圧倒的なラスタルの前に、マクギリスと鉄華団はナノミラーチャプに勝てて逃亡するしかなかった。戦力の半数を撃破され、残存部隊も混乱状態。それでもなお、ホームグラウンドである火星に逃げ延びることで勝機はあると確信マクギリス。アリアンロッドの補給線は伸び、火星支部の戦力も加えれば、鉄華団にも逆襲のチャンスはあるというのだ。そんな、彼らの望みを打ち砕くかのように、火星支部の新江・プロト支部長が火星入港を拒否する。



ガレリオのキマリスヴィンダーの機体は、機体統合のマクギリス。身を挺してマクギリスを救う石動。最終までマクギリスの理想を信じた石動は虚空に散った。



宇宙戦艦アリアンロッドから外れ、行方不明にさせたマクギリスと鉄華団。だが、ラスタルは「敵のメス」と命をみせる。逃亡場所が火星であることは、すでに発覚されていた。



「最後」の理想と信じた戦いに燃えた鉄華団。多くの命を失い、心身共に壊れた少年はおどろいた。すでに後戻りは許されなかった。

第47話

生け贄



ラスタルによりズナリオとの間に血縁が無いことも公表され、マクギリスの地球での立場は消失した。だが、新江は今のまでの悪戦として火星への降下を断固とする。



ラスタルに自らを差し出すことで団員の命をいやすオルガ。だがラスタルは、鉄華団をギャラルホルンの失地回復のための生け贄にするという。



新江の計らいで、何とか火星に降り立つことができた鉄華団だったが、すでにマクギリスの軍艦は到着、自分たちも犯罪組織として指名手配されていた。銀行口座も凍結、資金も物資も潰れた鉄華団。そんな彼らを徹底的に打ち滅ぼすことで、ギャラルホルンの権威を回復すると宣言するラスタル。鉄華団は地球のアーブラウへ置き、自分たちのIDを書き換えることで別人として生きていく道にすべてを賭ける。



マクギリスとの関係を清算することまで考慮する鉄華団。だが、すでにマクギリスは鉄華団として指名手配されてしまっていた。



ID書き換えに希望を見出す。すでに本部の周囲にはギャラルホルンのモビルスーツ隊が監視を張り巡らせていた。

第48話 約束



アリアンロッド艦隊は全メディアを通じて、ギャラルホルンの艦隊を撃つべく逆城マクギリスと彼に加担する武裝組織・鉄軍団への掃討作戦を行うことを宣言する。

厄祭戦時代の送電ケーブル用トンネルを復旧させることで地下からの脱出を図る鉄軍団。だが、それ以前に地球の赤道に連絡を取る必要があった。マクギリスのパエルが送電網を突破する際にクリュセへ車を走らせるオルガたち。赤道はIDの書き換えを依頼。さらにアジーたちが地球までの軌路を確保してくれるという。かつての仲間たちの協力を得て、生き延びる道が見えた、その時、ノブリス配下の鉄軍がオルガを襲う。



白らうラスタルを討つべく、鉄軍団本部を襲うマクギリス。ギャラルホルンの一般兵程度ではマクギリスに太刀打ちできず、隙なく巴里戦を突破するガンダム・パエル。



幼い時から三日月が携帯していた拳銃。オルガを守り、オルガの敵を排除し続けてきた。自分がついていくことができない三日月は、自分の拳銃をオルガに託すが、その命を守ることはできなかった。



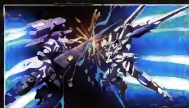
地震の高波とも連絡が付き、艦隊も確保した。軍艦につくオルガをノブリス配下の鉄軍が襲う。その最前まで立ち止まらず、進み続ける。

第49話 マクギリス・ファイト



旧軍であるオルガを失い、ある者は戦死にまわるとする。混乱する鉄軍団をまとめたのは、三日月だった。悲劇の命令を奉じ、生き残るための戦いが開始される。

地球までの軌路と到着後のID書き換え。鉄軍団の生き残りの手段を指示し、旧軍オルガは散った。その意志を継ぐべく鉄軍団は進み続けることを決める。ギャラルホルンの攻撃が衆人環視の中、開始される。トンネル復旧までの時間を稼ぐべく、バルバトスルプスレクス以下をビルスーン隊が迎え撃つ。一方、火星上空では、マクギリスの戦いが始まっていた。落伍を逃がし、単身、ラスタル旗艦に挑むパエル、それをガエリオのキマリスヴィダーが迎え撃つ。



単身で戦艦を次々と決めるマクギリスのパエル。そして、それを迎え撃つガエリオのキマリスヴィダー。全軍が見守る中で宿命の一戦打ちが展開される。



ついにアリアンロッドによる鉄軍団掃討作戦が開始される。仲間たちの脱出の時間を稼ぐために、バルバトスルプスレクス以下ビルスーン隊が打って出る。



モビルスーツ戦で重傷を負ったマクギリスは、アリアンロッド旗艦内に潜入、なおもラスタルの首を狙う。だが、ガエリオの鉄軍を受け、力の命を償った男は息絶える。

鉄華団の最後の戦いは続く。バルバトス・ブルースとグシオン・リベイク・フルシティ、2体のガンダム・フレームは鬼神の如き戦いでギラルホルンを圧倒する。だが、ここでも勝機を決したのはダインスレイヴの鉄槌であった。衛星軌道上から一斉狙撃され、ガンダム2機は大破。だが、仲間の逃亡が完結するまで、彼らは戦いと化すまで戦い続けた……。



他の団員を逃がし、並び立つ2体のガンダム・フレーム。三日月のバルバトス・ブルースと弐瓶のグシオン・リベイク・フルシティ。



フスタルは攻撃の手を緩めない。衛星軌道上からダインスレイヴによる長距離攻撃で完全にトドメを刺そうとする。大砲を引き続く三日月と弐瓶の運命は……。



崩壊のグシオン・リベイク・フルシティは不用意に戦いを進んできたイオクと宿命の対決を遂げる。鉄華団の敵を退けるに、最終は笑みを浮かべた。



バルバトス・ブルースはダインスレイヴの攻撃力に大敗。三日月自身も重傷を負うが、鉄華団の最後の戦いは、まだ終わらない。



戦い続ける三日月。その戦いの意味を問いつつ、再びジュリエット。ついにバルバトスは盾を折り、レギンレイズ・ジュリアに身を預けるように、その動きを止めた。



「今ここにアリアンロッド艦隊司令・フスタル・エリオンの艦隊の下に舞臺は引き出された！」バルバトスの首を高く掲げるレギンレイズ・ジュリア。ここに「マコギリス・ファリド事件」は終わりを遂げた。

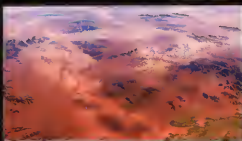
その後の世界

神話の終焉



「マクギリス・ファリド事件」は、マクギリス本人の死によって幕を下ろした。一時は社会的信用を失いかけたギャラルホルンであったが、その抗争を早期に解決したことで改めてその力を世界に示した。またイシュエ家、クジヤン家、ファリド家をついだギャラルホルンはセブンスターズによる合謀議を廃止、より民主的な組織として再編され、その初代代表にラスタル・エリオンが就任した。

新しい風



ラスタルは事件を契機にギャラルホルン火星支部を縮小。これを受け実質的に間接統治を任せていた各地球経済圏は火星の経営を断念。経済圏の支配から脱した火星の各都市は火星連合を設立。連合議長としてクーデリア・藍耶・バーンスタインが就任した。また、今まで人権を無視され、不当に抑圧されてきた子供たちを救う「ヒューマンデブリ廃止条約」も締結される運びとなった。

清濁併せ呑む

クーデリアが連合議長に就任した背景には、彼女自身の知名度の他にタービンの一件でラスタルと密約を交わし、さらに勢力を拡大したタイワズの後押しが大きかったともいわれている。アープラウの葬儀記念講堂で行なわれたヒューマンデブリ廃止条約の調印式で、ラスタルと初顔合わせをしたクーデリアは、あえて自らにヒューマンデブリの家族がいたことを意味ありげに吐露した。



路肩に咲く野花



誰にも等しく権利が与えられる世界。マクギリスの目指した理想の一端は奇しくもラスタルによって成し遂げられた。そして人々は激動の歴史の影には鉄華団という戦いしか知らぬ子供たちが存在していたことを忘れていく。クーデリアがラスタルへ放った言葉は、鉄華団は自らの中に生き続けている、という願やかな抵抗だったのかもしれない。





ASW-G-08 GUNDAM BARBATOS LUPUS

ガンダム・ バルバトスルプス

【型式番号】ASW-G-08

全高 19.0m

質量 31.2t

装甲材質 オーラミネートアーマー

動力源 エイハフリアクター×2

【武装】ソードメイス

腕部200mm砲

ツインメイス

腕部ロケット砲 はか

【乗組員】三日月・オーガス

ガンダム・バルバトスを前身の「」船で改裝した新たな機。敵陣で近接戦を行なう三日月の戦闘スタイルを尊重し、旧バルバトスに比べてより曲面を帯びた装甲の形骸にすることで、敵の攻撃を受けやすいよう計算されている。なお「ルプス」の命名は「狼」の意によるもので、三日月にとって当初は意味が薄い孩子だった。



意外にも推進剤の流りが少ないことに新団員のハッシュは驚く。戦場では無軌道に暴れまわっているかに見え丸バトスルプスだが、実は効率よく動いていたのだ。



アークラウとSAUの戦いに風雨を駆けつける。その勇姿にマクギリスは伝説のアグニカ・カイエルを想った。



天敵ともいえるモビルアーマーのハッシュルを前に、巨獣戦を終結に導いた強大な力を引き出すバルバトスルプス。三日月に適度な興奮をけげながらも幸福する。

◇MSトレッラー



鉄血団で使われている大型運搬車。対ハッシュマル用に鉄血団火炎本隊からバルバトスルプスを移すへ運んだ。かつて地球のミネアム島で旧バルバトスを載せた聖座台代わりの車両と同じタイプである。



◇ガンダム・フレイム

激戦の工機技術陣の手により、内部のガンダム・フレイムと三日月の反応活動がシンクロするよう調整された。機体の反応速度と機動性が向上した。ハッシュマルとの激戦の後、再び材料が豊富に改修される。

通常時にメインカメラのツインアイは緑色に輝いているが、リミッターが解除されると赤々と発光。リミッターの解除はパイロットへの保護機能を失うことを意味している。



頭部



ガラム・ロディを相手にした前戦時の遺像。両腕などの装甲がオープンして発熱する。

胸部

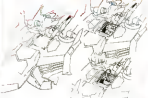
◇マンビュレータ



装甲が開放され、さらに射撃になった指。ガラム・ロディの装甲表面をも突き破る。

胴体

◇コックピット



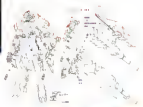
シートのコンソールには「BARBATUS LUPUS」の文字が浮かぶ。OSはティウス製のような。

武装



ティウスの設計による装甲一体型の武器。砲撃時は基部がスライドして衝撃を緩和する。

◇腕部200mm砲



◇サブアーム



背中には伸縮式のサブアームが2本内蔵。クローが埋没され、腕に背中を見えていても、相手を攻撃できる。

背部



◇腕部ロケット砲



近中距離射撃用の射撃武装と打撃用武器。どちらもティウスの技術陣の開発によるもの。ロケット砲は砲口が後ろに向いた状態でも発射可能である。



◇ソードメイス



脚部

◇足裏



背骨ユニットの中央ブロックなどが構造柱となっており、高機動性を発揮する。



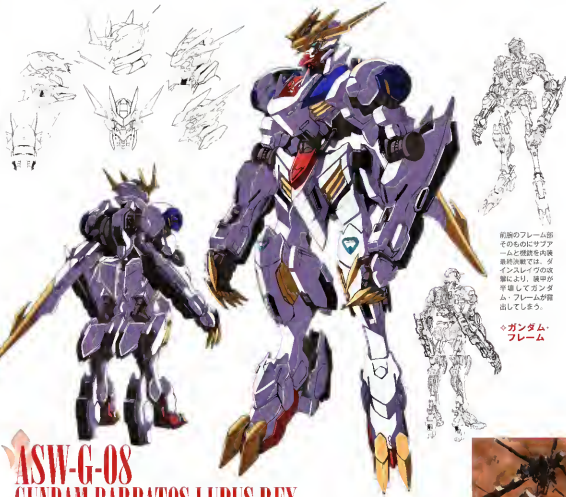
ハシュマルの放ったビームに対して即座に左腕で胴体をかばう。ナノミニネートアーマーの効能により機体や武装へのダメージを受けないまま、敵機との距離を詰めていった。

◇ツインメイス

乱戦時を想定した主武装のひとつで、第28話より使用。背中にマウントできる。



対ハシュマル戦では、ヘルムフィーク リンカ！ からヴァルキュリアバスターソードを借りたことも。



前腕のフレーム部
そのものにサブア
ームと機銃を内装
最終決戦では、ダ
インスレイヴの改
装により、機甲が
露出してガンダ
ム・フレームが露
出してしまふ。

◇ガンダム・
フレーム



ASW-G-08 GUNDAM BARBATOS LUPUS REX ガンダム・バルバトスルプスレクス

【型式番号】ASW-G-08
【全高】19.0m
【本体重量】32.1t
【装甲材質】ナノミネートアーマー
【動力源】エイバリアクター×2
【武装】超大型メイス、両腕レクスネイル
200mm砲
ティルブレッド ヒールバンカー
【機名】三日月・オーガス

バルバトスルプスの新しい色。ハッシュマルとの混戦で劣勢な
までのダメージを負ったバルバトスルプスだが、内部のガン
ダム・フレームも含めた大規模な改修が徹行された。内
装が良くなるなど、以前にも増して御機嫌をさげるスタ
イルとなった。特に大きく変わったのは背部のティルブレ
ッドの存在で、これはロストテクノロジーともいえるハッシュ
マルの秘宝を移植した武装である。その名前「ルプスレクス」は、
マクギリスいわく「オオカミの王」を意味する。



ギャラルホルンの本部地下に
あるバエルの根拠に降りた
たバルバトスルプスレクス。
ガンダム・ヴァイダーに対し、
マクギリスの用心棒ながら
に命を奪わして戦いを挑む。



決して眠ることの無い狼の軍。
鉄軍団のエンブレムを胸に誇
るに。しかしレギンレイ
ズ・ジュリアがこの機甲を
いたその機体。狼を倒す
ていた三日月とバルバトス
ルプスレクスは沈黙する。



単機でモビルアーマーすら破壊してみせた「悪魔」。
その機体はレギンレイズ ジュリアによって莫々と
損傷された。主を失った超大型メイスは今も火星の
大地で静かに眠る

◆超大型メイス



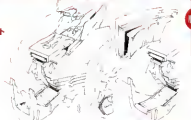
大型の打撃用武器で、先端と束の端には伸縮式のバイルバンカーも内蔵。対艦戦も視野に入れた武装で、実用性・貴金のジャスレイ号の艦橋を撃破してみせた。

式第



◆コックピットブロック

半身不随となった三日月の状態を鑑み、今までの気密装甲がスライドする垂直方式を廃し、胴体中央ブロックが展開する構造へ変わった。

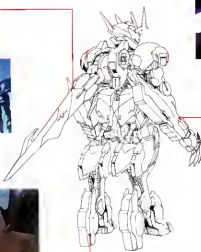


胴体

背部



テイルブレード 阿頼耶システムで機体と一体化した三日月の感覚どおりに置れる。



◆マニヒュレーター



レクスネールと呼ばれる銀い頭先。第42話では傭兵のユーゴの胸部にツメを刺したまま至近距離で200mm砲を発射した。

腕部



左右の前腕には200mm砲を内蔵している。連射では不可。連射発砲は可能。



◆サブアーム

前腕のフレーム内には伸縮タイプのサブアームがある。高機敏性によって大量量が相手もクロウが獲得する。



脚部



◆足置

かかとにはビルバンカーを装着している。

COLOR

戦場で変幻を遂げる「鉄華団の悪魔」

本作の主役モビルスーツであるガンダム・バルバトスは、戦いの局面に合わせて外装を変えており、常に三日月とともに最前線で戦い続けた。それゆえに破損も多く、時には敵から捕獲された装甲を取り付けたり、また時には地上での戦いに合わせた装備に身を固めるなど、絶代のTVアニメ「ガンダム」シリーズの主役機としては珍しい趣向が図られている。第1話のバルバトス（第1形態）から第41話初登場のバルバトスルプス（第8形態）にいたるまで、実に8形態もの変化を遂げることとなった（細いカラーリングや武装の違いもカウントすれば、さらにそのバリエーションは増える）。

事実上の最終形態であるバルバトスルプス

レクスには、劇中で未登場に終わったもうひとつのアナザータイプがある。右側のデザインがそれで、左側にレグンレイズの装甲板を持ち、左腕がバルバトス第1形態時のものに反されているスタイルだ。頭部左側のアンテナもへし折れており、どうやら機体の左側を中心に著しいダメージが与えられたあとの状態であることがうかがえる。バルバトス第1～2形態時の左腕の特徴であったガントレット（六角形の装甲板）が再び用いられるまで、一体いかなる過程があったのか……？ 本形態は1/144のプラモデルでもある程度は再現可能なので、正の物語をイメージしながら製作に臨んでみてはいかがだろうか。



ASW-G-11 GUNDAM GUSTION REBAKE FULLCITY

ガンダム・ グシオンリベイク フルシティ

型式番号「ASW-G-11」
全高 18.2m
本体重量 36.5t
装甲材質 ナノラミネートアーマー
動力源 エイバフルリアクター×2
防盾 120mmロングレンジライフル
110mmライフル
シザース可変型リアアーマー
腕部ナックルガード、腕部ロケット砲
ハルバード、300mm滑空砲
長距離飛行用バックパックユニット
レールガン
[原案者] 昭弘「アルランド」

戦国によるダメージの著しかったガンダム・グシオンリベイクが、歳月でオーバホールを受け、改修された姿。基本的にはグシオンリベイクの骨格を継承しつつ、新たに入手した厄祭戦時代のデータも反映され、大戦当時の性能により近づけられている。さらに搭乗者の胡弘の意向も取り入れられたことで、今まで以上に格闘戦向けの装備を追加された。三日目のガンダム・バルバトスバズが変質して敵陣に侵入しつゝ一方、グシオンリベイクフルシティは母船を脱出することを想定している。



◆シザース可変型 リアアーマー

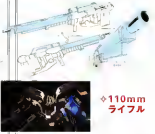
かつてのグシオンリベイク同様、腰の裏面にシールドを装備する本機体の新たな趣向として、シールドが大型のシザース（ハサミ）へ変形。モビルスーツをも切断可能である。



◆ハルバード



強力な長斧。グシオンリベイクのものをそのまま流用し、第32話以降使用。



◆110mm ライフル

クレイスのライフルをベースとした火器サブアームの併用で4丁同時発砲できる。



前腕には単発式のロケット砲を装備。発射時には手甲をナックルガードが保護する。

ミニニアム島などでグシオンリベイクが用いたのと同様、本体もバルバトスの300mm滑空砲を換えることができる。対ハシムール戦で使用した。

◆長距離飛行用 バックパックユニット

タービンスの救済時（第40話）に使用した追加装備。クタン参型の推進器で高速移動し、目的地へ到着時に十分な装備を捨て、グシオンリベイクフルシティの上半身を得る基準となる。



◆レールガン ユニット

バックパックユニットの一部は長距離砲撃用のレールガンにも変質する。



彼方の敵を撃ち、懐に入った敵を砕く——荒ぶる二番隊の旗印

ガンダム・バルバトスほどではないが、ガンダム・グシオンも数回におよぶ変遷を遂げている。宇宙海賊ブルワーズで使われていたガンダム・グシオンからガンダム・グシオンリベイクへの改裝が時に変換しており、丸みを帯びた容姿からがらっと印象の異なるスタイリングへと変わった。この時は旧グシオンの外装を活用する一方でバルバトスの予備パーツも部分的に流用されており、膝まわりやヒザ周辺などにバルバトスと共通の意匠を見出せる。なお旧グシオンはブルワーズ宇宙海賊団が外装を大軸にカスタマイズしていたもののゆえ、厄祭戦時代のガンダム・グシオンの外装とはかなりの部分で違いがあるのかもしれない。これが第28話で初降となるガンダム・グシオンリベイクフルシティでは、グシオンリベイクに厄祭戦当時の機体データも反映。明確な性能面の追加は前腕のナックルロケット砲や腰のシザースアーマーなどなので、これらが厄祭戦当時の装備ということだろうか。グシオンリベイクフルシティは昭弘の意向で格闘戦の対応も重視され、第32話ではガラン搭乗のガイレール相手にサブアームも使った連続パンチを使用。昭弘のキャラクター性とシミュラシオン戦闘描写が寄与していた。

ム・グシオンの外装とはかなりの部分で違いがあるのかもしれない。これが第28話で初降となるガンダム・グシオンリベイクフルシティでは、グシオンリベイクに厄祭戦当時の機体データも反映。明確な性能面の追加は前腕のナックルロケット砲や腰のシザースアーマーなどなので、これらが厄祭戦当時の装備ということだろうか。グシオンリベイクフルシティは昭弘の意向で格闘戦の対応も重視され、第32話ではガラン搭乗のガイレール相手にサブアームも使った連続パンチを使用。昭弘のキャラクター性とシミュラシオン戦闘描写が寄与していた。



◇砲撃モード

ASW-G-64 GUNDAM FLAUROS (RYUSEI-GO)

ガンダム・フラウロス (流星号)

【型式番号】ASW-G-64

【全高】17.8m

【本体重量】29.9t

【装甲材質】ナノミネートアーマー

【動力源】エiegelリアクター×2

【武装】両部レールガン

フラウロス専用120mmマシンガン
アサルトナイフ ショートバレルキャノン ほか

（機名）ノルバシノ

鉄甲附が脱落した新たなガンダム・フレームの機体発掘後における整備、改修の時点でシノが搭乗することは半ば決まっており、後の要項でマゼンタピンタを基調としたカラーリングで塗装。シノにとって四代目の「流星号」となった。本機体の最人の特徴は首部の遠距離砲撃ユニットを活かした砲撃モードで、命中半の向上などを目的とした四脚形態への変形機能にある。遠距離砲撃ユニットは機身の長柄の組み合わせにより複数の発射モードを形成可能。



対ハシマル戦で初陣を果たした シノは軍官の砲撃を「ギャラクシーキャノン」と呼んだ



◇ショートバレルモード

通常のロングバレル形態に比べて威力はやや落ちるが、砲撃モードへの変形時に能力を発揮できる。砲撃モードへの変形として充分な能力を発揮する武装としてフラウロスに開発された。稼働しながらの砲撃にも対応しており、乱戦時に有用性を発揮する



第40話では本形態で四脚形態へ変形し、クタン参戦のブースターを使ってタービンの戦艦に向かった。

◇ダインスレイ直結モード

砲撃を含む砲撃ユニットすべてをつなげた形態



◇フラウロス専用120mmマシンガン

120mm口径の火器 バックパックにセットした状態でも発射できる



近接戦闘用の武器も装備

◇アサルトナイフ



◇発掘時のガンダム・フラウロス

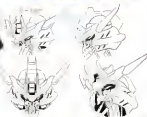


火星のハーフェタル探検隊から豆探検当時のままの状態で発掘され、流星の工廠で整備改造された。本来の両部砲撃ユニットは破壊していたため、データをもとに復元。機体色はもともと白だった。



ティウズのモビルスーツ用フレーム素材を加工した「本物のダインスレイヴ」で唐島に集み「スーパーギャラクシーキャノン」を発射する。





◇コックピット

ガエリオの部下である、アインの服を利用した阿頼即座TypeEという独自のシステムを搭載している



少しずつ外装が組み上がる。初陣は第34話で、オセアニア連邦コロニーの鎮圧作戦だった。



ASW-G-XX GUNDAM VIDAR ガンダム・ヴィダール

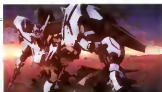
- 型式番号] ASW-G-XX
- 全高] 18.5m
- 本体重量] 30.9t
- 装甲材質] ナゾミネートアーマー
- 動力源] エイハブリアクター-X3
- 武装] 110mmヴィダール専用ライフル
バーストサーベル ヴィダール用ハンドガン
足部ハンターエッジ
- 搭乗者] ヴィダール(カエリオ・ボードウィン)

戦術の劣、ヴィダールが駆るガンダム・フレームの機体。初陣の惨敗や調整はアランロッド部隊のスキップジャック機戦艦内で進められたが、モビルスーツの動力であるエイハブ・リアクターを3基も持つなど、搭乗者と同様に謎の多い機体でもあった。その正体は偽装したガンダム・キマリスであり、機体固有の周波数を特定されないようにエイハブ・リアクターを1基多く増設していた。

◇バーストサーベル



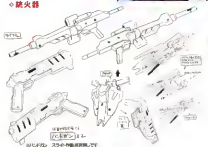
刀剣型の武器。敵機に突き刺した刀身をそこから分離後、爆発させる。刀身は専用のサーベルラックに予備を持つ。



キマリスには無い武装も持ち、二丁のハンドガンも修行 フロントスカートに収納されている

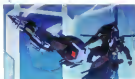


◇銃火器



遠近の射撃に対応する110mmライフル、試練運用段階の武器を本機で試用している。

◇足部ハンターエッジ



つま先と踵「かかと」に仕込んだ刃。躍り上げや蹴みつけ、かかと落としなどの攻撃時に使用されるが、万物としての切断能力は無い





ツインタイプのカメラアイの左目内部が露出通常は黄色い眼が赤く光る

ASW-G-66 GUNDAM KIMARIS VIDAR ガンダム・キマリスヴィダール

「型式番号」ASW-G-66
全高 19.5m
本体重量 34.5t
装甲材質 ナノラミネートアーマー
動力源 エイハブリアクター×2
武装 ドリルランス
ドリルニー
刀
シールド はか
「担当者」ガエリオ・ポードウィン

ガンダム・ヴィダールが偽装を解除した形態で、ガンダム・キマリスの決戦仕様へと変化した姿。この形態は秘密の意味で新規に設計開発されたものにあらず、加急戦の時代にも存在が確認されており、そのデータをもとに復元されたものという。ガンダム・ヴィダールの疑似阿部卓哉システムはそのまま維持されている。ガエリオはこの機体でマダギリスとの決戦に臨んだ。



ガンダム・ウィタールから引き継ぎ、キマリスヴィダールにも搭載された、疑似阿部卓哉システム

左腕に持つ刀 刀のバレルの攻撃でランスが弾き飛ばされたため、抜刀する（第48話）



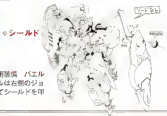
◇ドリルニー

左右のギザには高速回転する螺旋型のバレルを内蔵。ヘルムウィーラー・リンカーを破壊した。右のギザのバレルはバレルに覆り折られるものの、キマリスヴィダールは飛ばされたバレルをどっさりと踏み、バレルに突き立てる。



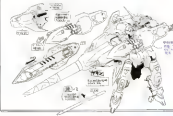
◇ドリルランス

キマリスの素体ともいうべき大型武器。束の部分には200mm砲を2門内蔵し、キマリスヴィダール初登場の第45話から使用している



◇シールド

前部サブアームが保持する防弾用装置。バレルとの列装時にキマリスヴィダールは右側のジョイントをもち取り、細手めがけてシールドを叩きつづけた



◇特殊KEP弾

シールドにはダインスレイヴと特殊KEP弾を計8発内蔵。ドリルランスとシールドを組み合わせることでダインスレイヴの発射も可能となる

Column

鎧を再びまとい、騎士が戦場に戻り伏く

第2期の最終決戦にて、宇宙戦のハイライトを飾ったガンダム・キマリスヴィダール。その前身であるガンダム・ヴィダールやガンダム・キマリスは、それぞれ同じガンダム・フレームを骨格とした機体である。ガンダム風でダークヒーロー格とした佇まいのヴィダールが、甲冑をまとった中世の騎士を思わせるキマリスに戻る展開は、第43話でガエリオが仮面を外して以降の展開として、ドクタチェックに演出された。ガンダム・バルバトスやガンダム・グシオンが内部フレームを核とし、次々と姿を変えていった

のと同様に、キマリスもまた姿形を変化させた機体である。しかし、第1形態からバルバトス・ブレストスまで、基本的なシルエットが大きく変わることはなかった。バルバトスや、凶悪なグシオン・リベイクへと劇的に外見を変えたグシオンとは違い、キマリスは趣きの異なるヴィダールに大胆な偽装をした後、キマリスの系譜を流したキマリスヴィダールへと変貌を遂げることとなった。前身の2機の名を冠したこの機体には、表裏両へと送り咲いたガエリオの復活と復讐の意味が込められていたのかもしれない。



第38話で初めて姿を見せる。アグニカの魂が宿る機体と伝えられ、ギャラルホルン地球本部の地下隠匿で静かに祀られていた。



グリムゲルデのヴァルキュリアブレードと同じく種多金属を融合して鍛えあげられた2本の剣。



◇バエル・ソード



ASW-G-01 GUNDAM BAEI ガンダム・バエル

型式番号「ASW-G-01」
全高 18.0m
本体重量 30.0t
装甲材質 ナノミネートアーマー
動力源 エイバブリアクター×2
武装 バエルソード スラスターウィング
搭乗者 アクニカ・カイエル、マクギリス・フアリド

伝説における伝説の英雄、アグニカ・カイエルが搭乗したモビルスーツ。対モビルアーマー用に開発された、阿頼耶式システム搭載のガンダム・フレーム全72機のフレームナンバー1でもある。約300年の眠りを経て、マクギリスによって再起動を遂げた。

厄祭戦以後、ガンダム・フレームの機体のいくつかは機密保持のためコックピットが隠匿されていたが、バエルは大战当時の機密を保持。アグニカの死後、約300年の間、数多もの人間が「エルの内起動を試みたものの成し遂げられずに終わっていたが、マクギリスは本機体を動かして見せることで、自分こそが彼女とともにギャラルホルンの象徴として君臨せんとした。

◇コックピット



マクギリスは長年にわたる研究の末、大戦時の阿頼耶式を復活させ、自らが指揮バエルを動かすものとした。



背部のスラスターウィングにより重力圏内でも高機動性を発揮。ガンダム・フレームの機体のなかでもバエルは機密を存在である。なおスラスターの駆動にはほかにレールガン（電磁砲）が内蔵されており、ネオ・マクギリス・フアリドとの決戦の際、スキップジャック戦艦艦内へ突入する直前に同武器を使用してみた。

Character

伝説の終焉——厄祭戦の権勢は遠き日の過去に

本 作品終盤の鍵を握るガンダム・フレームMSとして登場したガンダム・バエル。ギャラルホルン地球本部の地下隠匿にたずむその機体は、約300年前の厄祭戦時そのまゝの姿を今に残している。創始者アグニカ・カイエルの魂が宿るという本機体に手を加えることはギャラルホルンにとって冒瀆的行為とみなされたのかもしれない。それだけ神聖視されていたはずのバエルだが、再起動を遂げたマクギリスの意向に反してセブンスターズの当主たちの反応はさきわめて冷やかであった。バラザン家当主がバエルの覚醒に驚いていたが、もしかするとバエルが再び

降臨しても世の人事を動かすには威信が欠けていることなどどこかで悟っていたのかもしれない。バエルこそがギャラルホルンの精神を具現化したものだといふのであれば、この機体がすでに過去の伝説となった時点であつてのギャラルホルンの威光も輝きを失ったのであろう。バエルを担ぎ出した「マクギリス・フアリド事件」の取柄とともにギャラルホルンの体制が大きく変革を迎えたのも象徴的であつた。マクギリスの恩恵と道徳はまったく異なるものであろうが、ギャラルホルンの変革が成しえたのは彼にとって皮肉というほかない。



STH-16 SHIDEN 獅電

型式番号: STH-16

全高: 18.1m

本体重量: 28.5t

装甲材質: ナノミニネートアーマー

動力源: エイハブリアクター

武装: ライフル パルチザン

ライオットシールド (ほか)

(搭乗者) ダンテ・モクロ、デルマル・ランド (ほか)

タイワズが鉄軍団に提供した最新の量産モビルスーツで、百鬼や百練で知られたノウハウが遺憾なく投入されている。動力のエイハブ・リアクターこそ伝説戦時代の再利用品だが、タイワズ・フレームの流れを流す新型のイモ・フレームを内蔵構造に採用。また、近衛戦時代にデータは存在していた百鬼や百練と違い、完全に新設計の設計開発がなされたという意味においても意義深い機体である。



◇パルチザン

タイワズの重工業部門が開発した駆電用の標準武装。



◇ライフル

標準武装の火器 弾の後ろにマウントすることも可能



◇ライオットシールド

大型の防盾用装備。第28話ではライド機が宇宙戦で活用し、ガルム・ロディに突撃



◇イオ・フレーム



◇コックピット



コックピット周辺は百鬼や百練のタイワズ・フレームと同様のシステムを採用。ラフタやアークも搭乗し、ダンテたち鉄軍団の創設を始めた。

STH-16/tc SHIDEN CUSTOM (RYUSEI-GO) 獅電改 (流星号)

型式番号: STH-16/tc

全高: 19.7m

本体重量: 29.7t

装甲材質: ナノミニネートアーマー

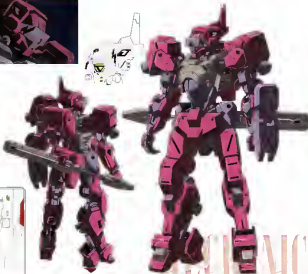
動力源: エイハブリアクター

武装: パルチザン ライフル

ガンレット

(搭乗者) ノルバ・シノ、ライド・マウス

グレイズ・アインとの戦いで大破した二代目流星号こそグレイズ改変に代わるシノの専用機。通常の獅電とは頭部や肩、腕のシールド、マーキングなどが異なる。



◇コックピット



本来、獅電に同様のシステムは組み込まれていないが、獅電改にはグレイズ改変に添付されていたマン・ロディ内同システムや戦闘データが移植されている。



STH-16/tc

STH-16/tc RAIDEN-GO 雷電号

【型式番号】STH-16/tc

【全高】19.7m

【本体重量】29.7t

【装甲材質】ナノラミネートアーマー

【動力源】エイハブリアクター

【武装】バールチザン

ライフル

ガントレットシールド ほか

【搭乗者】ライド・マッス、エンビ

シノの制電改をライド
市用に改裝した機体で、
カラーリングのほかに
頭部バイザーなどが新
調。ライドの意向で雷
電号と命名される。



対ハシニマル戦で
シノの制電改を借
用したライドが、
戦いの後で即戦を
譲り受けた。



◇ガントレット
裏面

シノの制電改の
時点で大型のラ
イオットシールド
は持たず、小型
のガントレット
を装備していた
が、雷電号は
これを両手に装
備



◇クタン原型

第40話ではティウス製の
高速輸送機クタン原型と接
合し、タービンの駆動に
先行。



第48話でライドがタリセ市街へ
向かったため、鉄聖団本部に残る本
機体には年少組のエンビが搭乗し、
激突戦に臨んだ。



STH-16/tc2 ORGA'S SHIDEN 獅電(オルガ機)

【型式番号】STH-16/tc2

【全高】18.6m

【本体重量】28.6t

【装甲材質】ナノラミネートアーマー

【動力源】エイハブリアクター

【武装】ライフル

ライオットシールド ほか

【搭乗者】ユージン・セブンス・スターク

オルガ専用機として鉄聖団本部に
搬入された機体。通常機とは頭部
バイザーや左肩、カラーリングが
異なる。シノたちは本機を「王様
の椅子」と称した。



最終的にオルガは乗ることなく、
ユージンが搭乗。仲間たちの道
路を確保すべく奮闘した。



◇獅電ティウス仕様 ティウスでは青紫色の獅電が運用。タービンス
でもこの仕様の機体が使われている。

STH-20 HEKIJIA 辟邪

【型式番号】STH-20
【全高】18.3m
【本体重量】32.9t
【装甲材質】ナノミニネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】110mmバズネットライフル
トビグチブレード
両腕部回転ブレード
【搭乗者】ラファ・フランクランド、
アズール・ミン、ハッシュ・ミディ

ティワズが開発を進める新たなモビルスーツ。百里や百龍の開発データを参考にしつつ、制電とは別系列で開発された機体で、高性能を目指してテスト機によるデータ収集が進められている。これらの限られた機体のうち、数機がタービンスでの試験運用にまわされたほか、さらにそれらのうちの1機が我軍団へ委ねられた。パイロットの負担を減らすことを視野に入れた、操作性にも気が配られた機体である。



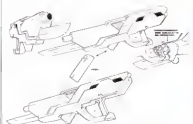
◆突撃形態

足置金と駆動ブロックの位置を変化させることで、敵機との閉合いを一気につめる突撃形態へ



◆両腕部回転ブレード

両手の前腕部分には格納型のブレードを持つ。格納時は銃機からの切り付けにも対応しうるシールドとしての役目も担う

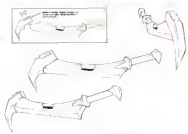


◆110mmバズネットライフル

110mm口径の射撃用武器。より確度の高い射撃を行なう場合は、腕部ブレードを展開してトリガーガードと一体化させる



両腕と背翼に大型スラスターを装備。特に宇宙空間での戦闘において効果を発揮する



◆トビグチブレード

関節の機動性を活かすことを考えて、特異な形状でデザインされた刃物。ライフルと同様に敵機の専用武器としてテスト運用されている。先端部は着脱も可能。



我軍団に委ねられた辟邪は第42話よりハッシュが搭乗。ハッシュは機電よりも機体反応がいかにとて驚く一方、第49話では地上戦のデータが少ないうえに強い相手、複数のグレイズとの戦いに敗れる



◆ティワズのMS

辟邪のフレームは制電と同様に特殊なティワズ戦で、百里や百龍のティワズ・フレーム（左）の経緯をきくべく進められている。次々と新型が生まれるティワズ系機の機体だが、アミダの召喚や、百龍の改修仕様である露那は今なおタービンスで現役。





UGY-R41 LANDMAN RODI

ランドマン・ロディ

【型式番号】UGY-R41

【全高】17.0m

【本体重量】40.2t

【装甲材質】ナノラミネートアーマー

【動力源】エイハブリアクター

【武装】ハンマー・チョンパー

90mmリブマシンガン、手榴弾

【搭乗者】アストン・アルトランド、タカキ・ノボ

鉄拳団のモビルスーツ。かつて宇宙海賊ブルワーズに使われていたマン・ロディを改造したもので、特に重力下での環境に対応できるように調整された。コックピットは阿蘭耶流システムがそのまま使われている。



鉄拳団地球支部に配備され、アストンたち少年兵が搭乗した。

◆コックピット ハッチオープン



第31区ではタカキも搭乗。いつ終わるとも知れない戦いを終わらせるべく、マクギリスのグレイスリッターに参戦。

地球支部の解体後、3機が父星本部へ。チャド、ダンテ、ゲルマの乗機となった。



UGY-R45 GARM RODI

ガルム・ロディ

【型式番号】UGY-R45

【全高】18.6m（一般機）

【本体重量】38.2t（一般機）

【装甲材質】ナノラミネートアーマー

【動力源】エイハブリアクター

【武装】ライフル ブーストハンマー

300mmロングライフルほか

【搭乗者】夜明けの地平線団・団員



◆隊長機 仕様



宇宙海賊・夜明けの地平線団が使用するモビルスーツで、隊長機の仕様にはシルバードレーを使用。隊長機を含む全6機で部隊のフォーメーションを基本編成する。内部のフレームはマン・ロディなどと同じロディ・フレームが用いられている。

◆ブースト ハンマー

推進機能が付いた
打撃用武装。柄の
部分が展開する。

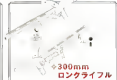


◆ライフル



◆手榴弾

投擲型の爆薬を前面に
装備



◆300mm ロングライフル



◆バスター ソード

◆スピナ・ロディ

ロディ・フレームを内蔵したスピナ・ロディは、第39区で機長時代のアミダがその隊長機仕様に乗っていたことが知られる。また、カーキ色のスピナ・ロディもアミダ機の複製として登場した。



◆マン・ロディ

同じくロディ・フレーム内蔵のマン・ロディは、第42区でジャスレイのもとで戦うヒューマンデブリアの少年の乗機として登場。第39区では宇宙の荒廃の中にマン・ロディの名前が確認できる。



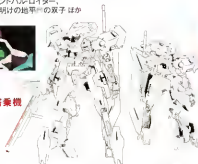
IPP-66305 YUGO

ユーゴー

【型式番号】IPP-66305
全高:19.7m
【本体重量】29.9t
【装甲材質】ナノラミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】円月刀(サンダーロイ)
アンカー射出クロー
腕部ナバーム弾 15発
【搭乗者】サンダーロイイーター、
夜明けの地平線の双子 ほか



◆双子搭乗機



◆アンカー射出クロー

腰から撃ち出される各種用の有線武器。双子の兄ユーゴー・娘ダナテの乗る脚電が隔ちえられた



◆100mm マシンガン



◆腕部クロー

足指が関節して敵機を掴む。足指が関節して敵機を掴む。



◆腕部ナバーム弾



バルバトスと同一の機で使った火器



◆円月刀

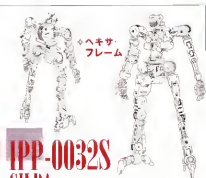
近接戦時からのユーゴーの正式装備。サンダーロイ機が用いる



◆コックピット ハッチオープン



第42話ではジャスレイの機兵が乗るユーゴーも機体登場。武装は双子機と同じ。バスターソードと長距離ライフルを装備



◆ヘキサ・フレーム



一対の伸縮式バイルクロウを内側に装備。ガランのゲイルに使った



◆バイル付 シールド



◆専用 ライフル



◆ソードクラブ

IPP-0032S GILDA

ジルダ(SAU仕様)

【型式番号】IPP-0032S
全高:19.8m
【本体重量】29.7t
【装甲材質】ナノラミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】ソードクラブ 専用ライフル
バイル付シールド ほか
【搭乗者】SAU軍兵士

アープラウと紛争状態に陥ったSAUで使われた機体。本機もユーゴーと同じヘキサ・フレームを採用している。なお、第39話では名瀬とアミダの同型にホワイトグレイの機体(装備は90mmサブマシンガンとクロウ・バー)も登場



◆一般機仕様

オセアニア連邦コロニーの修造師が搭乗する機体。ガンや近接戦用のクロウ・バーを持つ。





EB-08s IOK'S REGINLAZE

レギンレイズ(イオク機)

【型式番号】EB-08s
【全高】18.5m(一般機)
【本体重量】31.9t(一般機)
【装甲材質】ナノラミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】長距離レールガン
ナイトブレードほか
【乗乗者】イオククジヤン



頭部装甲が開くとメインカメラがメダリが露出する

グレイズに代わるギャラルホルンの次世代型モビルスーツレギンレイズ。その初期生産分18機のうちのひとつがイオクに与えられた。長距離支援をコンセプトにしており、レールガンを主武装とするほか、近接用のブレードも携帯している。なお、機体色は金と黒の豪華なものだとされている。さらに本機体が中破後に復旧したグレイズにも同様のカラーリングが施されている。



ハナムカルに挑むが左腕が損傷するなど、中破状態に。



宇宙用クワイター

かつてカルタのグレイズリッター部隊も使用した大気圏下用推進イオク機は部下を率いて父星に降り立つ。

レギンレイズ・フレーム



長距離レールガン

レギンレイズの試製試作段階で生まれた電磁砲を流用



ナイトブレード

EB-08 REGINLAZE

レギンレイズ(一般機)

【型式番号】EB-08
【全高】18.5m
【本体重量】31.9t
【装甲材質】ナノラミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】マルチウェポンバックほか
【乗乗者】ギャラルホルン兵士

グレイズの後継機として誕生したギャラルホルンの新型モビルスーツ。基本的なスペックをグレイズから継承しつつ、対モビルスーツ戦をより意識した設計となっている。新型のレギンレイズ・フレームもグレイズのものから強度が見直された。さらにフレームは旧常戦時代の機体よりも構造自体が単純化されており、パーツ数を徹底的に少なくすることで補修などのメンテナンス面において優れている。



マルチウェポンバック



130mmライフルといった銃器やソーロユニットなどを組み合わせてのことで多様な形態を組める。重火力、重装甲、高出力を主眼とするレギンレイズの代表的な武装である。

宇宙用ブースター

背部の増設型推進器。本来は半宙間だが、地上戦においても用いられている。



グレイズを率いて前線に立つことが多い。

式典用仕様



第50話、歴史的な戦局に生まれ変わったギャラルホルンの式典で展示



打突用のツイン
バール。家の底
にアンカーが仕
込まれている



対ハッシュマル戦
右腕のツインバール
から右腕式のアン
カーを撃ち出す

EB-08 JULIA'S REGINLAZE

レギンレイズ (ジュリエッタ機)

【型式番号】EB-08

【全高】18.5m

【本体質量】31.9t

【装甲材質】ナノラミネートアーマー

【動力源】エイハブリリアクター

【武装】ツインバールほか

【開発者】ジュリエッタ・ジュリス



サンドバールのユーゴーの部下
クロウに両腕シールドを奪ま
れるが、同時に両腕位置をバー
ジして危機を脱する



主武装の刀剣。ワイヤー
でつながった蛇腹状のウ
ィップ（ムチ）モードに
も変化する

◇ジュリアンソード



EB-08jic REGINLAZE JULIA

レギンレイズ・ジュリア

【型式番号】EB-08jic

【全高】29.9m

【本体質量】43.3t

【装甲材質】ナノラミネートアーマー

【動力源】エイハブリリアクター

【武装】ジュリアンソード バルカン砲ほか

【開発者】ジュリエッタ・ジュリス

専用のレギンレイズをハッシュマルとの戦いで
中絶させたジュリエッタが新たに搭乗する試
作型モビルスーツ。一見して昆虫的な外観か
らはわからないが、レギンレイズ・フレーム
をベースに作られた機体であり、機体名は搭
乗者のジュリエッタにちなんでつけられた。
無重力空間での高機動戦闘を実現させるべく
誕生した本機体の開発作業には、グレイズ・
アインのデータも反映されている。



各腕にシールド
（バインダー）を
装備。両腕のバ
インダーにはバ
ルカン砲もある

◇脚部展開
ギミック



スラスタユニットに内蔵された
脚部のクロウ。



◇ミニビュレータ
ー
クロウ



バルバトスルプスレックスに
圧倒された、内部のレギン
レイズ・フレームが露出する

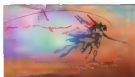


第50話では、火星での
鉄軍団（狂化）に参加。

◇大型シールド



レギンレイズ・ジュリア (地上戦仕様)



この地上戦仕様では脚部の脚部機構は
活きており、ホバーによる高速移動が
可能。バルバトスルプスレックスの鬼
狂ウチルブレッドからも逃げ切った

バルバトスルプスレックスの
猛攻を受けて倒壊したレギ
ンレイズ・ジュリアの地上
用形態。右腕が通常のレギ
ンレイズのものに換装され
ている。大型ブレッドはジ
ュリアンソードと同様、剣
先に希少金属を使用。新型
の左腕シールドにはバルカ
ンとアンカーも内蔵され
ている。

◇大型ブレッド



MECHANICS



EB-06r MCGILLIS'S GRAZE RITTER グレイズリッター (マクギリス機)

型式番号 EB-06r
全高 18.7m
本体重量 132.1t
装甲材質 ナノラミネートアーマー
動力源 エイハブリリアクター
武装 120mmライフル
ナイトブレード
搭乗者 マクギリス・フリッド



革命軍が使用した量産型の宇宙仕様
背部にスラスターを持つ。



ギャラルホルンを代表する機体＝
グレイズの姉妹機で高機動性が特
徴。隊長仕様のマクギリス機は前
装甲などが見える。



第43話のギャラルホルン本部所属の
部隊。第31話などに登場のマクギリ
ス隊の所属機に似る。



基本構造はグレイズと同じ
ゆえ、胴部装甲内には大型
のカメラアイも内蔵

AEB-06L HLOEKK GRAZE フレック・グレイズ

型式番号 AEB-06L
全高 13.8m
本体重量 25.2t
装甲材質 ナノラミネートアーマー
動力源 エイハブリリアクター
武装 サブマシンガン
小型アックス
頭部ミサイル
搭乗者 アーブラウ防衛軍兵士

ギャラルホルンが民間企業や
各勢力に提供している量産
機。グレイズの派生機という
べき機体だが、銃宙にまとめ
られた操作性ゆえに練度の低
いパイロットでも扱うことが
できる。アーブラウ防衛軍の
正規兵が搭乗した。



◇コックピットハッチ 頭部ミサイル



ハッチの開
閉機構は異
なるが、機
体自体は
グレイズと
同様。大型
の頭部ユニ
ットには4
基の弾頭発
射口を持つ。

◇フレック・グレイズ アリアンロッド艦隊 所属機



第40話や第45話ではダ
インスレイヴの次弾頭機
を担う機体も登場

◇サブ マシンガン



専用90mm機銃



◇小型アックス



赤、グレイズと同種
の武装を持つが、い
ずれもコンパクトに
まとめられている。



ダインスレイヴ仕様グレイズ

装甲材質 ナノラミネートアーマー
動力源 エイハブリリアクター
武装 特殊KEP弾
搭乗者 アリアンロッド艦隊兵士

遠距離制圧用の特殊KEP弾（ダインスレイヴ）
を撃ち出すことに特化したグレイズ。基本構
造は通常機に準じるが、左腕がダインスレイヴ
の形態へ変換され、カメラアイも専用のもの
となっている。アリアンロッド艦隊には40～60機
もの数が配備されていたようだ。



無数の機体が整列し、一瞬に
目標へ向けて放たれる。本機
は使用を禁じられた非人道的
実弾兵器である



発射時には発射と
放電を兼ねた砲身
のプレートが波ね
上がる



イオウがタービンスに黒い衣
を着せるために持ち出したダ
インスレイヴ。ギャラルホル
ンの意圖には未使用の同武器
が数多く残っている



発射時には命中確率
を高めるため、頭部
のカメラアイが露出。
迎撃の範囲距離を調
整する



グレイズ (アリアンロッド艦隊所属機)

すでに決戦機体のレギンレイズがいち早く導入されているアリアンロッド艦隊だが、グレイズも現役で運用されている。同艦隊ではビリジアングリーンのカラリングが基調としている。



◇宇宙用標準仕様



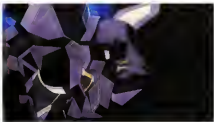
◇地上用標準タイプ色



◇320mmバズーカ砲標準仕様

グレイズ(アーレス所属機)

火星支部アーレスで運用されているグレイズはパールブルーのボディカラー。第28話では石動指揮のもと、筑摩団と共闘する。



シュヴァルペ・グレイズ (石動機)

グレイズの試作機を改修したカスタム仕様。本機はもともマクギリス用だったが、右腕に委譲された。三日月も本機体は見覚えがあると語る。



第28～29話、120mmライフルとワイヤークローを武器に夜明の地帯戦団と戦った。



◇バトルブレード



グレイズ (地上戦仕様)

第1期終盤でも登場したグレイズのバリエーションのひとつ。SAUに協力するギャラルホルン地上部隊の戦力として用いられた。

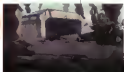


グレイズ

通常仕様のモスグリーン色をしたグレイズもいくつか登場。第36話では火星支部の火星地表にある第3地上基地がブルーマに襲われた際、グレイズの残骸が確認できる。



筑摩団本部施設の破壊戦では多数のグレイズも投入。第1期終盤でクラウンが渡ったのと同型のシールドを持つ機体も見られる。



EB-06Q GRAZE SCHILD グレイズシールド

【型式番号】EB-06Q
【装甲材質】ナノミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】専用大型ハルバード
大型シールド
【担当者】アリアンロッド艦隊兵士

アリアンロッド艦隊に所属するグレイズのカスタム仕様。基本色はやはりビリジアングリーンだが、胸部に赤いラインなどがある。

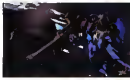


重力下での包囲制圧が主な任務で、遊動のとれた人海戦術を専らとする。



グレイズ (革命軍所属機)

革命軍の主力として使われるグレイズはビッドブルー、タスタルの手先に乗ったダインスレイヴ仕様もこの色に合せている。



◇320mmバズーカ砲標準仕様



◇ダインスレイヴ仕様

第47話ラストで初登場。大型シールドとハルバードを基本武装に、筑摩団本部の制圧に臨んだ。



V08Re-0526 HELMWIGE REINCAR

ヘルムヴィーゲ・ リンカー

【型式番号】V08Re-0526
【全高】21.1m(角込み)
【本体重量】43.9t
【換装対象】ナノリアクター
【動力源】エイバリアクター
【武装】ヴァルキュリアバスターソード
シールドクラブ 電撃角
【開発者】石動カミーチ

本機体は厄災破格化時期に開発されたというヴァルキュリア・フレームのバリエーションのひとつである。ヘルムヴィーゲを模した重モビルスーツである。機体内部のフレーム自体は、かつてモンタークことマクギリスが乗っていたグリアムゲルズのヴァルキュリア・フレームを流用し、兵衛や外装を人知に交換、封モビルアーマー専用の系モビルスーツとして生まれ変わった。ただしフレームは、本機体の垂直姿勢に対応するための調整が図られている。

◇電撃角

頭部には敵機に突き刺して相手の内部構造を突き切る電撃角を装備。重量級のボディで衝撃を押し込み、倒れる。

◇ヴァルキュリアバスターソード

封モビルアーマー用の大型武器。マクギリスのモンターク商会が厄災戦当時のデータを手入れし、復元した。長短の状況に換装可能。

◇フロントアーマー展開図

重厚長大なヴァルキュリアバスターソードを安定して運用するため、フロントアーマーには武器を保持するためのサブアームが内蔵されている。

◇足裏

地上での攻撃時など、脚部に加重がかかる場合には足の底部が展開し、重力下でも安定する設計がなされている。

◇コックピットハッチオープン

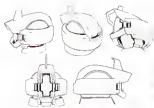
マクギリスは部下の石動に本機体を委ねたが、厳密な意味での機体の所有者はモンターク商会がもち、

EB-04 GEIRAIL

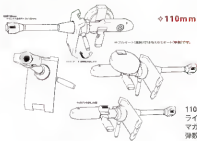
ゲイレール

【型式番号】EB-04
【全高】17.9m
【本体重量】29.8t
【装甲材質】ナノラミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】110mmライフル
シールドアックス
背部ホバーユニット
【搭乗者】カラン・モッサ

ゲイレールはギャラルホルンがダレイズ開発以前に運用していた汎用型のモビルスーツである。簡易的なガンが搭載するゲイレールは、手裏剣が役のため特別に手配した機体で、外装こそ通常のゲイレールと同じだが、内部フレームに陸軍機や古い試作機などのパーツが用いられている。



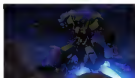
◇110mmライフル



110mmの準重式ライフル。ドラムマガジンによる装弾数の多さが特徴。



◇ゲイレール・フレーム



◇背部ホバーユニット

地上戦でも高い機動性を発揮しうるオプション装備



◇シールドアックス

胸に装着させることが可能な防衛一体型の武器



EB-04jc4 GEIRAIL SCHARFRICHTER

ゲイレール・シャルフリヒター

【型式番号】EB-04jc4
【全高】17.9m
【本体重量】33.5t
【装甲材質】ナノラミネートアーマー
【動力源】エイハブリアクター
【武装】ビッケル
ハンドメイス
クロウシールド
背部ホバーユニットほか
【搭乗者】ガランの部下(傭兵)

ゲイレールの姉妹機。汎用性の高いゲイレールに意欲的な新装甲を加えるコンセプトで設計された。ガランの部下の傭兵たちが搭乗。

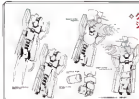
◇ビッケル



◇ハンドメイス



◇クロウシールド



シールドの裏側にはグレネード弾や大型クロウなどを隠し持つ。

MECHANICS



長い翼を経て、火星のクリュセ郊外にあるハーメタル採掘場の地下深くから覚醒した。

HASHMAL

ハッシュマル

【全高】35.2m
【本体重量】149.8t
【装甲材質】テノラミネートアーマー
【動力源】エイハブ・リアクター
【武装】ビーム兵器
連動エネルギー弾
超硬ワイヤーブレード

電撃戦を引き起こした大型兵器モビルアーマーに属する無人機。大戦では数億の人命を奪ったとされるほどの強大な攻撃力を持つ。人々の効率的な大量殺戮を主目的に独自の進化を遂げたモビルアーマーのハッシュマルは、イオタ率いるモビルスーツ部隊のエイハブ・リアクターに反応し、覚醒を遂げてしまう。



◇ビーム砲



口腔から光学兵器のビームを放ち、同時に人々や建物を焼き払う



◇運動エネルギー弾

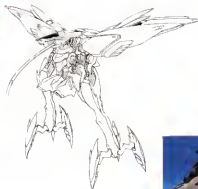
◇結電ユニット



両腕の装甲内にはブルーマへのエネルギー供給を担うマイクロウェーブを発信するユニットがある。



ツメが大地に食い込む。一見すると猛禽類の脚にも見えるが、実際には胸部に相当

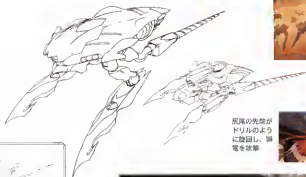


粘性をともなう特殊合金製でしなやかに動く超硬ワイヤーブレード。現在では再現不可能なロストテクノロジーでもある。

PLUMA

ブルーマ

本体のハッシュマルから無数に生み出される無人の高機動型サブユニットで、本体と同様、モビルスーツに反応して敵意をむき出しにする。ハッシュマルの指示で周囲の斥候を担うほか、補給のためにプラントを襲う。また、ハッシュマルを修理する役目も持つ。



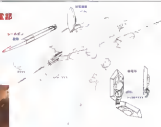
数限りなく出現し、火星の大地を塗り滅びのごとくめつくす。



尻尾の先端がドリルのように鋭出し、瞬電を放撃

◇レールガン 結電部

機体の先端にレールガンの内蔵。結電回路は上面にあるが、座席前やオイルは別注補給を要する。



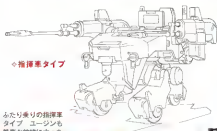
ハッシュマル覚醒に先んじてガンダム・フラウロスとともに1機が覚発後、最期の工廠で暴走した。

各勢力圏のモビルワーカー

モビルスーツの随伴支援機として以前から投入されてきたギラルホルンのモビルワーカーはともかく、各野戦団や民間組織でも相応の戦闘能力を持ったモビルワーカーを保有する事例が見られるようになった。モビルスーツに比してモビルワーカーの戦闘能力が低いのは紛れもない事実だが、一方で機体で戦えるという利点も存在する。副目的の対人戦闘用ならモビルワーカーで充分に対応可能である。



鉄華団火炎本部の野戦機。大別して新旧3タイプが同時に稼働している。



指揮車タイプ



アジール指揮車に乗り、要塞の訓練に立ち会った。

ふたり乗りの指揮車タイプ。ユージンも機体が前線に立った。



標準タイプ



TK-53 鉄華団モビルワーカー (旧)

【型式番号】TK-53
【全高】3.5m
【本体重量】2.2t
【動力源】水素エンジン
【武装】30mmマシンガン
ミサイルランチャー
【搭乗者】鉄華団団員

旧CGS時代から使われているタイプ。阿頼耶派システムが組み込まれており、以前からの鉄華団メンバーが乗ることが多い。



後部に宇宙用の推進器を持つ。第44話では宇宙でバリエーションを考案。

TK-53/s 宇宙仕様



TK-53 鉄華団モビルワーカー (新)

【型式番号】TK-53
【全高】3.5m
【本体重量】3.0t
【動力源】水素エンジン
【武装】80mm砲
【搭乗者】鉄華団団員

第1期第24話から登場したタイプ。車体はTK-53と同様だが、大型の80mm砲を持つ。



TK-56 鉄華団の新型モビルワーカー

ケイワズなどの後援のもと、鉄華団に投入された新戦力。

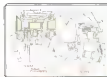
【型式番号】TK-56
【全高】3.9m
【本体重量】2.8t
【動力源】水素エンジン
【武装】80mm機銃
110mmロケット弾ポッド
チェーンガン
【搭乗者】鉄華団団員



鉄華団地球支部にも配備されたほか、第37話ではオルガを搭乗。



阿頼耶派システムは搭載されていないので、主に鉄華団の新人が扱う。



コックピット



モビルワーカートラック

戦いの後、商売の会社では主武器を撤去した機体が登場。運搬用のトラックも各軍方に見える。

UW-33 ユニオンモビルワーカー

【型式番号】UW-33
【全高】7.3m
【本体重量】2.8t
【動力源】水素エンジン
【武装】400mm機関砲
12.7mm対人機銃
【搭乗者】アープラウ正規軍兵士

ドルトコロニー労働組合が決起のために使用した。アープラウ防衛軍でも使用されており、第34話では鉄華団火炎本部にも導入された。



SAU-17 SAUモビルワーカー

【型式番号】SAU-17
【全高】4.0m
【本体重量】3.1t
【動力源】水素エンジン
【武装】200mm砲 / 多用ランチャー
【搭乗者】SAU軍兵士

SAU経済圏で運用されるタイプで、ジェルダに隣接。砲塔部分に細かなディテールの異なるタイプも見られた。

HD-21 夜明けの地平線団モビルワーカー

【型式番号】HD-21
【全高】4.1m
【本体重量】2.9t
【動力源】水素エンジン
【武装】80mmロケットランチャー
115mm砲 7.62x51機関銃
【搭乗者】夜明けの地平線団団員

クーデラア総統のため、ガム・ロディに先行して出撃した夜明けの地平線団の機体。



NK-17 ギラルホルンモビルワーカー

【型式番号】NK-17
【全高】8.3m
【本体重量】3.6t
【動力源】水素エンジン
【武装】大口機銃 ミサイル
対人用チェーンガン
ミサイルポッド
【搭乗者】ギラルホルン兵士

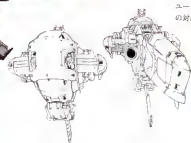
ギラルホルンの新式タイプ。後方支援要員が鉄華団火炎本部の攻城機に投入された。





強襲装甲艦イサリビ

元はウィル・オーザ・ウィスプという CGS の艦艇だったが、現在は数々の宇宙における最大拠点として活躍。ホタルビが配備されてからユージンが本艦の指揮を執ることもたびたび見られたが、ジャスレイとの対決時などではオルガが艦長席に座っている。



◇砲塔



艦体上部の主砲の
ほか、前方の左右
には制空砲塔も埋
め込まれる



輸送船ホタルビ

武蔵國の軍事長官にもない、貨物用輸送船を改造した武装輸送船。専用格納庫を増設し、多くのモビルスーツを運搬可能になった。イサリビと同様、内部には生活居住区も設けられ、火星と地球を片道3週間ほどで行き来が可能。



火星軌道にある共同宇宙港「方舟」に到着中、内部には乗客から運んできた物資などが積み込まれている。



第45話でダインスレイヴの攻撃を排除。火器管制に支援をきたした末、イサリビの面となって轟沈する。

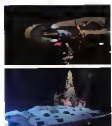


◇艦橋



不遇な女性たちを
算め、タービンス
を作りあげた名瀬
とアミダ。その送
り出し時から本艦
は運行していた。

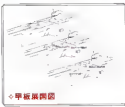
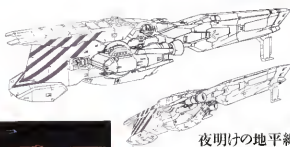
名瀬からの
降伏を無視し、イ
オタの部隊がダイ
ンスレイヴによる
襲撃中砲火を浴
びせた。



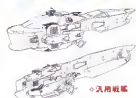
強襲装甲艦ハンマーヘッド

タービンスの母艦。名瀬と子供たちを別にすれば、乗員はみな女性で構成されている。イオタとジャスレイの計略でダインスレイヴの違法輸送の遅れ表を著せられた末、名瀬はアミダに守られながら本艦で最期を遂げる。

タービンスの中継基地となる小惑星
ギャラルホルンに襲われた



◇甲板展開図



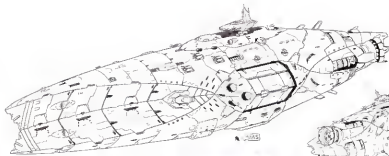
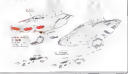
◇汎用戦艦

夜明けの地平線団戦艦

宇宙海賊・夜明けの地平線団の旗艦。艦体そのものは超戦艦時代の強襲装甲艦を流用したもの。このサンドバルが乗る旗艦はダズル迷彩が施されているのも特徴。



夜明けの地平線団が属する3隻の
艦艇。実戦と判断したサンドバル
が無遠慮に砲撃するが、その表裏は不明



スキップジャック級 宇宙戦艦

月外縁軌道統合艦隊アリアンロッドの旗艦で、艦隊司令のラスタルは本艦に常駐。ヴァイダールも基本的にはこの艦に居ることが多い。艦術を固くするように複数の上陸が設置され、敵の攻撃に強える。



ギャラルホルンの主力艦であるハーブピーク級戦艦のほぼ全長を占める



◇石動艦



◇革命軍艦



◇マクギリス艦



◇イオク艦

ハーブピーク級 宇宙戦艦

ギャラルホルンの主力戦艦で、全長は400mほど。セブンスターズが所有する艦艇にはおののけの家族がエンブレムに描かれている。



◇アリアンロッド本艦



族軍の総司令部を受け、百五や百五、ユーゴマン・ロディなど数多くのモビルスーツで抵抗を試みた



◇シャトル

軌道上と地表を往還する輸送機。これを使い、第49話でトドがバエルを輸送したと語られる。



アレスの目を逃れ、鉄軍は火星の地表へ降参を降下させた。



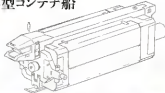
後援時代のアミダの管理した

コンテナ船

宇宙の貨物船。タービンス結成前の名刺も使っていた。



小型コンテナ船



スペースコロニーなど、さまざまな用途で使われているが、カウリングも固有のものが多い



◇艦橋

装甲巡洋艦 黄金のジャスレイ号

ジャスレイの艦橋。モビルスーツの発進ハッチは艦下部にあり、後方へ向けて出撃する格好となる。イサリビやハーブピーク級などと違い、艦橋を艦体内部へ格納できないため、バルバトスルプスレックスの一撃を艦橋に食らって沈没した。



◇タービンス

第40話でハンマーヘッドから逃走する際に使用。色はノーマルスーツと同じ赤茶色が用いられている



◇鉄華団

シノとフラウロスによる決死の作戦が進む一方、バルバトスルプスレックスに補給を断たれる



◇ギャラルホルン革命軍

第46話でハーブピーク級戦艦やクレイスから脱出した革命軍兵士が搭乗。色は青と白。

厄祭戦、そして大戦後の「フレーム」

——モビルスーツのフレームは大戦時にひとつの到達点へたどり着いていた——

R.D.時代の名モビルスーツであるグレイズ。乗り手を必要ない機体の安定性など、マズロボットモデルとしての完成度は厄祭戦時代のモビルスーツをはるかに凌駕する。パルバースにも数多く、デューン仕様のフレック・グレイズなどはギャラルホルン一部の経済圏へ供与したものである。



フレームの素材は「高硬度レアロイ」合金を使用。軽量化は高レベルが特徴で、モビルスーツそのものの認識などにも使われている。一部の試作型フレームなどを除き、基本的に各フレームは半の指先まで該当。なおギャラルホルンだけでなくティウスも同合金を機体開発のために、パルバース・ドクスではフレームも揃えを中心に大幅な改修がなされた。



かつてCGS社長のマルバ・アーサーが旧パルバースを発見した際、機体のエイハブ・リアクターは機能状態だった。約300年以上もの機体に残っている旧パルバースの機体は、CGS社内の動力室として一時使用されていた。現在のパルバース・ドクス（レクス）の前機体はCGS時代の動力室をそのまま転用している。



厄祭戦当時、ガンダム・ヴィンダーという名の機体は存在していなかった。本機は既存機である目的から開発されたもので、その機中では本来必要ない3基のエイハブ・リアクターが露出している。



グレイズ・アイン（左）とレギン・グレイズ・ジュリア（下）。これらともにグレイズ・フレームとレギンフレーム。フレームを流用した機体である。こうした試作モデルを本機に投入させた理由に、ギャラルホルンが鉄血連団に少なからぬ育成を授けていたことがうかがえる。

モビルスーツの内部骨格である「フレーム」。戦後のR.D.（Post-Dissaster＝厄祭戦後の時代）世界においてフレームは大別すると二系統に分けられる。ひとつは厄祭戦時代から存在しているもの、もうひとつはR.D.の時代となって初めて開発されたものである。はるか過去に生み出されたもの最新型の機体が相克するR.D.の世界、それは現実の我々から見ればプロペラ機と音速ジェット機が同一の戦場でしのぎを削り合っているとも思える事象であり、その能力的な優劣は考えるまでもない。

しかし、作中のモビルスーツが現実世界のプロペラ機やジェット機と異なるのは、このフレームが厄祭戦の時にすでに完成を見ており、以降のものは無論さらば派生型やマイナーチェンジにすぎないという考えから成立したためである。ここであらためて、フレームの各タイプがどのような経緯で開発されてきたかを整理してみよう。厄祭戦当時、激戦を意味で最初に誕生したモビルスーツの機体（機群）が何であるのかはまだ明確にされていないが、厄祭戦後にガンダム・フレームが開発され、大戦を終結に導いたとされている。また、それと同時期に機動性重視のヴァルキュリア・フレームも登場している。機体強度を犠牲に機動性を求めたヘキサ・フレーム、そして汎用型のロディ・フレームは、ガンダム・フレームに先行して、厄祭戦中期に開発されたといわれている。一方でのちにティウス・フレームと呼ばれるタイプ（後述）も時期の特定は未詳ながら、厄祭戦の時代に設計が進められていたことは確かである。

もともとモビルスーツはハッシュマルなどのモビルアーマーを開発するために当時の人類が知力を集めて誕生させた仮想的な結晶ともいえる産物であり、その動力源には事実上の半永久的動力機関「エイハブ・リアクター」を使用。これをガンダム・フレームは2基搭載しているが、モビルスーツの起原/終局にエイハブ・リアクターが複数必要かと問われればそんなことはない。巨大なモビルアーマー規模の相手の交戦ならエイハブ・リアクター2基搭載のガンダム・フレームによる攻撃が有効という見方もあるが、モビルスーツの運用にエイハブ・リアクターは1基だけで充分な程である。

また戦後、独自の軍事力で世界に秩序という名の旗を打ち込んだギャラルホルンだが、彼らが絶頂状態の心へ与える精神的な圧力として、巨人を患患させる畏怖の存在にして厄祭戦の立役者でもあるモビルスーツが選ばれるのはしごく自然の成り行きであったように思う。だがここで戦後当時のギャラルホルンは新たなモビルスーツの開発を進めるなど、その開発対象からガンダム・フレームを除外する。ガンダム・フレームの新型を、という選択はきつとあったはずだが、彼らが研究対象とした厄祭戦時代のフレームはヴァルキュリア・フレームだった（厄

祭戦で活躍したガンダム・フレームの機体は格別な存在とみなし、ギャラルホルンをたばねるセブンスターズが管理することで彼らの権威向上を望んだもののなかかもしれない）。厄祭戦時代はガンダム・フレームの後継を拝する形となったヴァルキュリア・フレームだが、エイハブ・リアクター1基でも充分な機動性やエネルギー効率の高さを引き出すことが可能なヴァルキュリア・フレームは戦後の時代において高く評価され、ギャラルホルンによるモビルスーツ開発の地盤となった。

かくしてギャラルホルンの手でグレイール・フレームや同フレームを母体とするグレイズ・フレームが誕生。寒暄を問わない地域への対応はむろんのこと、重力圏の内外にも順応しうる汎用性の高さなど、地球圏外を牛耳るギャラルホルンにとってグレイズはもっとも望ましい完成度を誇った。同機は戦後のR.D.世界におけるモビルスーツの代名詞的な存在として君臨する。

だが戦後に新型のフレームを開発していたのはギャラルホルンだけではなかった。いわゆる海外圏を活動エリアとする複合巨大企業ティウスもその拠点である「歳星」の工廠を中心に自社独自のモビルスーツ開発に腐心。その主たる目的は略奪を重ねる宇宙海賊への対処であり、厄祭戦時代のデータをもとにティウス・フレームを生み出している。

なお、このティウス・フレームによる新製モビルスーツの首飾などが突如に至った一万、火星の民間警備会社CGS（フーの鉄拳団）では厄祭戦時代のガンダム・フレーム機体であるガンダム・パルバースを起動させ、ギャラルホルン火星支部のグレイズ部隊を相手に大立ち回りを果たしたという。終戦からおよそ300年、事実上は寡占状態だったギャラルホルンとモビルスーツの開発構造にかげりが見えはじめる。複数のガンダム・フレーム機体を擁した鉄拳団の活動はギャラルホルンや経済圏の支配にあぐらぐらの希望となった。さらに鉄拳団という市井の団体によるモビルスーツの運用が可能だと証明されたことで、今まではギャラルホルンのほかに一部の宇宙海賊などの非合法組織が使う程度であったモビルスーツも各勢力のコンニャなどに配備。ヘキサ・フレームやロディ・フレームといった厄祭戦時代のモビルスーツが各地に姿を見えはじめる。当然これをよしとしないギャラルホルンでは、鉄拳団らの活動を横目に、新型のレギンフレーム・フレームの実用を当初の予定よりも早く開始にする。これにくわえてティウスもティウス・フレームを母体としたイオ・フレームを開発。まるでガンダム・パルバースが人々の心で固執心を呼び覚ましたのごとく、モビルスーツのフレーム開発は新たなステージへと移ったのである。

CHARACTERS



三日月・オーガス

Mikazuki Augus

CV: 河西健吾

鉄華団の連撃隊長で、ガンダム・バルバトスルプスに搭乗。一部の敵対勢力からは義戦とともに「鉄華団の黒幕」と恐れられている。エドモンソンでの激戦で阿柏邪議を過度に用いた結果、右目と右腕の感覚を失う。そのため、平時は鉄華団本部の片隅で寝ていることもあるが、バルバトスルプスと阿柏邪議でつながっている間は感覚を回復。特異な性格と、オルガの運んだ道に従う意思は以前と変わらない。



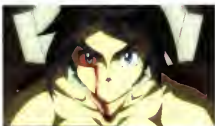
バルバトスルプスとつながることで右目の感覚を取り戻す。



通常時の右腕は三角巾で吊るされている。そのバンドを充てるものごとく、今もなお関節は欠かさない。



火星やしを好む。アリウムの事務所でも磨つぶしに口にしていた。



ハシマルとの激闘は三日月の肉体にさらなる負荷を与えた。傷痕を打破した代償として彼は右半身の感覚すべてを失くす。それでも三日月はオルガに付いていく覚悟を示した。



戦いを否に思わない三日月。これに心を痛めるアトラを三日月は愛おしく感じ、大切に思う。



アドモス聚会へ向かうクーデリアとアトラがキス。

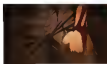


クリュセ市街へ赴くオルガに華族を連乗用に託す



隊員たちを前にオルガの死を自分なりに受け入れ、彼の遺した言葉をまっとうせんと誓う。

愛機の沈没とともに三日月の命の灯も消える。





鉄華団の規模が大きくなったため、デスクワークも増加。だが事務仕事は不向きだと自覚しており、ホタルヒヤイサリビの特殊指揮では活気を取り戻す

オルガ・イツカ

Orga Itsuka

CV | 細谷佳正

鉄華団の団長。エドモントンでの戦闘後、勇躍した鉄華団をより大きくするため奮闘。タイワズ直参組織になったほか、地球支部の開設も果たし、家族である団員たちに安んずらしをさせてやりたいと考えている。やがてマクギリスから火星の統治権限を掌握する「火星の王」となる誘いを受け、さらなる高みをめざすが、それはギャラルホルン最強最大のアリアンロッド艦隊を敵に回した修羅の道に突き進むことでもあった。



地球支部解体の手續きのため、地球にやってきたオルガ。そこで彼はマクギリスから「火星の王」となる提案を受ける。三日月やユージンたちに相談するオルガだが、地位や金銭……「家族」を守るためにすべてを手に入れることを鉄華団の本懐とする彼の心のなかでは、すでに答えは決まっていたのかもしれない



自分の半身兄弟の親もしくし相棒である三日月のことは、以前と同様に「ミカ」と愛称で呼ぶ。三日月との絆は変わらず強い



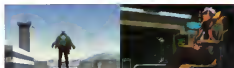
ハシムルとの戦いのなか、オルガのために命を削る三日月。オルガはそんな彼を連れて行くことと約束する。ここじゃないどこかへ。



心が遠いつめられ、一度は自らを犠牲にしようとするが、仲間たちがオルガを助けた



オルガは元貴と奪う名瀬から「火星の王」になることの要諦をあらためて問われる。名瀬は今のオルガの姿がもがき、あがいているように見えていた。やがて、名瀬たちタービンズの窮状を前にオルガは――



名瀬の危機だが、彼の意思を汲んで火星に渡るオルガ。名瀬の死後も一度はその意志に従うも、ジャスレイによる逆い射ちを受けて、ついに鉄華団の総力を挙げて出撃する



総力の命を賭すとす。死の間際、仲間たちに示したのは「誰も殺すな」という言葉だった。

ユージン・セブンスターク

Eugene Sevenstark

・CV 梅原裕一郎

鉄拳団の副団長。調子のいい前はあるものの、根は善良で面倒見もよい青年で、周囲から慕われている。オルガをライバル視していた時期もあったが、今では副団長として、彼を支えようと専門的な戦術指南書にも目を通すなど奮闘している。オルガがホタルビに来る一方、ユージンにイサリビを任せることもたびたびあった。



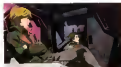
同僚の戦況により鼻息を出しながらも、高い操縦技術でイサリビなどを運用してみせた。



モビルワーカーで活躍。ハッシュマルとブルーマを峡谷で生き延びる作戦の成功が自分たちの救済にかかっていた。



破綻に外傷をまといながら、ガックと新人に抱きかかっていた。が、オルガの異変と三日月にかかわる。



マクギリスの族色が憎しく、さらに「火星の王」の語が不愉快となるが、ユージンは自分たちがオルガを追い付てしまった可能性を顧みる

シノの死、そしてラスタルへの降伏など、心を苛めるオルガに、強い口調で話を詰める。



火星連合の議長になったクーデリアを「お嬢」と呼び、護衛する。



昭弘・アルトランド

Akibiro Altland

・CV 内匠靖明

鉄拳団の実働二番隊の隊長。筋肉トレーニングが趣味で、三日月からは「ガチムチ」と呼ばれたことも。モビルスーツ搭乗要員が増えた鉄拳団のなかにもあってもお戦術技能は三日月に次いで高い。一方、女心に関しては鈍感者ゆえ、シノやユージンから呆れられることも。



かつて自分のジャケットに刺繍されていたニューマンデアリの印を継ぎもこともあった。自分と同じ境遇のアストンとデルマにアルトランド姓を与え、生前のアストンと態度にしてくれたタカギに対し、言葉少なく感謝する。



ラファタの危機に駆けつけた昭弘。連女からの告白が早くも、社会にの告白は今のところまだわからないうえ、計画中にハグされ、緊張する。



口数は決して多くなく、自分のことをあまり語らない昭弘。ラファタは昭弘がアストンにアルトランド姓を与えていたことを知らなかった。



思案のイオクと戦場で出会う。これを優待とし、昭弘はイオクをむねりつぶし、自らも意欲する。



ザックやハッシュ
たち新人に突破を
かけ、訓練指導に
励む。

ギャラルホルン
のグレイズと共
闘することに妙
な感觸を抱く。



ノルバ・シノ

Norba Shino

+CV 村田太志



貴院は女性好きで訪ら
かな性格。夜の街で何
があったのか、ザック
にへつらう。



ユージンに相違するなか、
自分に対するヤマギの扱
ちはおぼろげに理解してい
たようだ



持ち前の芯の強さを
振り絞り、作戦が失
敗しても最後まであ
がこうとした。



タービンの整備士エー
コからは若付けと呼ばれ、備
前隊を率いていたようだ。



フラウロスの初出撃時、シノの
顔の上で涙を流す。口では様
子うな言葉を漏らす。どこか
うれし恥ずかしそうであった。



女と飲もうと誘うシノの顔に不満を
隠さないヤマギ



フラウロスで敵艦を狙うシノを
送り出したヤマギは、やがて何
かを感じたように振る向く。



シノを含む多くの仲間を失って雪やむオウル
に對し、貴院は無口なヤマギが感情を爆発さ
せた。ユージンはオウル方に喉を入れた
ヤマギに感謝する。



戦いの後は雪之丞の会社に。貴中には
「流星号」のマークが

ヤマギ・ギルマートン

Yamagi Gilmerton

+CV 斉藤壮馬

鉄華団の整備士で、新人のデザインとともにいることが多い。雪之丞とともに
鉄華団のモビルスーツやモビルワーカーの整備を受け持ち、かつてはシノの
グレイズ改式（二代目流星号）にマン・ロディの阿頼耶システムを修設し
た実績も持つ。そんなシノに対しては特別な感情を抱いており、ユージンた
ち周囲の面々もその気持ちには気づいている模様。



オルガの意向を察するチャドだが、監査役のラディエーデとは意見が食い違う。



発足式典の開催寸前、爆発から瞬間をかばって重傷を負う。地球の治癒を受け、完治。地球を第二の故郷と誓いつつ、火星本部へ帰還した。

◆アーブラウ防衛軍
発足式典正装



映画の模写でチャドも正装して発足式典に出席。その帰れ家に、同じく元ヒューマンデブリのアストンは待ち構えている。



キラン画のておいて下さい
望めるのは上のチャドのみです



阿蘭刺傷を使い、第34区でモビルスーツを操縦。ランドマン・ロディを振り、ハンユマルを相手に奮闘する。



自分が使っている間に、雲とメリビットが恋仲になっていたことを後から知ってショックを受ける。

チャド・チャダーン

Chad Chadan

◆CV: 石谷春貴

鉄拳団の主要メンバーのひとり。人柄が良く、責任感も強い。もとは拓弘やダンテと同様にヒューマンデブリだったが、不幸な過去にとらわれることなく、新設された鉄拳団地球支部のまとめ役という人任を負う。冠婚葬の歴史について少なからず学んでいるらしく、暗黒やライドも知らないビーム兵器の存在は把握していた。



長き戦いを経て、ユージンとともどもクーデリアのもとで働く。雲とダンテたちとは今もつきあいがあつたよう。

ダンテ・モグロ

Dante Mogro

◆CV: 濱野大輝

鉄拳団実働一帯に所属する元ヒューマンデブリの青年で、性格は大らか。脚電が配備されたことで念願のモビルスーツパイロットとなり、脚電からランドマン・ロディへと乗り移る。電子戦が得意で、かつてはタービンのハンマーヘッドの艦内データも入手したことがある。



電子収集の技能を活かし、捕獲したガルム・ロディからサウンドバルの動向をキャッチする。

ジャスレイの手下にヒューマンデブリがいることを知りつづも戦い続ける



戦いから数年後、同じく一帯所属だったデルタとアドモス商會の孤児院で働く。



脚電にガルム・ロディの脚電マークを塗装しようとするが却下された。



アジーやラフタがタービンを返す間には、モビルスーツの戦い方をレクチャーしてくれたことに感謝する



地球で学校へ通い、入隊中のチャドを同輩もお見舞いする優しい少女



タカキ・ウノ

Takaki Uno

+CV/ 天崎滉平

心穏やかな優しい少年。チャドたちとともに地球支部に配属され、苗苗の熱めもあってアブラウ防衛軍の軍事顧問を務めている。やがて地球支部の解体にともない、就のフウカを悲しませないためにも鉄華団を抜けることを決意するが、のちに意外な形で彼らをサポートすることとなる。



チャドが重傷を負うなか、アブラウとSAUが開戦した。タカキたち少年兵は素人大人たちに操縦されながら、いつ終わとも知れない戦いを続ける



フウカ・ウノ

Fuka Uno +CV/ 山崎はるか

タカキの妹で、エドモントンのアパートで兄と暮らす。食事の支度などは彼女の担当。



人を騙うことを知らないタカキ。だが実は三日月の拳銃を借り、自分たちを助けていたラディエにけじめをつける



東国突然の暮らしをしていたアストンとの思い出は一枚の写真となって残されている



鉄華団を助けたタカキはその後商売の被害として働いていた。窮乏のオルガたちはタカキの応援に励まされる

アストン・アルトランド

Aston Altland

+CV/ 熊谷健太郎

鉄華団地球支部のモビルスーツパイロット。もとは宇宙海賊ブルワーズのヒューマンデブリーとして酷使されていたが、財団から救いをもらい、鉄華団で働いている。不平な境遇で育ったため他者とのコミュニケーションが上手にできないところがあるものの、根は仲間想いの優しい性格。



高圧的なアブラウ防衛軍の兵たちに対して、機嫌を損ねたことも



タカキの家で食事をするのも多く、兄には信頼を寄せている



タカキやフウカたちとの寝がなほいい出を絶えず、ガランの保護で若い命を落とす。



ハッシュ・ミディ

Hush Middy

◆CV 達坂良太

鉄拳団の新入り団員で、MWのパイロットとして所属する。少年時代の兄貴分だったビルスが阿頼耶議手術の失敗が原因で自殺したことを今も引きづっており、自分がモビルスーツのパイロットになることで、ビルスの代わりに仲間を守りたいと考えている。だが鉄拳団では阿頼耶議の協力はオルガによって禁止されており、また実戦でも経験不足を露呈してしまう。それでも、自分ができることを放棄しながら、鉄拳団の一員として活動していく。



第32話で御電に乗り、モビルスーツ戦の初陣を飾る。だが、自分が一方的にライバル視していた三日月との実力の差を思い知らされる。



三日月へのライバル心は燃えに変わり、少しでも速に近づけるため、血生肉にトレーニングを開始する。



第34話以降、悪客が三日月の小遣いも騙みず、彼の世話を率先して行なうようになった。



実戦経験も増え、三日月から少しずつ認められるが、第49話で三日月を送り出し、戦死する。

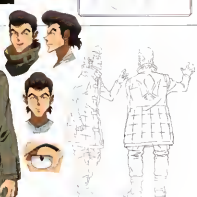
幼少期



◆ビルス



第47話。口癖の多くないデザインだが、実は人を殺した過去を持ち、そんな自分でも受け入れてくれた鉄拳団のほかに生きる場所はないと語った。



メールの死に戦慄の恐怖を知るが、そのまま横置

ザック・ロウ

Zack Lowe

◆CV 古川 慎

鉄拳団の新団員で頭のリーゼントヘアが特徴。好善な性格で、一日も早く実戦を経験したいと思っていたが、仲間のメールの死を前に一度は挫折しかることもあった。鉄拳団のなかでは珍しく、就学経験を持っている。



対ハッシュマル戦では学校で得た知識を活かし、バリエーションの異なる戦術を見極めたことも。



能力差が明確で不利な戦いに陥むことにはらちを感じ、戦術の模倣とともに鉄拳団を去る。だが遂にギャラルホルンに包囲されており戻ることに。

デイン・ウハイ

Dane Uhai

◆CV 木村 昴

鉄拳団の新団員で、ハッシュよりもひと月早く入団した。大柄な体特徴で、手先が器用なところや、重いものの運搬もこなせるため、整備廠で活躍。ヤマギのもとで働き、彼の嫌いなものを食べてあげる役目も担うことも。



ハッシュの会話相手を務める。自分の実力に思い悩むハッシュをデザインに助けた。



タカキたちの応援に地球へ向かうホテルビルの艦内で、モビルスーツの整備員にされているエウロの指示に傾倒する。



ギャラルホルンの包囲網を生き延び、デインとビツクは黒之雲の会社へ。

ライド・マッス

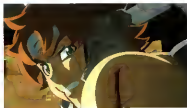
Ride Mass

CV 田村睦心

鉄革団の少年兵。現在は昭弘の実弟二番隊に属している。絵が得意でかつては鉄革団のマークをデザインしたこともある。威勢がよく、オルガによって気の散らない仲間ひとりでもあった。苦手なものは豆のシチュー。



信じながらも事態を把握し、アジーやラフタから健闘を称えらる。



シノの側面を覗き回してハッシュマルから人々を守ろうとした。機体はカラーリンクなどを実装、雷電号として彼の専用機に。



目の前で展開する光景に自分をおぼろげに認める。ライドは突然のことに受け入れられず、放心する。



鉄革団の基幹に賛意、有吉の仲間とともにノブリスへの復讐を果たす。画にはオルガのストル、その手には三日月の筆致が。



デルマ・アルトランド

Derma Altland

CV 室元 気

鉄革団突撃一帯隊に所属。もとはアストンと同じく宇宙海賊ブルワーズのヒューマンデブリで、昭弘の実弟・昌弘の仲間だった。現在はアストンとともに昭弘からアルトランドをもらっている。



感情表現が多い方ではなく、シノが一帯隊を「沈黙隊」と呼んだ時にはどう苦悶していたかわからない様子であった。



第48話のアリアンロッド艦隊との激戦で左手を失う。後年、義手で補っている姿も。



昭弘にとっては、デルマが生きていてくれたことが何よりもうれしかったようだ。そんな昭弘のぬくもりにデルマは感謝を込めて涙する。





ラディーチェ・リロト

Radice Riloto

•CV 深川和征

ティワズから出向し、鉄拳団地球支部で会計や事務の監査役を務める男。合理的な考え方を第一としており、団長の命令を何より大事にするチャドたちの姿勢にいらだちを感じていた。そのため、鉄拳団の由々のことを心の奥底では動物同然だと見下している。



予定どおりに新編が編かれない不満をチャドにぶつける。だがチャドは組織を本部で使うことを優先するよう求めた。



自分の栄記通りにならない鉄拳団地球支部を裏切り、カランと結託。自分に信頼を寄せるタカキをも欺いた。



地球支部の状況を察じてやってくるホルビのユージンたち。彼らを地上に降下させないよう裏工作を図る。

強強に討たれたカランと連絡がとれなくなったラディーチェアブラウとSAUの戦争が終結した後、彼はユージンらの料弾を受け、最期はタカキによって葬られる。



本部の事務室で帳簿整理に課を悩ませるオルガをサポート



第34話、鉄拳団を鉄拳団からアドモス商会に兼任することを両商会のククビータに話す

デクスター・キュラスター

Dexter Culaster

•CV 江越彬紀

鉄拳団火星本部で会計を担当。もとはオルガたちがクーデターを起こした民間費働会社CGSの社員。CGSの人人による仕打ちから少年たちを救えなかった自分の非力さを今も恥じ、せめて少しでも手助けしたいと考えている。



不利な状況になるものの、鉄拳団に残留CGS時代の非力な自分の罪滅ぼしになればと、少年たちのために尽力する。

指名手配にかけられ、資金が没収される鉄拳団。だがデクスターとメリビットは5分の1ほどの資金ながら別口蔵から引き出せると光明を見出す。



戦いの後も無事に生き延びる。ククビータとアドモス両会を切り盛りしている

ナディ・雪之丞・カッサパ

Nadi Yukinojo Kassapa

●CV 斧 アツシ

鉄軍団整備兵をまとめる整備士で、オルガたちは旧CGS時代からのつきあい。もともとはモビルワーカーの整備が専門だったが、バルバトスを中心とする鉄軍団の戦い方もあって、不慣れながらもモビルスーツの扱いを学んできた。ティワズの協力もあり、より知識も増えている。



強面だが気配りは繊細。デルマが遠くで活躍しているランダム・ロディに乗りこえることを懸念した。



このまま眠い寝るごとの意味を叫ぶザックをしつつ見守る。鉄軍団にはザックのような慎重さもある大層だったと話す



いつしかメリビットとは男女の物へと発展 件事も済ませたらしい。



少年たちと戦場をともにする。イザリビが手一杯なのでギラルホルンの艦船で連絡するよう的確な指示を出す



メリビット・ステープルトン

Merribit Stapleton

●CV 田中理恵

ティワズからの出向で鉄軍団火星本部の経理を担当。36時間働きつづめるオルガの体を案じるなど、鉄軍団の少年たちを見守っている。のちにはティワズに訴えを出し、鉄軍団と運命をともにする決意を示した。

のちに KASSAPA FACTORY を起業。雪之丞とメリビットの間にはふたり目の子供が誕生される



鉄軍団が正式にティワズの直参部隊となる際は和服を着用 鉄軍団の旗に添える。



ティワズとの力関係を考え、オルガが「炎星の王」になることに協力をかけようとしたが、最終的には鉄軍団と歩む道を選んだ。



オルガを失って心傷つくライドを優しく抱擁。変する雪之丞との再会には全身で喜びを表現した。



CHARACTERS

鉄華団年少組



かつては「幼年組」扱いで、年齢もいかないうちの幼い面影を見ていたエンビたちも、以前のタカキやライドたちと同様の「年少組」にランクアップした。ももとの年少組は前線に立つ前々の補佐や雑務が主な仕事だったが、第2期に入ってからモビルワークーを操縦したり、戦艦のブリッジを任されるなど仕事の幅も広がったようだ。



仲間たちの旅道を支援するため、第49話で初めてモビルスーツに搭乗。ユージンを後方から応援した。



エンビたちはイザリビのブリッジの左右オペレーター席に就くことが増えた。



エンビ

Enbi
+CV 石上静香



ニット艦が特攻のエンビ。最終的にはイザリビの右オペレーター席を担当。第26話では夜明村の地帯緑団の家園に対し、サックたちに補給を指示した。



エルガー

Elgar
+CV 芳野由奈



エンビの双子の兄。イザリビでは左のオペレーター席に座っている。



褐色肌の少年。水タルビのブリッジで操縦士を務めることも見られた。第49～50話ではエルガーらとともに留電に搭乗。



ヒルメ

Hirame
+CV 大地 葉



後ろ前にかぶった帽子が目印。水タルビのブリッジ乗員としても活躍する。第1期第23話でビスケットの帯い合戦だとアレジに遭ったのがトラウマでもある。



トロウ

Trow
+CV 久保ユリカ



ウタ

Uta



イーサン

Ethan



ウタとイーサンはイザリビでそれぞれ操縦士と火器管制を担当しており、第28、42、43、46話などで確認できる。



第28話ではホルビの左右席でオペレーターを担当していた模様である。



アラタ

Arata



エンカ

Enka

少年兵たち



タカキやアストンとともに地球支部に所属。ひと月におよぶSAUとアープラウの戦争を経験した。



地球支部の警備を担当。モンタークを連れてきたトドを「ジジイ」呼ばわりする。

アトラ・ミクスタ

Atra Mixta

CV 金元寿子

鉄華団の炊事係として働く元気で優しい少女。鉄華団の資金が潤沢になったことで、今までは買えなかった食材を使い、肉肉スープやケバブサンドなどの新しいメニューに挑戦している。三日月とターデリアのことは、以前にも増して「家族」として大切に思うようになる。ちなみに鉄華団からもらっている給料の一部は以前に働いていた「ハバの店」に仕送りしている。



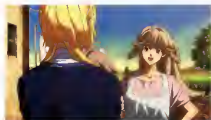
右手が不自由な三日月が戦闘中は動けることを不思議に感じる。彼のことを常に大切に思うが、オルガと三日月の関係には立ち入れないとも自覚している。



激戦に向かう三日月を不安に感じるアトラだが、そんな彼女を三日月が優しく抱きしめる。



三日月のことが心配なあまり、少し思い込みが激しくなるのは相違わず。どこかに行ってしまう三日月をつなぎとめるため、ターデリアに彼との子供を作るよう頼む。



誰もが鉄華団のことを忘れた世界の日々。そんななかでアトラはひとりの母親として成長していた。



雑居街「ハバの店」のおかみさん。子供が夫との絆になったという彼女の経験談をアトラは参考にしている。



「ハバの店」で働いていたころから車を運転していたアトラ。三日月やクッキーとクラッパの送迎を担うことも。

アトラの車



自宅の部屋にはハッシュマルを倒した頃の鉄華団一同の写真が飾られているが、幼き頃はそれを見て何を思うのか。

暁

Akatsuki

三日月とアトラの息子で、顔立ちは三日月。髪の色はアトラを受け継いだようだ。桜霞園でアトラたちと生活している。その左手首にはアトラが作った娘女自身と三日月、そしてターデリアと同色のブレスレットが巻かれている。





特殊のいるクリュセ自治区立幼年寄宿学校 学舎からビスケットが楽々の戦死を遂げたと嘘し立てられることに心を痛めつつも、気丈にふるまう。



学校が春休みに入り、アトラと三日月が迎えに来る クラッカは三日月以上に難しい本が読めると自慢。

クッキー・グリフォン (左)

Cookie Griffon •CV 桑原由気

クラッカ・グリフォン (右)

Cracker Griffon •CV 千本木彩花



叔子の姉妹。かつて戦死した鉄華団の団員ビスケットの妹たちでもある。活発な方がクラッカ、ややおとなしいのがクッキー。現在はビスケットが願っていた学校生活を送っている。



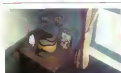
鉄華団が指名平配りになったことで学友たちから後ろ指さされる。怒るクラッカを必死にクッキーは押しとどめた。



サクラ 桜・プレッツェル

Sakura Pretzel

•CV 鈴木れい子



ビスケット・グリフォン

Biscuit Griffon •CV 花江夏樹



兄のサヴァランの死や鉄華団の行く末に悩みつ、オルガをかばい戦死したビスケット。彼がかぶっていた遺品の帽子は一瞬タカキが持っていたが、今は桜とグリフォン姉妹の眼に大切に飾られている。



アドス教会と連携し、農園の敷地内には福祉施設の孤児院を作った



三日月は「桜ちゃん」と呼び慕っており、後者の農園もある

グリフォン姉妹の祖母で、トウモロコシなどを栽培する松園園を運営。今は鉄華団との共同（第34話からアドス教会に委任）で営まれている。

クーデリア・藍那・バーンスタイン

Kudelia Aina Bernstein

●CV| 寺崎裕香

火星の経済的独立のため、日々邁進する「革命の乙女」。アブラウ代表・西苗との話し合いのもと、ティワズの協力を得て火星アブラウ植民地城のハーフメタル探掘、一次加工、輸送業務を担うアドモス商会を設立した。同時にさまざまな角度から情勢を見据え、ハーフメタルの運用に関してはアブラウだけでなくほかの経済圏植民地とも取引できるよう試案。それはタカキにも語った、無限の選択肢から判断することの大切さを彼女自身が実践していることである。ちなみにお金の管理がしっかりしていると鉄拳団メンバーに思われていることから、三日月やアトラ、昭弘とライドなど一部のメンバーの給料はクーデリアがまとめている。



西苗とは結束を介して連携することが多いが、彼の負債時には地球へ赴いた。いずれは地球でアブラウ代表を継承してもらうことを願う両者の願いを叶え、彼女は火星へ戻る。



◇訪問者



ブレスレット

第27話でアトラからもらった胎動り アトラ、三日月とお揃いのデザインとなっている



劇場版を觀う三日月の夢をかなえたいと想っていたクーデリアだが、ハッシュマルとの邂逅を経た彼女の心を、さまざまな意味で動揺を隠さない。やがて、そんなクーデリアは三日月から自分の子供をアトラと名けてほしいと頼まれる――



結成前から支配を執った女型。その連合議員に就任したクーデリアのイヤリングには「決して散らない鼓の華」が、日々の責務を担い、彼女はアトラと彼の待つ家へと帰る。

ククビータ・ウーグ

Cucubita Hugner

●CV| 斎藤真美子

アドモス商会でクーデリアを支える経営事務総長。気さくな性格の持ち主。



アリアンロッド艦隊の部隊が鉄拳団本部に迫るなか、クーデリアや鉄拳団の無事を必死に祈る。

CHARACTERS

マクギリス・ファリード

Mcgillis Fareed

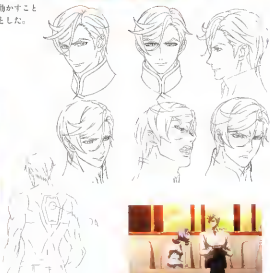
CV 櫻井孝宏



ギャラルホルンの地球外縁軌道統制統合艦隊の新司令に就任。階級は中将。さらに父のイズナリオを排斥し、ファリド家の当主としてセブンスターズの会議に出席する。崩敗の進むギャラルホルンの変革を望み、そのためにオルガたちが鉄軍団へ助力を要請。少年時代からの志願であったガンダム・バエルを自らの手で動かすことで、ギャラルホルンの象徴になんとした。



鉄軍団との同盟を望み、オルガに火薬庫をたばねる「火薬の王」を提案する。



長年の研究のすえ成人では出陣とされる同僚部隊の手術を成し遂げた。



幼い妻アルミリアとの日々を過ごすだがすべての真実を知った彼女に対してマクギリスは、



「アグニカ・カイエルの軍部は常に我々とともにある!!」我々の革命軍の兵士たちを擁護し、ガエリオが陥るキマリスウィーデルと対峙する。



鉄軍団本部をある間際。三日目に対して同行を求める。しかしマクギリスはひとりで本部脱走を後にした。



ガエリオとの長い戦いの果て。いつしかその命の灯は消えていた

少年時代



妻の社会で生きてきた少年時代のマクギリスはイズナリオの養子として迎えられ、ファリド家の高邸で生活。養父の期待に応えられる立場を築いた。



ファリド家で買つけたアグニカの書物が彼の運命を大きく変える。



もうひとつの顔であるモンタークの妻も第33話で登場。マクギリスの親戚がモンタークであった。



ヴィダール

Vidar

CV 松風雅也



アリアンロッド艦隊に所属する戦士。仮面に素顔は常に覆われ、その素性は周囲に明かされていない。自分と同じ名前を持つガンダム・フレームのモビルスーツを愛機とし、圧倒的な戦闘技能を発揮。当初は復讐のことに反発心を抱いていたジュリエッタも、愛機とともに戦うヴィダールの姿には美しさすら見出すほどであった。



戦士としての誇りを尊ぶジュリエッタに、自分も同じような人間を知っていると感じる。



その正体はラスタルなど一部の人間にしか知らされていない。

火星の地底で亡きカルタ・インユーの名前を語り、マクギリスに復讐の念を告げる



スキップジャック戦闘艇のなかで愛機のガンダム・ヴィダールが完成に近づくさまをなめる。



オセアニア連邦のコロニー鎮圧のため、ついに完成した愛機とともに出撃。敵機をよせつけない見事な戦い方を披露する



ガエリオ・ボードウィン

Gaelio Bauduin

ヴィダールの正体。エドモントンでのマクギリスとの戦いで重傷を負った後、実はラスタルに保護されて生き延びていた。かつての親友マクギリスの真意を探るべく、仮面を脱していた。



マクギリスへの憧れを抱いていたかつての日々、ギャラルホルンの変革を語りあう。

復讐を果たす——だがそれでもマクギリスを友だちと思っていた。



愛機とともに、石動を打倒したその心に去来するものは。

マクギリスのグリムゲルダとの戦いで負った傷が顔に今も残る。重傷を帯びて死んだジュリエッタは「整った顔」と評する。



同型即型TypeEをがしたことで、ガエリオの肉体を奪える機関は失われてしまう。



ラスタル・エリオン

Rystal Elion

CV | 大川 透

セブンスターズのエリオン家当主。ハービー戦後戦歴 40 隻以上もの戦力を有する月外縁軌道統合艦隊アリアンロッド司令で、超人最強と自認する。性格は豪快で、身寄りのないジュリエッタのような少女でも賞賛を認めて一線の戦士として扱う。戦闘においては過格な用兵術を展開し、イオクやジュリエッタからは破られている。組織内で変革を望むマクギリスの弱さを察知して行動に移す。



戦いの後、セブンスターズによる合流制を廃止。新たなギャラルホルンの代表となる

自分の命と引き換えに敵軍団全員の助命を請うオルカの願いを聞きかねる。大きくなりすぎた事象の収拾には生計が必要という。



マクギリスの率領役を任せていたガランの死を悔やみ「友よ」と涙らす



若き日のラスタル。幼いマクギリスが「バエル」を求めたことに驚愕を隠さない。



ガラン・モッサ

Galan Mossa

CV | 三宅健太

アープラウ防衛軍の作戦参謀を任された傭兵。実はラスタルのギャラルホルン訓練学校時代の友人で、アープラウと SAU の紛争に乗じてマクギリスを少しずつ追いつめるべく暗躍していた。ジュリエッタに戦術を教えた優秀な戦士でもあるが、本名などはいっさい不明。



タカキと初対面の挨拶を交わすが、直ではラディーチェと無視して鉄無部地球支部を手駒に扱う。



敵艦が襲来してアブリカンユニオンへの脱出を試みるが、近50のクシオンリベイクフルシティにつがされた。

戦士としてのカリスマ性で、少しずつ鉄無部の少年兵たちの心を掌握していった。

イオク・クジャン

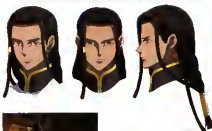
Iok Kujan

CV: 島崎信長

セブンスターズのクジャン家当主。アリアンロッド艦隊に属し、第二艦隊を率いている。艦隊司令のラスタルを信奉しており、彼の政敵ともいえるマクギリスのことは快く思っていない。生来の自信家ゆえ、行き過ぎた行動で周囲を振り回してしまうことも。



自分をかばって死んでいった部下たちの魂を頼らさんと、ハッシュマルに攻撃を見舞う。だがその確固な行動がますます状況を悪くしていった。



イオクの部下たち

イオクを慕う部下たち。クジャン家の先代当主が人望厚かったことで、その威光が今も残っているという。



ハッシュマルが自衛する一役を作り、部下も失った失意の頃にジャスレイが怪しむ。タービンスを焼くことに。



火星での最終決戦で、敵は喝采の勝利の前に振りつぶされた。



イオクから「強」と呼ばれつつ、指に止まった魂を食べるというエキセントリックな行動を見せる。



パイロットとしての技量は高い。顔赤きウィタルを最初は不審がっていたが、次第に頼もしく感じはじめる。

「ひげのおじさま」と慕っていたガランの死に号泣する。彼女がシミュレーターで訓練し、さらに強くなるとした。



ジュリエッタ・ジュリス

Julieta Juris

CV: M・A・O

アリアンロッド艦隊に所属するモビルスーツパイロットで、その戦闘技能は他者を圧倒している。身寄りのない少女だが、ガランのもとで訓練し、ラスタルを紹介された。家柄や階級を重んじるギャラルホルンのなかにおいて、名家出身のイオクが相手でも「バカ」と呼ばわりできる裏表のない性格の持ち主。



石動・カミーチェ

Isurugi Camice  +CV 前野智昭



地球外縁軌道統合艦隊の新司令に就任したマクギリスの最心。マクギリスからの信頼は厚く、彼の名代として数戦討との共同作戦などに就くことも多い。また同時に石動もマクギリスに対しては敬愛の念を抱いており、三日月がマクギリスを「チヨコの人」と妙なあだ名で呼ぶことに憤慨する様子を見せることも。



モビルスーツの息いにも長けており、シュヴァルベ・グレイスやヘルムヴィーグ・リンカーに参戦した。



ラスタル側の動向を要注視とするマクギリス。彼が背中を預けられる有能な側近である。



実はコロニー出身者であったことが死の瞬間に語られ、マクギリスの安寧に希望を抱いていたことがわかる。



◆スーツ姿

火星で鉄華団との合流時にマクギリスとともにスーツ姿に。この直後、ヘルムヴィーグ・リンカーを戦う。

石動の副官

第28話に登場
ハーフビーク戦
軌道で鉄華団と
会合する際に登
場した。



新江・プロト

Arai Proto 

+CV 相馬康一

ゴラル亡き後のアーレスを任されていく火星支部の本部長。マクギリスが監査局時代に推薦した彼の信頼できる人物で、当初は臨時代行扱いだったが、その後正式に本部長となった。

火星軌道に浮かぶ静止軌道基地アーレス。第34話で石動は第二機体を自由に使うようオルガに助った



ラスタルに加担してマクギリスを逆恨みする。だが、さまたげな想惑から、あえて彼を見逃した。



ライザ・エンザ

Liza Enza 

+CV 高梨謙吾

ギャラルホルンに変革をもたらさんとする革命軍の青年将校で、マクギリスや石動の同志。イオタがタービンスに濡れ衣を着せた件を機に、マクギリスからの呼びかけに応じて参戦した。革命軍リーダー格のライザは鉄華団との対面を半ば一方的に喜ぶ。



「左」ギャラルホルンの本部、ウィーンコロブを制圧した。
「右」革命軍兵士たち。バエルを率えるマクギリスの呼びかけに参戦するものも



ヤマジン・トーカ

Yamazin Toka 声優

•CV 生天目仁美

アリアンロッド艦隊付きの技術部長（整備主任）。疑似阿頼耶識システムを搭載した特A級ともいえる微細接いのガンダム・ヴィダールの整備も任されるなど、ラスタルからの信頼も厚い。スキップジャック艦内では数少ない女性だったのか、ジュリエッタの話し相手になることもたびたび見られた。



第38話で初登場。新機軸「のちのレギンレイス・ジュリア」の実験配属を進めるなか、その専任パイロットになるとの申請をジュリエッタから受けた。



アインの髪を使った疑似阿頼耶識システムは、技術課の彼女にとって興味深い研究対象だった模様。最後に彼女は推進者を失ったバエルを静かに封印する



アルミリア・ボードウィン

Almiria Baduin 声優

•CV 加隈亜衣

ガニリオの実の妹で、幼いながらマクギリスの友でもある。当初はマクギリスの父イズナリオが進めていたボードウィン家との政略結婚だったが、そんなこととは関係なくアルミリア自身もマクギリスを愛しており、一日も早くしっかりした娘女になりたいと願っている。



青段はアリド家で暮らし、マクギリスと密やかな時を過ごす

印象設定は第1期のもの



元の死にマクギリスが関わっていたと知り、無理心中を考えるほど精神的に追い詰められる。彼女が刺した傷はマクギリスの左手に残る

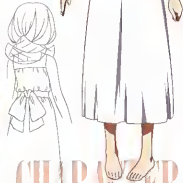
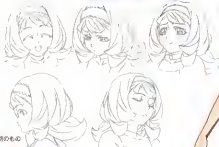
だがそれでもマクギリスへの想いを捨てられず、脚宅を留す父ガリスの呼びかけにも反発。



宇宙でマクギリスとガニリオの衝突が繰り返される一方、少女はひとり待ち続ける

ボードウィン家のメイド

第44話で登場。マクギリスとラスタルの対決が迫るうとしているなか、不安なアルミリアを力づけようとした。第1期第11話にも登場している。



セブンスターズ

Seven Stars

第1期第23話でセブンスターズの第一郎であるイシュー家のカルタが戦死したことは、ギャラルホルンの内部に少なからぬ影響を及ぼした。当主であるオルセ・イシューが病床に臥している現状、同家は不在扱いで、カルタが指揮を執っていた地球外縁軌道統合艦隊はマクギリスが担うことに。現在のセブンスターズは、アリアンロッド艦隊を擁するラスタルのエリオン家とそれに追隨するイオクのクジャン家、そしてマクギリスのファード家が対立するという構図となった。



ファード家



エリオン家



クジャン家



イシュー家



バクラザン家



ボードウィン家



ファード家



ネモ・バクラザン

Nemo Baklazan +CV: 佐々健太

セブンスターズのバクラザン家当主。アーブラウとSAUの対立という経済圏同士が争う初の事態に、象徴を隠せず、地球でそれだけの事態が再び起こる可能性があるなかマクギリスが地球外縁軌道統合艦隊で火星の治安維持にまで手を広げるのは困難だと不安を隠さない様であった。



マクギリスがバエルを退治させたことに影響を受けるものの、マクギリスとラスタルのどちらの味方にもならないという中立策を選んだ。

エレク・ファルク

Elek Falk

+CV: 緒方賢之



いつもは無邪気とした態度で、物事の重要性に深入りしないよう日知見の態度を示していたが、バエルの転移時にはさすがに動揺した様子を見せる



セブンスターズのファルク家当主。マクギリスが地球外縁軌道統合艦隊の新司令となったことで、カルタ時代のような「お飾り」にはならないだろうという、マクギリスに好意的な発言を残したこともある。



ガルス・ボードウィン

Gallus Borduin

+CV: 星野充昭

ガエリオ、アルミリアの父であり、現在はマクギリスの養父でもある。ガエリオ亡き今、娘と結婚したマクギリスのことは息子同前に出ているようであり、イオクからマクギリスが誘拐された時も真っ先に預かって入った。

生きていたカエリオの家に突然とる。そして義父行方をしていたマクギリスに対し、怒りをぶつけた。



マクギリスを見限り、アルミリアを家へ連れて帰ろうとする。だが情の覚悟を失った――



海上に浮かぶギャラルホルンの地球本部ウィーンゴールフ。マクギリスと革命軍に制圧され、七割が掌握された。



イズナリオ・ファード

Iznario Fared

+CV: 速水奨



マクギリスの養父。かつてアーブラウの女性議員アンリ・フリックと政治的密約を交わしており、それをマクギリスに暴かれるというスキャンダルから失脚。山荘で隠遁生活を送っていたが、マクギリスとの関係を公表した。

名瀬・タービン

Naze Turbine TS

CV | 鳥海浩輔

タイワズの運輸や護衛部門を担うタービンの代表。かつては宇宙を股にかけた一匹狼の運び屋だったが、傭兵のアミダといっしょに仕事を組んだことを機に、タービンを起業。世の中で不幸な目にあってる女性たちを会礼に迎えてすべて自分の「女」とし、人組織に発展させた。オルガから「兄貴」と慕われる頼もしい存在で、名瀬自身も鉄拳団のことをつねに気にかけている。



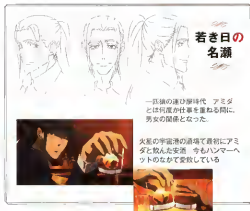
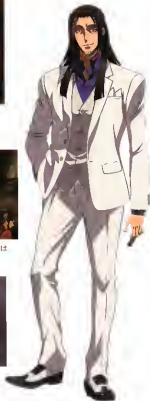
正式にタイワズの傘下に加わった鉄拳団をアミダとともに導く。名瀬も次第若さと目されていく。



ジャスレイとイオクの間に生まれるが、オルカには心配しないよう振舞って振える。



密航であるタービンの女性たちを、アミダが百練で救った後、ハンマーヘッドで襲撃を受けた。



若き日の名瀬

一匹狼の運び屋時代。アミダとは何處か仕事を重ねる間に、男女の関係となった。

火星の宇宙港の道場で最初にアミダと飲んだ安酒。今もハンマーヘッドのなかに愛飲している。

アミダ・アルカ

Amida Arca TS

CV | 田中敦子



女は男を動かせる太陽、と語る名瀬に惚れる一方、女性性を失いものの異質に強うジャスレイは不快に思う。



初期に立つことは滅亡したが、現在の愛憎・百練とのコンビは健在。輪舞式グレースードランチャーを武器にレギンレイヌを仕留める。



若き日のアミダ

傭兵時代。今も保に接する傭兵は星の証としてこの地球にも見られた。名瀬との出会いが彼女のみならず多くの女性たちの運命を変えることとなった。



タービンス *TS*

Turbines

タービンスは裏社会で搾取され、酷使されている女性たちを救済する目的で名瀬とアミダが中心となって起業した会社である。もともとアミダは戦国時代に、女性ばかりの運輸会社ペインツツ商会の運営を機に名瀬と別れることを考えていたが、この時期にタービンスが創設されているようなので、同商会もタービンスの一部になったのかもしれない。



幼いラフタの前に現われた名瀬とアミダ。各地で働けられている女性たちに手を差し伸べてきた。

ラフタ・フランクランド

Lefty Frankland +CV/日笠陽子

タービンスの活発なモデルスーツパイロットで、ミールの手入れは欠かせない。名瀬を「だーりん」と呼んでいたが、次第に密偵をひとりの男性としても意識するようになり、名瀬も娘の巣立ちのように思っている。



幼い頃は、劣悪な環境の過酷な生活で暮らしていた。



ぬいぐるみ

アミーとの買物中、一時別行動をした際に陽気に似たぬいぐるみを手にした瞬間、過激な感動が――



ラフタの仲間にして良き親友でもあり、密偵を想う彼女の真心を察する。



鉄道団には教官役として出向したほか、ラディーチェが運んだ地雷支那のデータ整理も手厚く。

アジー・グルミン

Azee Gurumin +CV/国立幸

タービンスのモデルスーツパイロット。密偵は口数が少ないが、ダンチたち鉄道団の指導役をラフタとともに務める際は声を荒げることがある。



新組織をたはねるアジー第48話でアドメス商会を介し、鉄道団への助力を約束する。



名瀬とアミダの死後、鉄道団にはついていけないことを意識。菊弘とは別れることになるが、彼の大切な思い出を胸に生きていくこととする。



同じ整備士のヤマギと共に作業することもある。フラウロスをマゼンタピンクに塗り替えたシノに呆れたことも。

エーコ・タービン

Eco Turbine +CV/久保ユリカ

タービンスの一角。ハンマーヘッドの操縦士と整備士として活躍する。フルマ発案の一件をギャラルホルンへ報告するよう提案したのも彼女。



名瀬亡き後の新しい組織では、乗組の操縦士を担当。



乗組

名瀬とアミダの遺体はギャラルホルンに回収されたが、マクマードのほかにいて遺体で乗組を数行。その際にラフタたちは服を着用した。



乗組の後、三人はマクマードと面談。今後のタービンスは乗組部門のあり方について話し合うことになる。

第1期第7話などにも登場したハンマーヘッドオペレーターたちも乗組に参画。第1期第7話に参画。



タービンスではエーコのほかグニーテールが特徴のビルト・タービン（上）などのように、タービンスの機をもった女性クルーも数見られる。また、名瀬とタービンスメンバーの間に生まれた子供たち（下）も数多い。



第39～40話ではラフタやアジー以外のモデルスーツパイロットの姿も確認できた。

ティワズ

Teiwas

火星や木星などの国外圏で幅を利かせている巨大複合企業。ギャラルホルン一強を破った鉄拳団を正式な直参団体に迎え入れ、さらにハーフメタル資源による利潤をもたらしたターデアアとも連携し、組織はより大きくなりつつある。しかし大組織であるがゆえにティワズも一枚岩ではなく、この状況を必ずしもよしとしないジャスレイの機嫌を伺うてしまう。



第34話。名瀬とマクマードを含むティワズの古参幹部14人が集う。討議の内容は、マクギリスと鉄拳団が手を結ぶ件について

マクマード・バリストン

McMurdo Barriston ◆CV 石塚運昇

ティワズの代表で、名瀬とオルガたち鉄拳団を高く評価している。夜明けの地守隊団を鉄拳団が壊滅させたことの報知として、火星のプラントを彼らに任せる判断を下した。その一方で、必ずしも情だけでは動かない、駆け引きを心得た堂々たる豪丈である。



肝の据わった三日月のことを気に入っており、ハッシュマルを倒した彼を許え、お菓子のカンノー口を勧める



知照意味で、言葉をたしなむが、タービンスがギャラルホルン（イオク）の重宝を受けたとの報せには動揺を隠せなかった



名瀬たちがこの世を去って数年アジエを相手にテュスで勝負する場面も



歳星整備長

◆CV 野川雅史

ティワズの本拠地「歳星」の工廠でモビルスーツなどの整備を担う。バルバトスやダンコンリベイクの強化など、鉄拳団も世話になっている。工廠には無敵戦時代のデータが数多く揃えられていることから、クワロスのエイバ・リアクターの固有周波数を新りに機体名の特定を成し遂げた。



夜明けの地守隊団討伐に乗り出す鉄拳団に別しても露骨に敵視するが、マクマードに諷められる。



タービンスがティワズに近づいた頃から名瀬やアミダを密に監視している。彼らの野望の端でも下品な態度をつく



黄金のジャスレイ号のなかで鉄拳団の攻撃に対処する



ジャスレイ・ドノミコルス

Jasley Donomikols

◆CV 竹内良太

ティワズNo.2の実権を握る幹部。組織内で頭角を伸ばしてきた名瀬を高く思っていない。自分の会社であるJPTトラストが先代のタジヤン公（イオクの父）とつき合いがあったことを利用し、イオクと接触。彼をたきつけて名瀬を退ける作戦を実行に移した。



マクマードをも抑圧する算盤だったが、その目論みは露見し、最終は宇宙に敗る



サンドバル・ロイター

Sandoval Reuters

◆CV 橋 大典



事敵が劣勢と見るや部下の驍勇を退治させ、自らはモビルスーツのコアで出撃。ギャラルホルンのクレイズを撃つあしらが、最後は三日月とバルバトススに敗れた。



ガルム・ロディ 隊長

「敵軍団の悪魔」ことバルバトスとの加戦を望んだが、圧倒された末、シノの斬撃に敗れて逃走する。



夜明けの 地平線団の双子

夜明けの地平線団の幹部。族長のブリッジでサンドバルの腸を固めている。それぞれ頭のバンダナと同じ色のユーゴーに象るが、兄はジュリエッタのレギンレイズ、弟は石動のシュヴァルベ・グレイズに敗れた格様である。



クーデリア暗殺の依頼主であるアリウムに対し「活動家風儀」と見下した態度をとる。



双子は機体色と武装が異なるユーゴーで出撃した。マゼンタ色(左)が兄機で、パールグリーン色(上)が弟機



アリウム・ ギョウジャン

Allium Gyojan

◆CV 田中 完

火星クリュセ地区の活動家団体テラ・リベリオニスの代表。かつては独立運動集会「ノアキスの七月会議」にクーデリアを推戴したが、現在の彼女に取り合ってももらえないことを逆恨みし、殺害を目論む。



自分の活動団体が下火のため、クーデリアに資金援助を申し込むが、断られたことで彼女を逆恨みしてサンドバルに暗殺を依頼した。



縁のあったノブリスからも見捨てられ、暗殺計画が露見したアリウム。オルガからの懸賞を請求を断るや、三日月に射殺された。

蒔苗・東護ノ介

Makanai Togonosuke

◆CV 妻人

地球のアーブラウ代表。したたかな老人だが、かつての亡命から再選挙にいたるまで、鉄拳団とクーデリアに受けた恩義を忘れず、彼らの支援には力を惜しまない。アーブラウ防衛軍の軍事顧問に鉄拳団を推薦したのも蒔苗である。



世間にはSAU側が仕掛けたと思われるが、かつての亡命から再選挙にいたるまで、鉄拳団とクーデリアに受けた恩義を忘れず、彼らの支援には力を惜しまない。アーブラウ防衛軍の軍事顧問に鉄拳団を推薦したのも蒔苗である。



鉄拳団全員のIDを抜き取るというオルガたちの密策に驚く。爆発事件の間に命を救ってくれたチャットに感激を感じていることもあり、彼らへの助力を約束する。



晩年、蒔苗はヒューマンダブリ損耗運動に尽力。蒔苗の死後、クーデリアたちは彼の意思を引き継ぐ。



ラスカー・アレジ

Lasker Alesi

◆CV 飛田展男

蒔苗の膝を慕いだアーブラウの新代表。以前から蒔苗を支持していた温かな議員で、鉄拳団やクーデリアの行動に対しても深い理解を示している。



一時は蒔苗の秘書を務めていたタカキは今は自分の右腕に選んでいる。彼への信頼は深い。



蒔苗の秘書

かつて蒔苗がオセアニア流刑へ亡命していた時期も含め、彼を輔佐していた青年。



トド・ミルコネン

Todo Mirconen ◆CV 青山 穰

マクギリスのもうひとつの顔であるモンターク商会の社員。もともとはCGSの社員で、さらに一時期は鉄拳団にも属していた。金儲けには目がなく、裏切りがうまい。



CGS時代には少年兵たちと不運な出会いをしたため、親を会わせたユージンから苦々しく思われる。

バエルを火星地表から軌道上へ転送し、主人であるマクギリスが戦場へ向かう様を密偵後で見届けた。



モンターク（マクギリス）を私人として鉄拳団のもとへ送迎。乗用するリムジンはファリド家で使われていたものである。

ノブリス・ゴルドン

Nobliss Gordon ◆CV 長 克巳

火星クルセセ地区を拠点とする資本家。武野商人「GNトレーディング」としての非情な顔も持ち、各コロニーやギャラルホルンを相手に利潤を得ている。



自分の利益になる可能性を察してアリウムと組んでいたが、最後は見捨てられる。

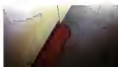


クーデリアのアトモス商会を見つけたノブリスの部下たち。オルガの姿を認めるや、銃弾をあげた。



ラスタルに目を付けられた鉄拳団と手を切るようクーデリアに促す。

鉄拳団破壊から数年後。一時は火星を襲っていたが、ライドの手で撃たれ、部下たちも乗滅された。



独立の果て 彼らが声の限りに叫んだあとで つかみとったものは

「マクギリス・ファリド事件」から数年。三日月とアトラの子供・曉の成長具合から判断して4～5年の経過といったところだろうか。火星と地球をまたにかけた波瀾の「マクギリス・ファリド事件」はおさまりを見え、人々が組上に載せることもなくなった。この事件はすでに過去のものとなったのである。モビルスーツなどの大型兵器は放棄されたわけでもなく、おそくはギャラルホルンが新体制に移行してもアフリカンユニオンなどの各経済圏でくすぶっている火種はこれからもどこかで噴出するかもしれない。それでも、鉄拳団の残した意義は大きい。貧困にあえぐ火星の人々



アトラとクーデアたちの家から望む丘には今も鉄拳団の遺跡が静かにたたずむ。あの時に彼らが生きていたことは紛れもない事実なのだ。

や、ヒューマンデブリを救済するというクーデアの目標は、「マクギリス・ファリド事件」をきっかけに変った世界で、その一歩を走めたのである。

だが、これから先も多くの難題がクーデアたちの前に突きつけられることだろう。そこにはクーデアが三日月と最初に関わった会話の時のように相手に生じることだとして考えられる。それでも彼らは自分たちのなすべきことと信じた道を進むに違いない。それはオルガが家族みんなに示した、立ち止まらずに歩み続けることなのだから。

アルミリアや新江など、主観が不確かな面々も少なくないが、ここでは主だった面々を中心に、戦いのあとでどのように生きているのかをまとめてみた。



三日月をひとりの異性として意識していたアトラとクーデア、生きてきた経過こそ違えど、死闘を振り捨てるなかで、ふたりの間に友情以上の情が生まれたのは確かだろう。今現在、ふたりは戦いとともに彼たちの家でも生活している。



いつしか空村に発展していた雪之丞とメリビット。子供もふたり目が誕生間近だ。事件後は、「KASSAPA FACTORY」を経営（社のマークはがつてラドがデザインした「流星号」のもの）し、モビルワーカーの整備を中心にこなしているようだ。ヤミギやティン、ザックもここできている。



喧嘩好きな実働二番隊の員として機庫まで勇氣ある行動を見せたラド。オルガの死というあまりにも重く過剰な現実に直面してしまっただけは、戦いのあとでも鉄拳団の遺跡の戦で遺言を聞く。惜しい。ノリスを前導した今もラドはオルガの示した道を歩み続けているのだろう。



輸送部門にしばって活動再開した新組織を切り盛りするアジーとエーコ。時間がある際、アジーは屋敷でマクマードとチェスをたしんでいるようだ。今のアジーの家は名流の小柄な面出で、エーコ、アミダの物質としての価値も受け持っていることがうかがえる。



がつての友、マクギリスとの戦いに決着をつけたガリエオ。そして「鉄拳団の遺跡」を討ち取ったジョリエッタ。疑問の裏面調査システムを外したことはより、阿部由緒による解明がなくなり、身体が不自由になったガリエオに、ジョリエッタはしばしば会いに来ているようだ。



副団長と地球支部のまとめ役としてそれぞれオルガを支えてきたユーゲンとチャド。そんな立場だったふたりだからこそ、火星連合議会の地位に就いたクーデアをサポートできるのだろう。ふたりがクーデアを解放するかわり、アドスと密接はデクスターとククリンが中心となって運営している。また鉄拳団を倒したタカ子も現在はアブラウ新代表となったアレシの秘書に就任。火星とアブラウの架け橋となるべく日々奔走している。



実働一番隊で奮戦したダンテとデルマ。両者はアドス時が運営する孤児院で働いている。思えばデルマやアストンたちブルワースのヒューマンデブリをオルガが運入し入れさせたため、心算をわがいたのがダンテだったことから考えても、デルマといっしょの今の仕事は天職なのかもしれない。



鉄拳団の新人として入団したザックとデイン。有名な鉄拳団に入って自分もあやうらうとしたザックと、人殺しの過去を持つデインに行き場がなかったデイン。それぞれの運命はまったく異なるが、実は意外にいいコンビだったようだ。事件後は、二人とも高層の施設で働いている。



最強重火を誇ったアリアンロッド艦隊司令のラスタル。セブンスターズの合謀劇を倒したギャラルホルンの新代表となり、クーデアと手を結びヒューマンデブリ脱却運動に力を注ぐ。



CGS、鉄拳団、モンターク商会と世渡り上手に歩んできたトド。マクギリスからみれば異質な自分と正直なトドが人脈としてうらやましかったのかもしれない。とうやうや主帥のマジリスから彼にきあとのモンターク商会を任せられたという。

SPECIAL INTERVIEW



監督

長井龍雪

メカデザイン

鷲尾直広

「主人公機としてのガンダム」のイメージを、根底から覆したガンダム・バルバトス。異形で悪魔のような姿への変化は、一方で三日月というキャラクターを具現化し、まぎれもなく主人公機としての存在感を示した。

果たしてそのデザインの意図には、どんな思いが込められているのだろうか？

Profile

ゆながい・たつゆき アニメーション監督、演出家「ハチミツとクローバーII」で初監督。以後、あの目黒たかの名前を借頭は本末知らない」「心が叫びたがってんだ」などのヒット作を手掛けるゆわしお・なほひろ メカニックデザイナー「蒼穹のファフナー」シリーズに代表されるように、他にはない特徴的なデザインを生み出す「ガンダム」への参加は「機動戦士ガンダム 00」に続き、二作目

バルバトスに求めたのは 純粋なカッコよさ

—まずガンダム・バルバトスのデザインはコンペで決定されたとのことですが、鷲尾さん家のどんな点が決め手になったのでしょうか？

長井 ストレートに一瞥かっこよかったことが大きかったですね。コンペに参加されたデザイナーのみなさんは、とても尖ったアイデアを出し合っていたのですが、その中でも感覚的に「かっこいい」と感じたのが鷲尾さん家だったんです。

鷲尾 これは色々な媒体でお話していますが、なるべくコンペに受かるように、狙ってデザインしたんです。ですから、いつもの自分のラインは封印しました(笑)。寺岡(賢司)さんからは、「こういう時は好きに描きなさいやダメだよ」と言われたのですが、自分の場合、好きに描いたら使ってもらえないので

長井 たしかにコンペは、参加頂いた方々に

は本当に自由に描いていただいたという印象があります。それこそ、本当に重視にしか見えないアイデアもありました。商品とは切り離せないシリーズではありますが、みなさん好き勝手にやりましたよね(笑)

鷲尾 最初にいただいた資料メモを見ると、とても幅広く作品をとらえることができるような内容でした。それこそ重機っぽいものでも合うかもしれません。ただ、コンペはとても難しいんですよ。僕らの仕事は、監督やプロデューサーの意見をもとって形にすることです。それがコンペになると、自分の中にあるもので「どの線を狙っていくか？」というやり方になってしまいますからね。

—主人公機に「機動戦士ガンダム」のRX-78ガンダムのイメージを求めていた部分はありますか？

長井 それはありません。今はガンダムというモデルスーツのバリエーションが山ほどある時代ですから、「どこまでがガンダムとして認めてもらえるだろう？」という疑問は自分の中にもありました。そこでコンペで一度ガンダム感みたいな部分を崩してもらって、

もう一度考える機会をいただいたと思うんです。そのうえで「単純に口ポットとしてかっこいいものを選ぶ」ということが基準になった気がしますね

鷲尾 自分のコンペ案は狙って今風のバランスで描いたものが、結果的に個性のある形になりましたね。最初は「自分を抑えた」といいつつも、最終的に決定したのは自分らしいデザインになったかなと。

—たしかにコンペ案は鷲尾さんらしさが薄い感じを受けますが、バルバトス自体は非常に鷲尾さんテイストを感じるデザインになりました。

鷲尾 ただ、そこで「自分の持ち味を出してデザインを詰めていった」ということではないんですよ。やっぱり長井監督や小川(正和)プロデューサーといったみなさんの意見を取り入れて、その中から組み上げていったものなんです。

長井 コンペ案から現在のバルバトスにいった大きな変化は、フレームに合わせて再構築するという過程が大きかったと思います

鷲尾 コンペは本来ガンダムとフレームのセ

ットだったんですが、僕はフレームの提出が間に合いませんでした。一方で篠原（保）さんが描かれたガンダムそのものが、長井監督がイメージするフレームのデザインに近いものでした。そこで篠原さん案をベースにフレームとしてデザインし直して、僕のコンペ案を外装として乗せるという流れですね。

フレームに合わせる中で 独自のラインが見えてくる

——完成したバルバトスは、篠原さんのコンペ案のイメージは残しつつ、細部のバランスは大きく変わったものになりました。

篠原 最初はどうしても方向性のイメージが滲みず、今風のガンダムのバランスに落ち着いてしまっていたんです。そこで監督が「こんなイメージをお願いします」とラフをサラサラと描いてくださって、求められている方向性がとてもしっくりきました。一番のポイントは、なで肩でしたね。

長井 シルエットがバルバトスだけのラインになりましたね。昨今のモビルスーツはいがり肩が中心だったこともあって「同じラインで勝負すると埋もれてしまうだろう」と感じていました。また、できるだけ腕を長く見せたいという意図もあります。

——腕を長く見せたいというのは、なぜでしょうか？

長井 これはプラモデルの進化の過程で生まれた流れだと思うのですが、昨今のガンブラのプロポーションは、脚がとても長くなっている反面、腕が短くなっているような印象を受けるんです。プラモデルのプロポーションとして、これが現在のかつこよさの主流にあるのは避けられないこととも思いますが、たまたま脚を長く見せるバランスをとるために、腕を短くするという逆転現象のような状況になっているとさえ感じられました。「鉄血のオルフェンズ」のモビルスーツに関して言えば、今回は近接戦闘がメインで、手足を使った動きを積極的に取り入れるという前提でしたので、それこそ普通の人間体型よりも腕は長くなっています。特にアニメーターさんはどうしても肩で描いてしまうことも多いので、描いているうちにいつものプロポーションに戻ってしまうことがあります。そこでデザイン段階では、腕の長さを強調してもらっていますね。

篠原 僕のフレームが引き出しだったことも、可動域の拡大にはよかったですよね。どうしてもお腹がブロック構造だと、動きに制約が

ガンダム・バルバトス
(第4形態)



ありますから。

長井 フレームを考えていただいたとき、腰の部分を重う外装が思いつかなかったんです（笑）。可動を阻害しない外装ってなんだろうって。素らがい素材なのか、それとも軽質なのかと。

固定観念を振り払った 立体化へのプロセス

——フレームやプロポーションは、これまでのガンブラとは異なる流れと感じますが、バンダイさんの反応はいかがでしたか？

長井 今回はバンダイさんのほうが意欲的に新しいデザインを受け入れてくださった印象がありますね。むしろこっちが「本当に大丈夫ですか？」とお聞きしたくらいで（笑）。

篠原 1/144スケールもほぼフレームが入っていますが、まさかここまで作ると思わなかったんですよ。自分としては「模型のためにデザインを考える」ということはせず、上がったデザインの料理の仕方は、模型のプロであるバンダイさんにお任せするというスタンスでした。

長井 驚いたのが、すごいスピードで立体試

作が上がってきたことです。篠原さんがラフを上げると、翌日には光造形が上がってくるんです。三面図でデザインを絵こしているわけではないのに、それだけの要素で立体にするんだからすごいですよね。「新手のプレッシャーのかけ方か!?」と思うぐらいでした（笑）。

篠原 バンダイさんはとても綿密厳守でしたよね。

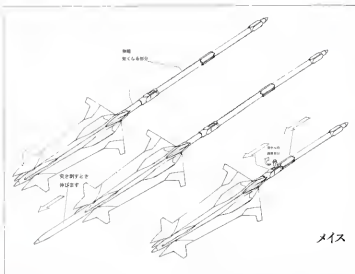
長井 そこは工業製品としてのスケジュールの組み方が、結構厳しそうですね。

篠原 「どのタイミングまで直してもらえるのか」という点は、結構シビアでしたね。設定の細部まで上がっていかなくても、ガンブラの作業は進んでいるので。

——実際にはどんなパーツを調整してもらいましたか？

篠原 基本的にはパーツの厚みや、曲線のラインですね。特に肩の位置を何回か調整して頂いた記憶があります。どうしてもいかり肩になりがちなので。最終的には、なで肩にもいかり肩にもできるという折衷案で調整してもらいました。

——これまでのガンブラのセオリーからは、かなりかけ離れたものになったという印象がありますね。



長井 バンダイの担当者である安永（亮彦）さんが、これまでSDガンダムを中心に担当されていたことが大きかったでしょうね。TVシリーズのリアルな「ガンダム」を手掛けるのが初めてということもあって、意欲的に取り組んでくださったと感じました。

高岡 低年齢層向けSDガンダムは、通常のガンプラよりコストダウンの調整が多いのでそのノウハウを活かして価格を抑えていただけたのもよかったですね。しかもその上で、フレームも感じさせるし、組むのも手間じゃないんです。とてもバランスがよいキットになったかなと思います。

登場機体を抑えつつ バリエーションを増やす

——ガンプラとの関係性という意味では、第1期で描かれた「バルバトスのパーツの付け替え」という点も大きな要素です。

長井 そもそもパーツ換装はここからの提案だったんです。昨今の「ガンダム」シリーズは、機体としてのガンダムが多く登場することが求められていました。ただ「鉄血のオルフェンズ」は、もともと新しいガンダムが次々と出てくるような物語ではありません。その中で商品のラインナップを維持するためには、既存のガンダムの形態が変化していくことが必要でした。「完全な新型は多く登場しませんが、主人公機のシルエットはある程度変わっていきます」という趣旨です。でも実際にプラモデルでも換装ができるようになったのは、バンダイさんのおかげですね。

高岡 試作が上がってくるのが早いので、打ち合わせの場でパーツを付け替えて「なにが

できるか」検討できたのも、とても助かりました。最終的に使用するパーツが決まったら、キットでも付け替えられる構造に直してください。その選播はアイデアに結び付いていますね。

長井 使用するパーツに関しては、シナリオで決まったことをメカ打ち合わせに持ち込んで、アイデアを提案していただくという流れでした。そのあたりはデザイナーの皆さんに柔軟に対応して頂けたのは大きかったです。

——デザイナーとしては、バランスを取るのが難しい仕事だったのではないのでしょうか？

高岡 バルバトスはかり揃っていた印象がありますね（笑）。ただ、バルバトスはまとまったデザインというよりは、特に第1期では鉄軍団という組織規模からもグチャクチャでOKという機体でしたよね。

——デザインとして大きな変化を遂げたのは、第5形態からでしょうか。

高岡 そうですね。第5形態のときに踵のパーツをつけたのが、一番大きな変化でしょうが、結果的に身長が伸びてつま先立ちになったので、バランスを合わせるために、ルプスではさらに手を伸ばすことになりました。

長井 脚が長くなった分、手が短く感じてしまうということですね。脚が長くなることで自分で懸念していた逆転現象を、自分で起こしてしまっていますね。

——設定的には地上用サスペンションという設定でした。ここで踵パーツを注した意図を教えてください。

長井 ベタ足だと踏み込む絵を作りにくいんですが、踵をつけることで、アクションがつけやすくなるんです。背を高くしたいわけでも、脚を長くしたかったわけでもなく、アクションのための踵パーツでした。

衝撃のメイスと 現轉からの解放

——第1期では、最終的に外装面でも大きく変化を遂げた第6形態にまで行きつきました。

高岡 第6形態は、これまでと見た目が大きく変わるように意識しました。兵器って、現用の戦車でもそうですけど、使い続けていくと現場でカスタムしていくものじゃないですか？ そういう兵器って、不格好だからかっこ悪いのかといえば、逆にかっこいい部分もある。バルバトスの場合、不格好のほうがお話しの流れに則したのになりますからね。そういう現場改修のような雰囲気が出ていれば、面白くないかなと感じました。特にギャラルホルン側は海老川（兼武）さんのきれいなラインで描かれているので、どんな型になっていくバルバトスとの対比構造が生まれたのは、よかったと思います。

——これまでのガンダムシリーズ作品の流れに従われないという考え方でいえば、メイン武器であるメイスも常識を覆すものとなりました。

長井 自分は最初から本家だったんですけど、「メイスがメイン武器です！」といっても、誰も信じてくれなかったんですよ。

高岡 僕もイマイチ信じていなかったですね（笑）。

長井 たぶん最初の時点で信じていたのは自分だけでした（笑）。こればかりは「今後はメイスなんですよ」と何回言っても、スタッフは「いやいや、なにおっしゃる」という感じでしたからね。

高岡 第1話を見るまで、誰も信じていなかったでしょうね。でも第1話が完璧な出来でしたから、あの一着でみんなメイス信者になりましたね（笑）。

長井 ただ残念ながら1/100スケールキットには入れられなかったんです。これはもう、メイスの魅力を伝えきれなかった自分の責任です。

——ガンダムといえばライフルと剣と盾ですが、その常識を変えるのは難しかったのでしょうか。結果的に第6形態のキットに、メイスが付属することになりました。

高岡 でも、第1期の最終決戦であるグレイズ・アイン戦では剣を使っていたじゃないですか？ でも今度は（第6形態のキットに）剣がつかなかったんですよ。意地悪しているわけじゃないんです（笑）。なぜかチグハグになってしまってます（笑）。

長井 これはお互いに気を使ひ過ぎた結果な



んです。ずっと剣を使っていなかったことが引っかけで、『じゃあ最終話は剣でいこう!』と思ったわけです。一方でバンダイさんは「最後の機体こそメイスをつけるぞ!」という気持ちでした。お互いのことを思っ

たのれっ! 別に両方のキットを買ってもらおうと思って、分散させたわけじゃないんですよ——これは強調しておかないといけませんね(笑)。

最初のメイスは結構簡単に決まったんです。それこそ初期ラフから微調整くらいで、完成しました。でも、このあとの武器がなかなか決まらなかったんですよ。

長井 最初のメイスが強烈すぎたゆえに、それを越えるのは軒余曲折ありました。最終的に小川プロデューサーの「大きくすれば」という事で、超巨大メイスに落ち着くわけですが……。

三日月専用機体として意識すべきとは?

——第2期のお話が出たところで、ガンダム・バルバトスルプスの話を伺っていければと思います

長井 第1期では第6形態までバルバトスをデザインしたことで、ある程度作業の進め方は確立していました。そこでもう一度すっきりとしたバルバトスをデザインしてくださいと賀尾さんをお願いしました。

賀尾 そうでした。ルプスのデザインがスタートしたのは、第1期の途中でまだ第2期の内容が確定していない段階でした。小川プロデューサーからは、「先にデザインがあつたほうが監督のイメージも湧きやすいかもしれない」ということで、デザイン先行で進めたんです。

きっと「三日月をイメージしてデザインすれば、おのずと内容に合う落ち着きどころに

なるだろうな」とは思っていました。そもそもバルバトスは三日月用に調整されたガンダムではなかったたので、彼に合わせた形に加えて、自分なりにやりたいラインをまとめられた方がいいなと。

——作業的には第1期までの経験も生かされた形でしょうか。

賀尾 そうですね。方向性はわかっていますから、作業時間はそれなりにかかっていますけど、リメイクも肩を直した程度でした。特に第2期はフレームを描かなくていいのがよかったですね。

——共通フレームだけに、変化をつけるのが難しいという部分はありますか?

賀尾 それはないですね。ただ気をつけないといけないのは、「フレームに乗せる」という意識だけで描いてしまうと、それ以上の形にならないんです。最初はフレームの存在を意図せずにラフを描いてみて、ある程度の段階でフレームに乗せてからバランスを整えていく流れです。形部(一平)さんみたいに大胆になればいいんですけど、僕はそこまで切り切れませんでした(笑)。また第4形態は、かなり曲線を抑えてシンプルにしているのですが、ルプスはかなり複雑な曲線を入れることができました。

——具体的にはどの部分のパーツになりますでしょうか?

賀尾 たえば顔の横のパーツや、肘のラインです。設定画だけでは読み取れないので、これは設定や回面に書き込みながら、安永さん一か所ずつ説明しました。一方で作画で描くうえでアバウトに処理してもらっても大丈夫という意識でした。

長井 作画的にある程度のゆがみが許されるデザインなので、その点はとてもよかったですね。

賀尾 寺岡さんもそうおっしゃってくれて、うれしかったですね。結構ノリで描く人には、描きやすいデザインみたいで。

——逆にデザインが複雑化することで、作画

スタッフの印象も変わったのでしょうか。

長井 そこに関しては、第2期になって作画さんもある程度慣れているだろうということも織り込み済みです。たとえば肩の鉄華団マークにしても、いきなりつけるのはためらわれます。ですが第6形態を経ていることで、ある程度は行けるかもしれないという手ごたえはありました。

肩に刻まれた象徴は鉄華団のものを現す

——ルプスに肩に鉄華団のマークを入れたのは、どんな意図からでしょうか?

長井 鉄華団の専用機。象徴を意味するものです。物語の結末としても、バルバトスの終わりが鉄華団の終わりを意味していましたから、鉄華団を端的に表すアイコンとして絶対にマークは入れたかったんです。

——赤ベースで白いマークになっていますが、配色にはどんな意図がありますか?

長井 鉄華団マークのベースは赤ですが、たとえば鉄華団が着ているジャケットのマークも白なんです。形さえあれば、色には決まりはないというイメージですね。

賀尾 肩の色については、何パターンが提出しました。肩に色を付けたのは、バルバトスとの差別化を図るためです。バルバトスからルプスになる段階で形はかなり変わっているんですけど、色が同じでは一見すると変わつたように見えにくいんですよ。そこで色の違いがすぐ分かるような配色にして、変化を強調しています。

長井 特に第2期になると、作画スタッフはその人ごとのバルバトスのバランスが完成してしまっているので、デザインが変わっても描いたときの雰囲気はあまり変わらないこともあるんです。色が違うぐらいまでのレベルに行かないと、違いを出すことは難しいですね。



—ルプスの大きな変化といえば、先ほど話題に出た腕部の延長ですね。シルエットも大きく変わりますし、主人公機もつイメージとのバランスが難しかったのではないですか。

長井 これは先ほど鷲尾さんがおっしゃったとおり、脚が伸びた分、また腕を伸ばすというところで、そこそごシグナスのときには、手足のフレームにハブをかましていたほどですから、ある程度の延長はOKというイメージでした。

—ガンブラ的には、すでにフレームがあるというメリットがありますよね。

長井 パルバトスの初期の試作は動きませんでしたけど、ルプスはキットのフレームが使えることで試作の段階で動かせたからですね。

鷲尾 また新たにフレームを作ると、ここまでスピード感のある対応をしてもらうのは難しかったでしょうね。最初にフレームを作るのは大変でしたけど、意外とメリットは多いかもしれません。

—鷲尾さんのおっしゃるとおり、ルプスのデザインはスムーズに進んだという印象ですね。

鷲尾 武器のほうがむしろ大変でした。ツインメイスはどうしてもマラカスになってしま

って。使っている絵を見ても、やっぱりマラカスでしたね(笑)。

長井 (笑)。デザインをがんばるほど、魔法少女のステッキみたいになってしまいましたね。メイスに関しては、レンチメイスよりも大きくするのは難しいかもしれないと感じていました。別方向に振っていかないと、ひたすらインフレになってしまうだろうと。まあ最終的に超大型メイスになってしまうわけですが(笑)。

—あまりにも大きすぎると、劇中でも扱いにくいのでしょうか？

長井 あまり大きいと小技が使いにくくなって、アクションが美味になってしまうんです。そこそこメイスの一振りで終わりですから。大きいほうが一枚絵としては映えるんですけどね。ただ、ルプスレックスは手を大きくした時点で、もうメイス使わなくてもいいかも、という気持ちだったんです。最初にメイスを使い切って、そのあとがルプスレックスの本番でいいんじゃないかって。

三日月の生き様に ヒロイックさはいらない

—ルプスレックスのデザインは、より異形さを実感した印象がありますね。

鷲尾 そうですね。特にルプスレックスは腕の長さが決まらず、何度も描き直しました。腕を長く大きくするのはOKなんですが、どこまで伸ばすかという点が問題だったんです。

最終的にもっと長くしたい監督と、ある程度で抑えたい小川プロデューサーとの中間ぐらいのバランスで落ち着きました。

長井 たしかにあまり腕を巨大化すると、「これが主人公機に見えるのか？」という難しさもありますし、最後だから三日月のイメージに思い切り振り切りたいという気持ちもあって、そこはジレンマがありましたね。ただ、最終回に向けて「もうヒロイックなイメージはいらないだろう」という気持ちはありました。

—そこそこテイルブレードも、主人公機のイメージから外れている印象がありますね。

鷲尾 テイルブレードをつけることになったのは、ハッシュマルのデザインが前提です。特に「尻尾をつけてほしい」というオーダーがあったわけではないですね。パーツの形状自体はハッシュマルと違いますが、「最後くらい捨ったパーツをもう一回つけてみよう」という意図でした。

長井 テイルブレードは便利すぎましたね(笑)。いわゆる「ガンダム」シリーズ最終話付近に出てくるお約束的なファンネルの1つというイメージでした。ルプスレックスの明確な特徴としてよかったと思いますね。

—ルプスレックスの活躍を振り返ると、新しい主人公機デザインの可能性を感じさせますね。

長井 ルプスレックスのデザイン時に、パールのデザインも並行して進められていたのも大きかったですね。天徳的で主人公感のあるパール、異形のパルバトス。そしてキマリスの系統があることで、イメージの幅分化が図れたと思うんですよ。

鷲尾 そうですね。パールにマクギリスが乗るとなったときに、3体のバランスがうまく振り分けられたんじゃないかなと思うんです。3体並んだとき、三日月のイメージを投影するなら、ルプスレックスぐらい踏み込んだほうが差別化できますからね。

—ルプスレックスでは肩が青になっているのですが、これも変化が一目でわかるような意図でしょうか？



ガンダム・パルバトスルプス
(ツインメイス装備)

鷲尾 そうですね。肩の青と胸は、ルプスとの明確な差別化を意図したものです。最初は青の面積が多い案も出したんですけど、ちょっと違うんですね。バルバトスのイメージって、基本的に真っ白なんです。そこで白の面積を増やして欲しいと言われたと思います

長井 青が強すぎると、非常に「二号ロク」っぽい感じになってしまうですよ。それこそ形は変わりましたが、「バルバトスらしさ」という意味では最後まで書いてほしかった気持ちがありますね

——第2期になって、三日月は手持ちの銃をほとんど使わなくなりました。この描写も、三日月専用機として改修されたという印象を強めていますね。

長井 そうですね。長物で離れたところから撃つくらいなら、とりあえず突っ込んで殴ってほしいという気持ちがありました。

鷲尾 バルバトスは三日月の戦いが決まっているので、飛び道具を出しても意味がないんです。最初は色々使いましたが、バルバトスが三日月用になったらもう必要ありません。結局、ルプスレクスでは、最終的に銃火器を腕に内蔵する形になりましたが、これは牽制用として割り切った装備です。でも、これによってグシオンリベイクフルシティとのバランスが取れたと感じますね

——本編には登場しませんでしたでしたが、第2期の最終話では最終決戦直前の登場も想定されていたとのことですが。

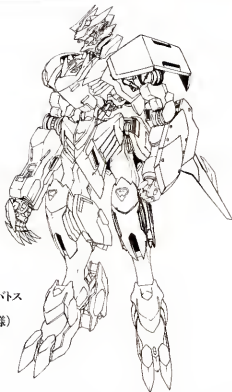
長井 一度でボロボロになるのではなく、最終話に行くまでに、数回戦闘をしたうえで段階的にボロボロになっていくというアイデアがありました。そこでルプスレクスが左腕を失い、第1形態の腕をつけるという第1期の逆パワーアップのような描き方をしようと思っていたんです。ですが到底描く時間もありませんでした。そもそも三日月にダメージを負わせるような敵がいませんでした。ハシムル戦以降の復讐した三日月は、ほぼ無敵ですからね。最終決戦直前の正な感じは好きなので、どこかで使いたいとは思っていたんですけどね

忘れていたガンブラの魅力を引き起こさせる

——ファンの方のガンブラの楽しみ方から、気づいたことはありますか？

鷲尾 皆さんイメージを入れて作るのが楽しいみたいですね。最近のガンブラでは珍しい傾向ですから。そこはちょっと情かしく感じ

ガンダム・バルバトス
ルプスレクス
(最終決戦仕様)



ましたね。昔のガンブラは、そういうイメージがありましたから。

——ここ数年はスタイリッシュなイメージのガンダムが多かったですからね。

鷲尾 そこは長井監督の「肉弾戦で殴り合うガンダム」というイメージを、ファンのみなさんが受け止めてくれた結果だと思います。

長井 描写として描けた部分と描けなかった部分はありますが、思ったとおりの絵面はできたと思っています。

——鷲尾さんの、全話数通して気に入っているモビルスーツはどの機体になりますか？

鷲尾 ルプスですね。もう一度きれいにまとまったデザインを描けて、自分のラインも出つつ、うまくまとめられたのではないかと思います。自分の満足度は一番高いです。

——「ガンダム」に関わったことで、あらためて感じたことは？

長井 「ガンダム」はもはやジャンルであり、あらためて懐の深さを感じました。「鉄血のオルフェンズ」では、かなり飛びぬけたことをやっていますが、それでも全部受け止めてしまうという「ガンダム」は、とても大きく大きなコンテンツだと実感しています。個人的には、子どものころからファンだった「ガンダム」という作品で自由にやらせていた

いて、本当に楽しかったというのが素直な気持ちです。

鷲尾 デザインとしては「マガンダム」のような前例がありますから、ルプスレクスにしてもトリコロールの構成にしてもええガンダムになるという意識は変わらないですね。自分としては新しさというよりも、ビームがなくなったことで「機動戦士ガンダム」のイメージを再認識できたという気がします。「機動戦士ガンダム」も、最初はガンダムしかビーム兵器を持っていませんでしたからね。特に「モビルスーツは陸戦兵器だ」ってあらためて感じさせてくれたのが驚きでした。火器の鉄血団本部の戦闘シーンを見てると、ヘッドフォンから聞こえる音が怖いんですよ（笑）。「ああ、あの足元には行きたくない」って思わせてくれる。モビルスーツは重い兵器だということを、この作品で再認識できた気がします。

プロデューサー

小川正和

MASAKAZU OGAWA

キャラクターデザイン

千葉道德

MICHINORI CHIBA

チーフメカアニメーター

有澤寛

HIROSHI ARISAWA

絵コンテ・作画監督

大張正己

MASAMITSU OKABE

これまでの『ガンダム』シリーズのセオリーを
覆す挑戦が行われた『機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ』。
その実現のために大きな力となったのは、
キャラクター・メカを支えた作画スタッフであることは言うまでもない。
メインスタッフのインタビューから、その舞台裏に迫ってみよう。

Profile

◇おがわ まさかず サンライズ所属。『機動戦士ガンダム SEED』『機動戦士ガンダム 00』で制作進行・制作デスクを経て、以降に製作された『ガンダム』TVシリーズのプロデューサーを担当する

◇ちば みちのり アニメーター。『機動戦士ガンダム 00』『機動戦士ガンダム AGE』などでキャラクターデザイン、作画監督を手掛ける。近年の『ガンダム』TVシリーズを支える中核スタッフ。

◇ありさわ ひろし アニメーター。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』で、初のメカ作画監督を担当。『ガンダムビルドファイターズ』シリーズでは、チーフメカアニメーターを務める

◇おおばり まさみ アニメーション監督。アニメーター。80年代からメカニックアニメーターの第一線で活躍し、監督としても多数の作品を送り出す。主な代表作に『スーパーロボット大戦 OG—ジェインズベクター』『超魔神グラヴィオン』シリーズほか。

これまでの歴史が培った
強固なスタッフワーク

——『鉄血のオルフェンズ』を手掛けたサンライズ第3スタジオは、これまでTVシリーズの『ガンダム』をメインで手掛けてきました。その流れで本作のメインスタッフが構成されていると感じますね。

小川 そうですね。『鉄血のオルフェンズ』のために今回のスタッフが集まったというよりは、TVシリーズの『ガンダム』や別な作品で培ったことから積み上げられた結果だと感じています。たとえば千葉さんに最初にお仕事を依頼したのは、実は「ゼーガバイン」のED（エンディング）でした。その後に水島精二監督から『機動戦士ガンダム 00』のキャラクターデザインを千葉さんに、というお話があったんです。有澤さんとは『機動戦士ガンダム SEED』からの付き合いですね。ちょうど有澤さんが新人時代に東京に出てきたとき、駅まで迎えに行ったんです。

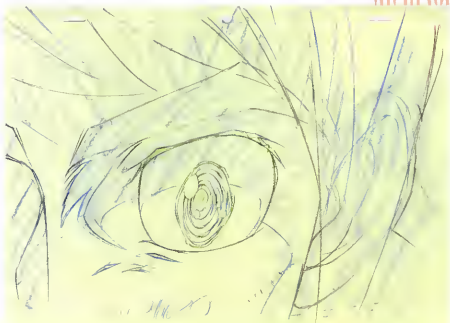
有澤 まだ制作進行時代だったもんね。

小川 制作進行になって一年目が二年目ですわね。

——大張さんとサンライズ作品の関わりを振り返ると、80年代まで遡ることになりますね。

大張 最初にサンライズさんと一緒に仕事をさせていただいたのは、『機甲戦記ドラグナー』のOP（オープニング）でした。その後、『ドラグナー』と同じプロデューサーさん（吉井孝幸氏）に、「新シリーズを立ち上げるから」と呼ばれて参加したのが『勇者シリーズ』です。僕個人としては、それまで『破邪大星ガンガイオー』をはじめ、絵が多くて枚数も多いOVA作品をメインに参加してきたこともあって、TVシリーズへ参加することは相当悩みました。TVシリーズは統一感が必要ですし、誰が描いてもかっこよくなければいけません。そこで「定規を使えば、だれでもかっこいい絵を量産できるスタイル」を開発したのが『勇者エクスカイザー』でした。仕事量的には、シリーズ第二弾の『太陽の勇者ファイバード』のほうが多かったですね。実は平行で『DETONATOR オーガン』という監督作品も手掛けていて、本当に忙しかったですね。

千葉 当時、僕は中村プロにいて、まだまだ駆け出しで、大張さんファンでした（笑）。大張さんの動画もやらせてもらって、すごく勉強になった思い出があります。



Chiba Selection

#49 マクギリス・フェルト*

このカットは目の造形の彫削感が濃かったです。設定に入っていないのですが、伊藤悠さんの目の造形を意識して入れています。同シーンの河西信吉さんの声を何度も聞きつつ、静かだけれどまみがあり、かつ悲憤にならないようになり難かったです。実はこの造形は、第1期からたまに入っていたのですが、金銭的にこのカットが一番わかりやすいかと思っています。(千葉)

大張 そうだったんですね(笑)ありがとうございます。

千葉 中村プロの新人時代は、サンライズ担当だったこともあって、いろんな作品に関わらせてもらいました。中村プロをやめてからは、あまりサンライズに縁がありませんでしたが、まさかここまで「ガンダム」に深く関わるとは思っていませんでした。

大張 僕は「ガンダム」にはあまり縁がなかったんですけど、実は『機動戦士ガンダムF91』に「作画監督で参加しないか?」と声をかけてもらっていたんです。でも掛け持ちはできませんから、どちらにしようかと悩んだ結果、立ち上げに関われる「勇者シリーズ」を選びました。もしあの時、「F91」を選んでいたら、今はまったく違う人生になっていたかもしれません。「F91」は枚数を使ってもいいし、多岐形を使ってもいいということで、かなり魅力でした。なにより富野(由緒季)監督の大ファンでしたから、ぜひ参加したかったんです。そのチャンスを逃してから、「ガンダム」には本当に縁がなかったのですが、すごく時間が経って「機動戦士ガンダムAGE」に参加できることになりました。

小川 大張さんが参加されたのは、大塚(健)さんのご紹介でしたよね。大張さんには常々お仕事をお願いしたいと思ってまして、ちょうど「AGE」のタイミングで実現しました。大張さんにOPを担当していただきたかったのは、プロデューサー的に「インパクトを与えられるものはなんだろう?」ということを考えて結果です。特にキオ編になり、AGE-3になることもあって、誰もが納得できるかごよさや驚きが欲しかったこともあります。ただ、本当に心苦しかったのは、ガンダムAGE-3の出番が少なかったことですね。

描き手が自由に描くことで 作品の魅力が育まれる

——これまで第3スタジオが手掛けてきた「ガンダム」シリーズと、「鉄血のオルフェンズ」の明確な違いはどんな点でしょうか?

千葉 一番大きいのは、普通の日常芝居が入ってきたことでしょう。意外と思われるかもしれませんが、たとえば「機動戦士ガンダム

00」などは日常芝居がほとんどありません。また長井(龍雄)監督が劇場アニメを手掛けた直後だったこともあって、劇場っぽい表現が多いこともハードルが高かったですね。「これは大変なことを狙ってきているな」と(笑)。

小川 意外に感じる方もいるかもしれませんが、キャラクターの日常芝居をちゃんと描くことはとても難しいんです。今は日常系アニメが山ほどありますが、本当に日常芝居をしっかり描いている作品は、あまり多くないと思います。

千葉 やっている体で処理するやり方もあるんですよ。食事のシーンにしても、食べていることを描くのではなく、食べている体で処理する。でも今回は実際に食べているんですよ(笑)。

大張 作画的には大変な割に、効果が乏しいのが厳しいですね。

千葉 そうなんです。日常描写は見ていると流れていってしまうものですからね。うまくいっても普通、逆に違和感があるとよく目立つんです。

小川 キャラクターの造形に關していえば、今のアニメっぽくないという点は珍しかった

でしょうね。

千葉 そもそも昔のアニメの絵は、もっと色々な幅があったんですよ。今の時代は、どのアニメも似たような感覚で描かれていて、漫画作品も割とアニメナイズされた絵が多いことは否めません。そこで伊藤悠さんのようなガッツリした絵を描く漫画家さんのパラエティのあるキャラクターに対応するのは、作画的に大変ではありますね。今にして思うと、「AGE」もいいプロセスになっていますね。

大張 個性的な体形ですからね。よくまとまったなと思いますもん。美形キャラのカテゴリで手が高いじゃないですか。

千葉 そうなんです。顔だけ見ると、マクギリスってスマートなイメージがあるんですよ。でも実はガッツリ逆三角形なんですよ。どうしてもマクギリスはスマートという先入観があって、シュッとしたマクギリスが上がっ

てくることも珍しくなかったですね。

小川 パラエティのあるキャラクターを描ける作品も減っていますからね。

千葉 僕が「総作画監督をやりたい」と思っている背景には、「描く人がそれぞれ頭で考えて出してほしい」という気持ちがあるんですよ。こちら（総作画監督側）で全部固めちゃうと、作画スタッフはただ要素を拾って描くだけになってしまう。キャラクターを見て、自分の中で個性を把握したうえで描いてほしいんです。そういう訓練を積んでいかないと、業界は育っていきませんからね。ちゃんと考えて出してきた絵なら、少々違っていてもいいという気持ちでした。

有澤 それはありますね。僕も皆さんが描く様々なガンダム・バルバトスをのぞいていました。大張さんの描くバルバトスすごく好きでしたし。

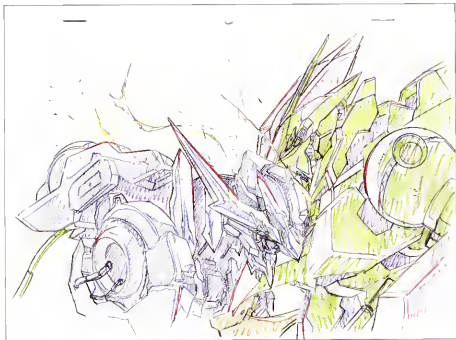
大張 ありがとうございます。もう皆さん、

「俺のバルバトス」みたいな感じでしたよね（笑）。一般的に単純なロボットのデザインなら、作画スタッフごとの個性が発生しやすいんですよ。でもこの作品ですごいのは、カチガチの凝ったデザインで、立体物もあるうえで個性を出していることですね。アニメーターの数だけバルバトスが存在するみたいな感じでしたから。

有澤 まさにそうなんです。もうかっこよく描いてくれれば、なんでもOKという感じでした（笑）。

小川 そこは最近の「ガンダム」では珍しく、主人公機を変更せずに、最後までバルバトスで貫いたということが大きいと思います。描き手さんの中でイメージが育っていきまさらね。

大張 僕は第3話でメカ作画監督と絵コンテをやらせてもらったんですが、バルバトスにどういうボーシングをさせるかは、とても悩



Arisawa Selection
#50 彼等の居場所

このカットを描くときに、「バルバトスが最後のひと睨りで出ていった」という感じを出したくて、自分でも再び動作をしながら作っていました。この一連のカットは「ああ（作品が）終わるんだな」という思いを特に感じながら作業していましたね（有澤）



みました。今までとは違う作品ですし、実際にかなりアドリブが入っています。メイスの柄が折れて、先端のギミックを使って書くとかもそうですね。メイスを構えているポーズにしても、あまりかっこよくしてないでダランとさせてサンライズベースも抑えめにしています(笑)。それが三日月らしい立ちポーズかなという意識ではありました。また最初はバルバトスのリアクターが発光しながら回転して動くとか、回転数が上がると出力が上がると書いていたんですけど、それは最終的になくなりましたね

小川 長井監督としては「泥臭くやりたい」ということで、なるべく光ものはさないという方向性だったんです。まあ最初は「目すら光らせない」と断言していましたが、いきなり光ってしまいましたか(笑)。

一同 (笑)

ビームも爆発もない戦いは「痛さ」が浮き彫りになる

——有澤さんはチーフメカアニメーターとして、どのような指示を出されたのでしょうか？

有澤 基本的な設定は作りましたが、動きやエフェクトなどに関しては、担当のメカ作画監督さんや原画さんにお任せですね

大須 簡単に爆発が爆発しないのは、個人的にいいなと思いました。ビームを撃って、ちょっと眩れただけで爆発するというのは、ちょっと寂しいですね。普通を考えれば、モビルスーツって一機数百億円はしてもおかしくないじゃないですか？ そんな兵器が簡単に終わってほしくないという気持ちもありますし。

——ビームで爆発して高発しないということは、どうやって相手を倒すかまで踏み込んで描かないといけないんですね。

小川 一番の決め手がコックピットを潰すことになってしまいますからね。それによってダメージや血の表現が残っていることで、前後のカットのつながりを含めるのが大変だったという点は大きかったです。言い方は悪

いですけど、ビームは一瞬で高発して消滅してしまうので楽なんです。でも消滅せずにその場に存在している以上は、カットの合わせが大量に発生してしまいます。その分、演出的に意気盛はたくさん出せたと思いますけど。

大須 自分の担当部分でいえば、第25話(第1期最終話)のグレイズ・アインとの戦いも、これまでのシリーズならビームで決着がつきそうなところですけど、刀で勝負していますからね。コンテの段階ではあの形ではなかったんですけど、原画の段階で変更しました。三日月からは沖田総司のような雰囲気を感じられて、「じゃあ突きしかなんだろう」と思ったんですよ。これは新選組関連の作品に携わったときに、色々と調べていた経験が活かされました。

小川 ビームがないことで、逆に残酷になってしまいう点は否めません。ビームは美しい表現と言えるかもしれませんが。たとえば第1期の第23話で描かれたカルタ戦は、かなりギリギリの表現でした。

千葉 まあ戦争ものや時代劇って考えれば、普通の表現ではあるんですけどね。

小川 「機動戦士Zガンダム」や「機動戦士Vガンダム」といった前例もありますし。

千葉 とりあえず「伝説巨神1号」を見るというかもしれません(笑)。結局、悪役に人の生き死にを描いてはいいわけではないということなんです。別に残酷さを見せたいわけじゃないですからね。

シーンへのこだわりが、見たこともない描写を生む

——ここからはみなさんが気に入っているエピソードと、その理由をお聞かせください。

有澤 最終話(第50話「彼等の居場所」)です。ラストシーンを描いているときは、「ああ、これで最後だ」と思いながら描きました。いろんな思い出がよみがえりました。第25話が終わったときも終わったなっていう感じがしましたが、第50話はイベント(THE LAST FLAG)の会場で見たこともあって、胸に来るものがありました。

大須 僕は「天使を狩る者」(第38話)です。ここは非常に責任感をもったのぞんだ話でした。設定的に初めて登場するものも多いですし、あのハシュマルを圧倒するバルバトスの強さが描かれるわけですから、とても重要なエピソードと言えます。意識したのは、バルバトスが持つ獣性や悪魔的な強さを感じさせるようにすることですね。こんな動きをTVシリーズでやっていいのかと思ったんです。

小川 ハシュマルとバルバトスの戦いは、シナリオだと1ページもないぐらいのシーンなんです。それを絵コンテの寺岡賢さんが削りまして、100カットぐらいのシーンになってしまっ……(苦笑)

大須 この話数は、カットिंग素材を作るときに、アクションカットに関しては全部自分でシットワークをやらせてもらったことも大きかったですね。たとえば密度が濃くて短いカットや、印象に残るカットとを分けて考えて、演出的なスキルを使いながらうまく印象に残るように配置して見えています。あれでかっこいいカットを短く見せるとかです。

小川 その辺りのタイミングの取り方や引き出し方を、本当は今後を担う若い方に継承していただきたいところなんです。

大須 この覚醒したバルバトスは、銀の光+ブラスマ+バーニア+足元の煙で、ものすごい枚数なんです。1カット250枚とか使っているんです(笑)。もう「これどうさばくんだろう……」って考えちゃったほどです。でも梶島洋介くんや山下裕仁さんといった頼もしい後輩が来てくれて、友輔パワーで乗り切れました。自分的にはこの第38話をやっているときに、第43話のコンテの依頼も来たことが修羅場でした。まあその状況すら楽しんだ自分は、相当Mだ(笑)。

千葉 個人的に思い出があるのは、最初と最後ですね。第1期の最後である第25話、第2期のスタートである第26話もそうですね。ただ、個々の話数というよりは、三日月の表情の調整をずっとやってきたという印象が強いんです。普通怒っている表情は悪相になりがちなんですけど、三日月ではやりたくなかったんです。そこで伊藤さんの漫画を読

みながら、目のゆがみを真似して入れてみたりしていました。後半に行くにしたがって、その傾向はより顕著になっていっていると思います。それは設定には描かなかったんですけど、修正集には描いたので、だれかが描ってくればいいなという程度の気持ちでした。——三日月は魅力的なキャラクターですが、作画的には難しかったでしょうね。

千葉 おそらく一番難しかったでしょうね。「主人公だからかっこよく描きたい」という気持ちになると思うんですけど、三日月はちょっと朴訥とした感じが必要なんです。普通なら口をかっこよくカットと聞くシーンでも、そこはあえて閉まりをなくすんです（笑）。最初にキャラクター表を作っている段階でも、決まるまではかなり難儀した部分ですが、継続する以上は自分でやるしかないです。主人公の成長しないという意味でも、三日月は稀有なキャラクターだったと思います。むしろ三日月に対する他のキャラクターの対応や接し方が変わっていくという感じでした。逆に色々なキャラクターの三日月への対応を描くのは面白かったです。

小川 印象的なのは、第1話と最終話ですね。バルバトスに始まってバルバトスに終わるといふ。最初にバルバトスが地中から出てくるっていうのは、ガンダムの登場パターンとしては珍しい描写でしたし、今後もなかなかないケースではないでしょうか。

ガンブラの存在が メカ描写を際立たせる

——では次に気に入っているメカ、キャラクターについてお聞かせください。

有澤 僕はランドマン・ロディですね。
大張 やたらOPでフィーチャーされていましてよね（笑）。「なんでロディを出すのに、バエルを出さないんですか？」って思わず聞いちゃいましたもん。

千葉 みんな大好きなんですよ（笑）。

小川 実際、最後まで戦っていましたしね。ちょっと脚電を上回る活躍をしてしまっていましたけど。

有澤 めちゃ描きやすかったですし、描いていて楽しいですしね。ひしひしと目が独特じゃないですか？ だからかっこよく描けたのかなと思います。グシオンも似たような感じでしたけど、あちらも描きやすかったですしね。

千葉 僕もランドマン・ロディですね。

一同（笑）。

千葉 あれは描いてみたいって思いますね（笑）。キャラクターに関して言えば、みんな満遍なく好きです。それぞれの苦労が思い出されますね。

小川 「AGE」も多かったんですけど、今回もかなり多かったですからね。

大張 ガンダム・ヴィタルやキマリス系も大好きなんですけど、やっぱりガンダム・バエルでしょうね。初登場話数（第43話）はコンテも担当しましたし、印象に残っています。第38話をやっていいたこともあって時間がなかったんですけど、でも話数的にはひたすらおいしい回憶じゃないですか？ バエルの初登場もそうだし、ウィタルがマスクを外す意味でも重要ですしね。個人的には、ガンダムのオリジナルコックピットの形状がわかってよかったです。

——コンテを描くうえで、気づいたことはありますか？

大張 絵コンテで困ったのが、マッキー（マクギリス）ってコックピットで寝になるじゃないですか？ でもコックピット内部のデザイン上、下半身が見えないんですよ。普通に描いてしまうと、全裸にしか見えなひ。ですから無理やり前壁から見せて「大丈夫、隠れていますよ？」というカットにしました（笑）。

千葉 大張さんなら全裸でもやまなしかなど。
大張 誰全裸はアリですね。

一同（笑）。

大張 面白かったのは大貫（望一）さんの修正で、マッキーがバエルと同じポーズになる

ようにしていたことですね。個人的にマクギリスは大好きなキャラクターなんですよ。彼ってロマンの描じゃないですか？ あの生き方は美学を感じます。できればバエルとバルバトスが一緒に戦う姿が見たかったですね。

有澤 振り回ると全体的にかっこいいモバイルスーツが多かったですね。

大張 もうグレイスは完全に形を覚えまして。描き過ぎた（笑）。

有澤 シーン的には、フルシティが最後に止まっているカットも好きですね。朽ち果て方がいいんですよ。

大張 力を入れている姿のまま、朽ち果てているんですよ。あれはガンブラを組んで、構造を理解しているから描けるカットのわかりやすい例じゃないですか。フレーム、外装、パーツの構成がわかっていないと描けない。この作品にはちゃんとガンブラが生きているんです。うちは奥さんがガンブラを作ってくれてるんですけど、非常に参考にしましたね。——メインで参考にしたスケールを教えてください。

大張 1/144も1/100も参考にしていましたね。特にハイレゾリューションモデルは、フレームを描くときに役に立ちました。またディテールだけではなく、可動や構造を知る意味でも役に立っています。たとえば「膝がどの程度曲がるか？」という点は、設定面ではわかりませんがね。

挑戦的な作品として 時代に爪痕を残す

——では最後に「鉄血のオルフェンズ」を作り終えた今、率直な感想をお聞かせください。

有澤 楽しいこともいっぱいありましたし、やり終えて安心した部分もありました。「ビルドファイターズ」と何か違うかは感覚的な部分なんですけど、また違った楽しさがありました。作品の決める事は「鉄血のオルフェンズ」のほうが多かったこともあって、それを





Obari Selection #50 彼等の居場所

シナリオを見たときから「一番観たくなかったシーン」なので、あえて描かせていたかもしれません。誰にも遠くたくなかったと言うか、アニメーターとしての僕のワガママなんです。(大賀)

長井監督と話しながら決めていく作業は面白かったです。新しい経験をさせてもらったのは大きかったですね。

大賀 有澤さんは責任あるチーフメカアニメーターという立場で大変だったと思うんですけど、僕は気軽な立場で好きにやらせてもらいました。ひと言でいえば、とても楽しいお仕事でした。なかなか深く関わるチャンスの少ないシリーズですし、「ガンダム」だからこそ得られる経験を積ませてもらったと思います。振り返ってみると、自分自身は本当に『鉄血のオルフェンズ』のファンだったなと思うんです。自分の関係のない話数でも、今後の展開が気になってしまって(笑)。すぐにシナリオを送ってもらい、毎話数チェックしていました。また、個人的に立体物の商品が出る作品に関わるのは、とてもうれしいことなんです。ファンのみなさんに商品で遊んでもらうことは、モチベーションにつながりますからね。今回は世界に発信できるタイトルに選ばれたということ、本当に幸せだったと思います。最後までありがとうございます。

千葉 久しぶりにゴリゴリでハード系の作品

でした。自分分はハードとソフトを順番にやりたいタイプでして。ちょうど『ビルドファイター』の次の作品だったこともあって、いいタイミングでした。ただ、フィクションとはいえ人の生き死に関わるのは、相応の覚悟が要求されます。たれかが死ぬシーンになると、結構自分に回ってくることもあって、「ちゃんと看取ってやらないとな」という気持ちで取り組んでいました。久しぶりに重かったけど、やりがいがありました。あと、個人的に『3丁目のおるふんちゅ』と一緒にやってもらえたのほううれしかったです。楽しい雰囲気がかこがないと、バランスが取れませんからね。次は明るくて楽しい作品がいいな、と(笑)。

小川 本当に大変な作品でした、としかいえないようがありません(笑)。数年前に長井監督とこの作品を企画して、なにも考えずに集英社さんへ「伊藤悠さんを紹介してほしい」と尋ねに行ったことも思い出します。製作上の限界や色々なことを知った今では、「そのやり方はないな」と思うこともあります。知らないがゆえにできたことは大きかったと思います。作り終えた今となっては、ハッピ

ーエンドの解釈は本当に難しい問題だと思いました。今という時代は閉塞感に包まれていますから、目に見える希望が求められているのかもしれません。ですが、逆にそれはそれで表現の幅としては怖いことでもあると感じます。そういう意味で、色々なことを考えさせられる作品になってくれたなと思うんです。そもそも最初の「機動戦士ガンダム」も、よく考えさせられる作品でしたからね。良くも悪くも、大変だった分だけ爪痕を残せた作品になれたかなと。また『鉄血のオルフェンズ』の世界は、描ける余地を大量に残していることも大きいと思います。メカ的な部分は公式外伝『月鋼』にも色々仕込んでありますので、ぜひ引き続き応援をよろしくお願いします。

造です。これまではポリキャップによる摩擦嵌合が主流で、やはりプラ同士の嵌合は耐摩耗性が低いという認識が強かったんです。でもここ3、4年の間にKPS（強化ポリスチレン）という対摩耗性に優れた素材が登場したことは大きいですね。ポリキャップを使うと、どうしても構造的にスペースを取ってしまうんですが、プラ嵌合ならコンパクトにできます。それはバルバトスの細身のフレーム構造の再現に合う手法と言えます。パーツ数の削減と、組身を再現するというデザイン上の意図がうまく組み合わさった、という感じですね。

デザインを損なわず イメージを具現化する

——シリーズの特徴であるフレーム構造は、他機体と共用できるというメリットもあると思いますが、実際はいかがでしたか？

安永 当初の予定ではHGバルバトスのフレームを、ほかのガンダムでも共用する予定でしたが、バルバトスが予想以上にヒットしたことで状況が変わったんです。本当は流用によって効率化を図ろうと思ったのですが、ずっとバルバトスを生産している都合上、新たにHG用のガンダム・フレームを作らなければなりません。たぶん（ランナー）にガンダム・フレームの2や3と記載されているのは、それが理由ですね。結果的によかったのは、個々のガンダムを再現するときに、都合のいい構造を盛り込めたことですね。またバルバトスのフレームも第4形態の発売から第6形態に至る短い期間にも、改良を施すことができました。

——ホビー事業部として、デザイン面での要望はありましたか？

安永 デザインに対して、「プラモデルの都合で調整をお願いします」という話はありませんが、僕個人としては極力それは言いたくないんです。デザイナーさんが完成させた設定が、作品の正解として存在する以上、商品の都合で変えるというのは疑問がありますから。もちろん変えていただかないと、そもそも商品が成立しない部分は要望を出しますが、それ以前に「デザインを変えてもらう」ではなく、まず「商品はどうやってデザインに近づけるか？」というのが物を送り出す側が考えることなのかなと。

——先ほどの一輪関節の話がそうですね。元のデザインを変えてもらうのではなく、商品



静岡にあるバンダイホビーセンターに陳列された各種ガンダムの光造形。センター内の大型3Dプリンターで形成され、これらをもとに商品化までの順合い打ち合わせが決められていく

の構造の工夫でデザインに近づけるという。

安永 そうなんです。特に「フレームの上に装甲を被せていく」というデザインは、言い方は悪いのですが「二次元の味」はどうしても出してしまうものなんです。たとえば設定画のままで、一部の装甲はかなり薄手にしないと、とてもフレームに収まりません。それをプラモデルの都合で「プラの肉厚があるの、デザインでは装甲をもっと厚くしてください」とは言えません。

——その状況は、どうやって打開していったのですか？

安永 たとえばこれ以上細くできない部分に関しては、その手前のパーツにポリウムをもたせて「細くなったように見える」というアレンジを効かせています。そこはプラモデルならではの方法論を活かして、設定画のイメージと距離しないように作っていくというスタンスですね。そこが僕らの腕の見せ所だと思っています。

——商品側のアプローチが、アニメ製作側に受け入れられるかもハードルですね。

安永 そうですね。最初のバルバトスは、僕としても設定画と違うことは認識していましたが、そこは不安がありました。事前に部内のプレゼンで最初の光造形を見せたところ、一瞬シーンとなってからザワザワと「いいね」「カッコいい」という言葉があつたので「充分いける」という手ごたえは感じました。ただ、やはり長井（龍雪）監督やデザイナーである賀尾さん、小川（正和）プロデューサーといった本陣のスタッフに認めてもらわなければ意味がありません。そこでまず第一弾の光造形をメカ打ち合わせの場に持って行ったのですが、長井監督の「お、カッコいいですね」というひと言でかなり救われましたね。

また、賀尾さんでも設定画と商品との差異は認識していただいて、「商品としては問題ない」という捉え方をしてくださったのもよかったです。

——メカ打ち合わせの翌週には光造形が上がってくるということで、長井監督は驚かされていたようです。

安永 メカ打ち合わせが終わったあとに、その場で上がった設定画に対して、デザイナーさんと形状認識の共有化を図っていたことも大きいでしょうね。僕らはそれを会社に持ち帰って設計スタッフに伝え、3〜4日で光造形の試作が出来上がります。もちろん完璧なものではなく、あくまでデザインを造形として確認するようなものですね。そこで監督やデザイナーさんにイメージやバランスの懸念がないように確認していただいて、「もっと厚みをもたせよう」や「線を調整しよう」といった具合にチェックしてもらいます。ここで気づいたことは、逆にアニメ設定のほうへフィードバックされることもありましたが、立体設定的なものとして活用していただけたのかなと思っています。作風スタッフさん用に光造形を専任で提出したこともありましたが、活用していただけたのかなと。

割り切った考え方が オプションの幅を広げる

——価格設定的にもデザイン的にもハードルは高かったと思いますが、その状況が商品の進化につながったような印象を受けます。

安永 とにかく「限られた予算の中で、一番いいものを作りたい」という気持ちで基本です。僕らが画の中で考えたことを設計スタッ



オプションセット8、9に付属するパーツをHGグレイールに換装することでグレイール・シャルフリヒターを再現可能(左)。※オプションセット8は2セット使用する
ランドマン・ロディは、オプションセット9に付属する脚部パーツをHGマン・ロディに付け替えて再現することができる(右)

フが具現化してくれて、さらにイメージと商品との誤差修正を頻繁に繰り返して、HGバルバトスは完成しました。完成に至るまでには、どこに集中して手を入れて、一方で割り切る部分も考慮したことも多かったと思います。HGのバルバトスでいえば、フレーム構造と色再現の充実に注力している一方で、武装は最低限にしました。武装はオプションパーツセットに回すことで、コストを削減する考え方を取り入れています。これは「ガンダムビルドファイターズ」シリーズで、オプション武器セットの下地ができていたことも、ありがたいタイミングでしたね。

——バルバトスは銃、盾、剣という、ガンダムの武装のセオリーから外れていたことも大きかったですね。メイスがあれば基本的には問題ないイメージですら。

安永 ただ、最初はメイスがここまで受け入れられるとは、正直思っていなかったんです。1/100シリーズのバルバトスに、メイスをつけれなかったのは情儀の痛手でした。第1話を見たとき、「しまったー！」と思ったんです。あの登場シーンでバルバトスのかよさが決定づけられたと思うのですが、最

初に見ていれば絶対に1/100にメイスを入れましたね(笑)。「今回のメイン武器はメイスだ」という長井監督の言葉通りでした。それから1/100のメイスは絶対にどこかで入れようと思っていて、第6形態で実現させました。——一方で1/144のオプションセットの展開と作品との運動観は、うまくいったのではないかなと思います。

安永 そうですね。物語が進むにつれ、装甲が変わったり、武器が変わったりするという流れがあるので、そのタイミングで送り出すことができました。また今回はモビルワーカーなどの「ちょっと気の利いたアイテム」を同梱することで、セットの付加価値を高めながら併売することができました。

——ランドマン・ロディの脚部パーツや、グレイール・シャルフリヒターのパーツはうれしいアイテムでした。

安永 これは西村のアイデアです。ランドマン・ロディ自体の商品化のアイデアはあったんですけど、さすがに単体ではかなり厳しい状況でした。

西村 オープニングにも登場していますし、終盤まで活躍していますからね。そこでオプ

ションセット9に入れようかと。

安永 まあ入れるにしても「ランドマン・ロディの脚」として入れるのはどうなんだろうということで、苦肉の策として3mm軸をつけて、ブースターとして使えるようにしました。

——セット8ではシャルフリヒターの装備のみでしたが、セット9では頭部と腰が入りました。

安永 すでにオプションセット8でシャルフリヒターの肩や武器を入れ始めていて、「これだけでいいかな」と思っていたんですけど、セット9でランドマン・ロディの脚を入れたことで、「じゃあシャルフリヒターの頭部と腰も入れちゃおう！」となったわけですね。

西村 おかげさまでセット9はなかなか異色のセットになりました。

安永 セット9が登場したタイミングでマン・ロディの商品ももう一度動き始めてくれたので、ユーザーのみなさんに受け入れてもらえたことは実感しました。これまでのガンブラにはなかった流れで、新しい手法など感じました。

スケールによって 変化する考え方

——ファンのみなさんにはパーツ換装も話題となりましたが、ホビー事業部的にはどのような受け止めていましたか？

安永 企画段階から「今回のガンダムは変化する」ということで、戦った敵から部品や武器を奪って自分に付ける、という話はお聞き



Yasunaga Selection

印象に残っているのは第1話、バルバトスが登場してメイスを敵に叩きつけたシーンですね。あのシーンを見た瞬間「1/100バルバトスにもメイスをつけておくんだった、やられた！」って思いましたね(笑)。でも、本当にあのシーンはカッコよくて鳥肌が立ちました。まさに演出の力だし、長井監督だからこそできたことだと思います。(安永)



Nishimura Selection

僕は第2期の2話(第27話)で、登場が万全じゃないルプスレクスが戦いの最後オーバーヒートするシーンです。肩が回って煙が出るんですけど、ガンブラの打ち合わせでは「稼働時に動きまわす」って言われていただけなんです。ガンブラには可動性を確保するためのギミックでもあったのですが、それが回らずに作中の描写と運動で感動しました。(西村)

してました。もちろん実現すれば面白いとは思っていましたが、プラモデルとしてはハードルの高い内容ではありました。最初から第6形態までの設定が存在していれば、構造面に落とす込んでスタートできるのですが、作品と並行作業でしたからね。アニメでは「ぎりぎりまで変更が入る」ということも珍しくはありませんが、プラモデルは金型作業が進んでしまっていたら、もう引き返せないんです。そこはアニメと商品で、並行して作業を進めていく難しさはありますね。実際に使用しなかったアイデアはありますけど、そこはオミットせずに「あくまでプラモデルとしての遊び方」として、サンライズさんにも了承していただいています。

——一方で1/100スケールの開発過程では、どんなことが検討されたのでしょうか？

安永 1/100スケールでめざしたのは、フレームの完全再現です。HGのフレームはあくまで「感じられる」もので、フレーム単体では成立しないものでした。ですが1/100はしっかりとフレームを再現することを基本に、先行していたHGからのフィードバックもあり、フレームをあらためて単体で見たとき、全身のシンダー構造に目がいきやすい。当初はシンダーを全部動かそうと思っていたのですが、1/100も手に取りやすい価格にしたいという気持ちもありましたし、いずれMGも出るという想定で、この価格帯でできることをやるという方向性にシフトしました。シンダー可動はもともとポイントになる腰部のみにとどめ、純粋に関節可動の自由度を追求したのが1/100のフレームですね。

——1/144スケールHGと、1/100スケールでは見方が変わってくるのでしょうか？

安永 かなり変わってきます。バルバトスといえば、肩と膝の側面ですね。膝に関しては、ポリウレタンのおかげを明確に覚えていますが、特にふくらはぎの横の張り出しは、相当厚くなっていますね。設定どおりに再現するとすると、脚の強度を確保できません。そこで膝の張りを強調するために、わざとふくらはぎを厚めに彫らせているんです。厚

いふくらはぎから、シュッと煙がくびれていく構成とすることで、実際の数値よりも細めのラインを強調できるんです。

——なで肩もかっこよく見えるのは難しいような形状ですよね。

安永 ロボットのかっこいい立ち方は、X字ですからね。脚をドーンと広げていかり肩というのがセオリーです。そう考えるとバルバトスは真逆ですよね。最初の段階で、脚をスリムにしたいということは理解していたんですが、なで肩にもこだわりがあると聞いて正直驚きました。でも劇中でなで肩で描かれるでしょうし、かっこよければ監査はありません。こちらが悩んでいてもしょうがないので、「なで肩でもかっこいいものを作る」という意識でした。一方で1/100は肩アーマー自体が独立して可動できるように監査なので、お客さんが自分でこっそり「肩をいからせてもらえるような構造」は入れておきました(笑)。

長く展開を続けるために 取り組むべきこと

——ルプスレクスは、一般的な主人公のイメージから離れたと感じますが、どのように受け止めていましたか？

安永 バルバトスからルプス、ルプスレクスとなるプロセスは、ヒーローからダークヒーローになっていくイメージということで、違和感はありませんでした。もともと悪役の名が冠されたガンダムですから、最後は異形のような機体になるという話は監査からお聞きしていましたし。当初は手が大きくなって尻尾がつくだけでなく、羽までつけるという話もありましたからね。さすがに縁が多くて描き切れないということでNGとなったようですが、両顔耶麻を極度にまで引き出した三日月を具現化した姿と考えれば、とても納得のいくデザインだと思います。

西村 これがいきなり出たデザインなら驚くと思いますが、第1期からの流れを見て行けば、素直に受け止めることができるのではないかなと。

——実際の開発時には、どんなことを意識しましたか？

安永 ルプスは第6形態に引き続き、ヒールがついたことで背が伸びましたが、腕が長くなったことで全体のバランスが意識されていますよね。ただ全体で調整するというよりは、手首側の延長したフレームの長さでバランスを整えるという感じでした。ルプスレクスに関しては、強調すべき箇所は腕とどええ、とても時間をかけました。腕の面構成は非常に難しいうえに、サブアームも内蔵されていることで、形状とギミックの両面で突き詰めていかなければなりません。これは驚尾さんのイメージにどれだけ近づけるかという作業を繰り返して、腕だけでも3、4回は修正しています。逆に腕以外は比較的ルプスの形状を引き継いでいたもので、作業はスムーズでした。

——今後の「鉄血のオルフェンズ」ガンブラシリーズの展望についてお聞かせください。

安永 優先すべきは、劇中に登場しながらも、未発売の機体を商品化に導いていくことです。まずはスタンダードコレクションのHGで、世界観全体を補完できればと考えています。あわせて外伝も動いてますので、今後長く展開を続けていきたいですね。そして将来的には、やはり「MGを出したい」という気持ちはあります。すでにハイレゾリューションは出していますが、ホビー事業部のプラモデルとしての最上位はMGやPGという気持ちは強いですからね。また1/100は題材的にも豊富で、たとえばグレイズ・アインなども要望の高い機体の1つではあります。ただ、1/100となると放送中に商品を展開するケースとは、かけられる力の割合も変わってきます。限られた状況の中で、効率よく展開することを意識しないといけないでしょう。ここでタイミングを見誤ると、流れを止めてしまう危険性がありますから。たとえばバルバトスがMG化するタイミングで、合わせてRE的に1/100の新機体を展開するという手もあるでしょう。とにかく長く継続していくことを重視していますので、ぜひ将来の展開にご期待ください。

西村 僕もまったく一緒です。続けていきたいのが一番ですが、まだ発売していない機体を、様々なグレードで商品化していきたいです。今後のシリーズ展開も、そこに向けて集約されていくと思いますので、これからも応援をよろしくお願いいたします。

MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS CREATORS COMMENT

QUESTION

- 1 全50話を通してご自身の
気に入っているシーンと
その理由を教えてください
- 2 ご自身のデザインされた
お気に入りのメカとそのポイントを
教えてください

次世代へ向けた新たなガンダムを模索し、多くのクリエイターたちが関わり作り上げた『鉄血のオルフェンズ』。その制作を終えた今、彼らに作品を振り返ったお気に入りのシーン、さらにデザイナーには自身のデザインしたメカの魅力を問った。

監督

長井龍雪

comment 1

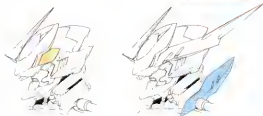
第2期の最終話（第50話）も思い入れ深いですが、制作を終えられた感慨のほうが大きかったので、楽しんで取りかかれたという意味で第1期の最終話（第25話）を選びました。ここではシチュエーションで遊ぶことができたと思っていて、ガンダム・バルバトスが戦いの中でどんどん装甲が剥がれていって最初の姿に戻っていくんです。「変わった分だけ元の姿に戻る」ということを象徴的に描けた印象的な画でした。



メカデザイン 鷲尾直広

comment 1

僕は第2期の最終話（第50話）で、最後にルプスレクスがあんなっちゃうのはひどいですよね（笑）。でも、バルバトスは最初からそうなるのが運命づけられてましたし、最後まで使い切ってもらえたというのはよかったと思います。実はルプスレクスどりバイクフルシティって一緒に登って戦うことがあんまりなかったんですけど、最後は一緒に戦ってくれて両方とも完全に使い尽くされましたね。それもまたいい終わり方だったと思います。



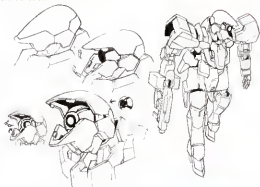
comment 2

お気に入りということならバルバトスルプスですね。この作品で描いた中では一番まとまったデザインになっていて、自分の命を出しつつ上手くできたと思っているので満足度が高いかな。バンダイさんに協定書だけでは伝わりづらい側頭部のパーツ形状だったり、腕のラインを洗練したのも印象深いです。ガンブラは味味な部分が許されないのが大変だと思いました。反対にアニメの作画の方にとってはノリで描けるデザインなのも面白いですね。

メカデザイン 海老川兼武

comment 1

たくさんあり過ぎて選ぶのが難しいですが、あえて上げるとしたら、ダインスレイヴを外したシノがアリアンロッド艦隊に突っ込んでいくシーン(第45話)ですね。傷しくて傷しくて本当に傷しくて、それでも仲間のために何とかしようともがく姿は涙なくしては見られませんでした。「ああ、鉄軍団の国々は本当に必死に生きてるんだな」と、同時にフラウロスの出番はこれで終わり!「ちくしょう!!」ってちょっと思ってしまったのは内緒です(笑)。



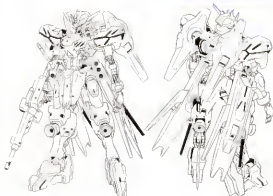
comment 2

やはり、あらためて一つ上げるとすればグレイズでしょうか。主役のガンダムと対になって作品の顔になるわけですから気合を入れてデザインさせていただきました。今回はフレームをベースに展開させるコンセプトがあったので最初からある程度のバリエーションを色々想定していたのを覚えています。結果として、ベースのグレイズから派生されたグレイズ改や流星号、第1期のラスボスとなるクレイズ・アインやモンキーモデルのフレック・グレイズなど、バリエーションを展開できたのがよかったと思っています。

メカデザイン 形部一平

comment 1

キマリストルーバーの初登場シーン(第23話)です。雪原を走りながら機頭と残されたときはシビレました。脚の変形機構を上手く演出に取り入れていたのがうれしかったです。特にカルタの黒羽を着取ってやるガリエオ、そして「最後の嘘」というサブタイトルも絡まって素敵でした。キマリストルーバーのコンセプト「騎兵」が「白馬の王子」へと化けた瞬間でしたね。



comment 2

ガンダム・ヴィタルが一番のお気に入りです。デザインでは最初に本作のMSに必須となる騎兵特を「脚」と設定して、そこから組み立てていきました。「黒いコートに身を包んだ二丁拳銃のダークヒーロー」をイメージしていて、本作では直球で表現することがはばかれる「ガンダムらしさ」を偽装機体なことを理由に、ぎりぎりヒロイックな線で描きました。刀エリオというキャラクターとともに成長していける感じがメカデザインのスタンスとしてもやりがいを感じましたね。



メカデザイン 篠原 保

comment 1

百里のパイロットだったラフタが砲撃された回（第41話）の衝撃はちょっとハンパなかったですね。思わず「うわぁ」と声が出ましたから、ひざびきにアニメで嫌なものの見たと思います。いや、賛辞なんですけどね！ これをきっかけに鉄華団の潮目が変わっていくこともあって、すごく印象に残った回です



comment 2

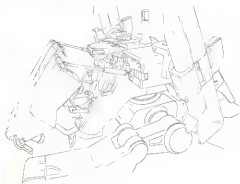
思い入れがある機体は「百里」です。自分にとっては最初に強いモバイルスーツということもあって、決めてよかったとは思いますが、それも含めてほかのものより何違いに愛着があります。修正の指示を受けるたびに悩み込んで、行き詰まって「もう諦めたい」と迷言したこともありました。あまりに百里のことばかり考えていたせいか、未だに「あずればよかった」と気になってしまう。もう呪縛とかトラウマに近いのかもしれません。

メカデザイン 寺岡賢司



comment 1

気に入っているのは第1期の24話です。「連河作戦」における一連のモバイルワーカーの戦闘シーンは、地形を利用した地味で派手い戦いだったのでよかったですね



comment 2

これはやっぱり鉄華団のモバイルワーカーです。3.5メートルほどの小さなボディサイズに、武装とコックピットを収めるのはとても苦労しました。

設定考証 鴨志田 一

comment 1

第1話のラストですね。地面を突き破って現われたバリエバトスがクレイスの頭部を粉砕した瞬間です。「ここから始めるぞ!」という気分とともに「オルフェンズ」の戦いを象徴するシーンだったので、とても印象に残っています。



鉄血のオルフェンズ^{第2期} ガンプラ&グッズカタログ

TV放送を終えてもお高い人気を誇る『鉄血のオルフェンズ』シリーズ。

そのガンプラは70体以上にもおよび、先進的な技術と高い遊戯性は多くのファンに迎え入れられた。

ここでは、第2期のすべてのガンプラに加え、メガハウスより発売された
関連グッズを開発者のコメントとともに紹介していく。

※各社の製品データは2017年8月現在のものです ※価格はすべて税込み10%表記となっております
※プレミアムバンダイ販売アイテムは、販売の終了しているものがあります。ご注意ください。

ガンプラ [HG 1/144]

低価格と組み立てやすさ、幅広いラインナップが魅力のシリーズ。1期では、大きく分けてガンダム・フレームとグレイセイ
フレームという2系統を主軸とした商品展開だったが、2期
になって登場モビルスーツの種類が増加。新たにレンザイズ・
フレーム、ヘキサ・フレーム、イオウフレームなど、新規のフレーム
となる商品が増え、ラインナップは大きく拡大した。また、劇
中で使用しているものから、未登場のものまでさまざまな武装や
パーツを取りそろえたMSオプションセットは、武装の充実ほ
もろんのこと、HGキットを組み合わせて劇中登場機体を
再現できるパーツがさらに充実している。



HG ガンダム バルバトスルプス

発売元 バンダイホビー事業部
◆1280円、発売中
◆プラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

第1期のバルバトスを持っている人もルプスと並べてみると「なんて新しく
かっこよくなったんだろう！」と思ってもらえるように、シルエットやプ
ロポーションの形状を工夫しています。やはり、ルプスは第2期の始まり
を象徴する主人公機なので、その差がわかりやすくみえるように作ってい
きました。



HG ユニコー

発売元 バンダイホビー事業部
◆1280円、発売中
◆プラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

ヘキサ・フレームという新しいフレームを採用した機体なので、プラモデル
も全型をまるまる新しく作っています。関節のフレームが逆関節なんです
が、ロボット好きとしてこういう関節の形は気持ちよく組み上がるので、開発し
るときも楽しかったですね。関節の可動域や曲がる位置、手足で動く部分は、
一般的な足とはかなり違うのでこだわって作りました。



HG ガンダムグシオン リベイクフルシティ

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中
◆ブラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

HGの中でもトップクラスでギミック豊富なキットになりました。ガンブラの間接者としては、劇中のMSを見てプラモが欲しくなったファンの方に、もう一度お千円を振り返ってもらえるキットを届けることは大事な使命です。なので、武器のギミックは極力入れたいという思いがありました。グシオンリベイクフルシティには「シザース」というド派手な武器があるので、これをハサミのようにしっかり再現することもテーマでした。



HG モビルレギンレイズ (ジュリエッタ機)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中
◆ブラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

実はレギンレイズのガンブラって、かなり可動域が広いキットなんです。また、手甲が円形で、その円を中心に手のひらが回ると言うギミックになっています。これはどのガンブラでも採用していない方式で、海老川（兼武）さんの設定によるものです。それにより、これまでのガンブラにはなかった幅広いボーリングがとれるようになりました。



HG ゲイルール

発売元 バンダイホビー事業部
◆1090円、発売中
◆ブラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

グレイズのフレームをまるまる使った旧ザクっぽい立ち位置のメカですけど、色再現には結構こだわりの入ったキットです。シンプルな機体ですが、カメラの部分は赤いクリアパーツにしています。今までだったらシールを貼っていたような部分なので、ここが一番のこだわりかもしれません。



HG イオフレーム 獅電

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中
◆ブラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

見た目に反してさくさく作れることがポイントです。やっぱり量産機なので、2、3体作る方もいらっしゃると思うんですね。そのため、内部のフレームなど最終的に見えない部分はあまりパーツ点数を増やさず、簡単に作れるような設計をしています。慣れたら、1時間もちからず作れるんじゃないでしょうか。シンプルさと動きの幅の両立が上手くできたキットだと思います。



HG ガンダムヴィンダー

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中
◆ブラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

この機体は全身が武器のため武器の数とギミックが非常に多いので、どこまで再現しようかと非常に悩まながら開発しました。でもその結果は両月に発売される1/100と同じく完全再現することになりました。こだわりのポイントは、膝にある剣の予備弾倉をいじ込んでしまうのではなく、3本とも剣の形に分かれたものを積み込んだことですね。改造もしやすいですし、実際に弾が入っているような風合いも感じられると思います。



HG ガンダムフラウロス (流星号)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1912円、発売中
◆ブラキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

変形ギミックが非常に楽しいキットです。劇中での変形シーケンスを完全再現するために、設定画などを含めかなり情報をもたらして作りました。デザイナーの海老川（兼武）さんとも確認をしました。ガンダム・フレームの可動域は決まっていますので「その中でどれだけ変形を迫るのか」という部分を突き詰めていきました。



HG モビルアーマー ハジマル

発売元 / バンダイホビー事業部
◆4104円、発売中
◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

MAが商品化されることがまず珍しいですよ。第1期ではクタン機型を大型キットとして発売したんですけど「第2期にもひとつくらい驚きなアイテムがあったほうが楽しいよね？」という話し合いで商品化が決まりました。作中では初のビーム兵器持ちでもあるので、エフェクトにもクリアパーツを使っています。ビームの長さをどのくらいにしようかと、全体のバランスからうまい道と所を考えて作っていきました。子機のブルーマは今年になってからプレミアムバンダイ販売アイテムとして6機（ブルーマ クリュセ 便取セット）まとめて出すことになったんです



HG 辟邪

発売元 / バンダイホビー事業部
◆1080円、発売中
◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

辟邪はかなり成形色の調合に苦労したキットでした。山吹色と若草色の兼ね合いが難しく、かなりの回数試作を繰り返しました。実は緑にも濃淡があるので、2色の緑パーツを使っているんですよ。



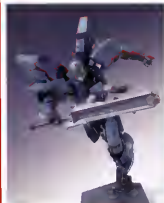
HG ヘルムヴィーゲ リンカー

発売元 / バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中
◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

このポイントはおう「ヴァルキュリアバスターソード」です。武器を持つての自立にも気を配っております。腰部に「ヴァルキュリアバスターソード」を接続できる設定があるんですけど、そこもバランスを崩さないように調整をかけた。『デカい武器なのにポーズがとれる』っていうところがこだわりですね。



HG 瀾影

発売元 / バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中
◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

皆さまからの熱い要望の声もいただき、第1期にも登場した瀾影をついに商品化することができました。ボリューム感のあるシルエットは必見です。



HG ガンダム バルバトス ルプスルクス

発売元 / バンダイホビー事業部
◆1512円、発売中
◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

特徴的な旋回部のバランス取りがこだわりのポイントで、ギミックの入れ込みとの両立が難しかった。それにメイスも超大型です。これをちゃんと背面に背負って、なおかつ立つところまで成立させることが大変でした。ハシマルもそうんですけど、ケーブルが動くという設定がもともと決まっていたので、リード線で動きを再現させられるようにできたのもよかったかなと思っています。



HG レギンレイズ ジュリア

発売元 / バンダイホビー事業部
◆1512円、発売中
◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

オルフェンズHGのMSの中では最大サイズのキットです！ 大型バインダーの迫力、脚部ユニットの接続ギミックの再現と、最終決戦にふさわしい豪華な作りになっています。



HG ガンダムキリウス ヴァンダル

発売元 バンダイホビー事業部
◆1512円、発売中
◆プラキット



[バンダイホビー事業部からのコメント]

作中では登場しませんでしたけど、実はこの機体にはダインスレイヴがついているんですね。形部（一平）さんが設定面にダインスレイヴの発射ポーズを描かれていたので、そのポーズをガンダムでも再現すること、ダインスレイヴの発射ギミックをつけたのがこだわりです。特にポーズをとらせるために、装甲の干渉する部分や可動域はしっかりと調整しました。あと、黄色い箇所でシールドを使うのが2箇所しかないなど全身の色再現度の高さもポイントです。



HG ガンダムバエル

発売元 バンダイホビー事業部
◆1512円、発売中
◆プラキット



[バンダイホビー事業部からのコメント]

「オルフェンス」では初の真がついたMSなので「本編でも飛ぶのか?」「シルエットをどう描いていくか?」ということを発表ぎりぎりまで集めていましたね。あと結構珍しかったのが、肩アーマーの裏の部分が逆R（凹面）になっているんです。最初、正R（凸面）で作って出したら蟹尾（直広）さんから「ここは逆Rなんですよ」と指摘されたので、図面を見てもらいながら少しずつ修正してしました。



HG ガンダムダンタリオン

発売元 バンダイホビー事業部
◆1728円、発売中
◆プラキット



[バンダイホビー事業部からのコメント]

ベースターの変形、合体ギミックをしっかりと再現することに注力しました。ハーフカウルTはオルフェンスHGの中でも屈指の迫力です！



HG ガンダムアスタロト リナシメント

発売元 バンダイホビー事業部
◆1944円、発売中
◆プラキット



[バンダイホビー事業部からのコメント]

外伝の最新人公機として、アスタロトで好評をいただいていた武器の組みかえ、改造といった要素をしっかりと再現しています。ニコイチで左右対称の形状として組み立てるのもおすすめです。



HG MSオプションセット5 & 鉄華団モビルワーカー

発売元 バンダイホビー事業部
◆648円、発売中 ◆プラキット



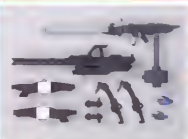
[バンダイホビー事業部からのコメント]



HG MSオプションセット6 & HDモビルワーカー

発売元 バンダイホビー事業部 ◆648円、発売中 ◆プラキット

オプションセットには、第1期の頃から極力モビルワーカーをつけるというスタンスだったんです。第2期では、そこにプラスしてさらにカスタム遊びの幅を広げたく、第2期からのオプションセットには穴に挿して遊べるジョイントパーツをつけています。たとえば、6番にはバルバトス用オプションの腹部ロケット筒が付属していますが、この接続部にグリップをつけて手持ち武器にもできるようにしています。そういった改造は本編とは関係ないんですけど、プラモデルらしい遊び方が提案できたのは面白かったかなと思います。



HG MSオプションセット7

発売元 バンダイホビー事業部
◆648円、発売中 ◆ブリキット

【バンダイホビー事業部からのコメント】

MSオプションセット7は久しぶりに打撃武器が入らないタイプです。比較的お手軽な武器が多いのでどの機体に持たせても楽しいかなと。フラウロスが背負った「ショットバレルキャノン」がセットについてるんですけど、ジョイントパーツを使うことで色々なガンブラの背中に装着して遊べる仕様になりました。



HG MSオプションセット8 & SAUモビルワーカー

発売元 バンダイホビー事業部 ◆648円、発売中 ◆ブリキット

【バンダイホビー事業部からのコメント】

これは、シャルフリヒター-01の肩がごたわりポイントで、ゲイレールに直接組み付けられるようにしています。こういう仕込みは「買ってくれた人があとから楽しく遊んでくれたらいいな」という気持ちでいつも入れています。



HG MSオプションセット9

発売元 バンダイホビー事業部
◆648円、発売中 ◆ブリキット



【バンダイホビー事業部からのコメント】

ランドマン・ロディを作りました。部数無量です！



HG イオフレーム 獅電改 (流星号)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1298円、発売終了
◆ブリキット
プレミアムバンダイ
販売アイテム

【バンダイホビー事業部からのコメント】

脚部のブースターは獅電改のために作り起こした新規パーツです。特徴的なマーキングはシールで再現しています。



HG ユーゴウ ツインセット

発売元 バンダイホビー事業部
◆3240円、発売終了 ◆ブリキット
プレミアムバンダイ販売アイテム

【バンダイホビー事業部からのコメント】

一般的にカラバリ系の商品は売るのが難しい場合もあるので、店舗に並ばせるのは大変なんですけど、これは放送中からプレミアムバンダイの販路を活かして上手く放送期間中に製造ラインに乗せられたので良かったです。



HG モビルレギンレイズ (イオク機)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1620円、発売終了
◆ブリキット
プレミアムバンダイ販売アイテム

【バンダイホビー事業部からのコメント】

劇中でも印象的だったMSなので、とても人気のあるアイテムでした。



HG グレイズリッター (マクギリス機)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、受注終了
◆プラキット
プレミアムバンダイ
販売アイテム

「バンダイホビー事業部からのコメント」
マクギリスの指揮官機カラーである「ブルー」の再現に
こだわりました



HG モビルレギンレイズ (一般機)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、受注終了
◆プラキット
プレミアムバンダイ
販売アイテム

「バンダイホビー事業部からのコメント」
劇中では様々なシーンで編隊を組んでいたのも、ジュリエッタ機やイオク機
と並べても素敵だと思います



HG ガンダム フラウロス (厄祭戦時)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1836円、受注終了
◆プラキット
プレミアムバンダイ
販売アイテム

「バンダイホビー事業部からのコメント」
発掘当初をイメージしたカラーリングです 濃淡系カラーとも違ったかつこ
よさがあります



HG ブルーマ クリュセ侵攻セット

発売元 バンダイホビー事業部
◆1944円、受注終了 ◆プラキット
プレミアムバンダイ販売アイテム

「バンダイホビー事業部からのコメント」
待望の複数機セットをついに発売することができました！ たくさん並べて
もらえたらうれしいです



HG イオフレーム 獅電改 (オルガ機)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、受注終了
◆プラキット
プレミアムバンダイ
販売アイテム

「バンダイホビー事業部からのコメント」
バイザーパーツと胸部シールドが新装パーツです。最終決戦で動く姿を見る
ことができ感動しました



HG イオフレーム 獅電改 (ライト機)

発売元 バンダイホビー事業部
◆1296円、受注終了
◆プラキット
プレミアムバンダイ
販売アイテム

「バンダイホビー事業部からのコメント」
バイザーパーツと二刀流シールドが新装パーツです イエローの
再現が絶妙なキットになっています



HG 鉄華団コンパクトセット

発売元 バンダイホビー事業部
◆6898円、受注中 ◆プラキット
プレミアムバンダイ販売アイテム



〔バンダイホビー事業部からのコメント〕

本編には登場しませんが、ルプス用の強化武装案のひとつ、「対ランスメイス」が付属しています。複数個連結するギミックも搭載した迫力のある武器です。4体のガンプラキットが入ってますし、ランドマン・ロディは色付きのバージョンです。フラウロスが第45話で持っていた「大型ダインスレイブ弾頭」なども付属しているのだからかなりお得なセットになりましたね

ガンプラ 1/100 フルメカニクス

ハイディテールな外装とはほぼ設定通りに再現されたフルプラ構造が特徴の1/100スケールシリーズは、2期になって「1/100フルメカニクス」という新たなシリーズ名となった。1/100だからこそ可能となる可動およびメカニカルなギミック「MOVIE ACTION」、メカデザイナー自らが描き起こしたディテールを投影した「REALIZE DETAIL」、1/100で再現されるガンダム・フレームの真の姿「REALISM FRAME」という3本柱を掲げて、さらにハイエンドなシリーズとして展開する。



1/100 フルメカニクス ガンダム バルバトスルプス

発売元/バンダイホビー事業部
◆3240円、発売中 ◆プラキット



1/100 フルメカニクス ガンダム ヴィダー

発売元
バンダイホビー事業部
◆3240円、発売中
◆プラキット



〔バンダイホビー事業部からのコメント〕

バーストサーベルを構えた姿が美しく見えるようにこだわっています。弾倉がスライドしたあと庫から剣を抜く一連の動作を全部できるようにハンドパーツには専用の可動軸を設けています。

〔バンダイホビー事業部からのコメント〕

第2期から1/100には「フルメカニクス」という名前をつけてシリーズ展開をしています。第1期の時に再現性やディテールなどとても好評いただいたので、今回はさらにもう一歩踏み込んでより強化していこうという話になりました。基本的なコンセプトは継続ですが、デザイナーさんに模型用のディテールの設定をお願いしています。ルプス、バエル、ルプスレクス、ヴィダーの4体を発売しましたが、いずれも龍尾さん、形部さんにそれぞれ書き下ろしのディテールを描いていただきました。



1/100 フルメカニクス ガンダム バルバトス ルプスレクス

発売元: バンダイホビー事業部
◆3456円、発売中 ◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

1/100になるとサイズ感もあって結構お手軽な印象なんですよ。HGと比べて更にギミックを詰め込んでいるので、サブアームもよく動くようになってますし、メイスもちゃんと伸縮がしっかりするようになってます。腕の中に入っているのが開いたら見られるようになっていいるのもプラモデルならではの面白さだと思います



1/100 フルメカニクス ガンダム バルバトス ルプスレクス

発売元: バンダイホビー事業部
◆3456円、発売中 ◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

バルバトスには劇中で外装を外した状態が見られないので、それを確認できるのがポイントです。ルプスレクスと違ってほぼ巨獣戦時のままという設定なので、このガンダム・フレームは意外とシンプルでオーソドックスなタイプ。最終決戦の機体としてルプスレクスと比べてみると面白いんじゃないかと思います。

BB戦士

通算400アイテムを超える人気シリーズ。デフォルメサイズながらフル可動仕様で、付属アイテムの多さやBB戦士オリジナルギミックなどプレイバリューが高いのが特徴。『鉄血のオルフェンズ』2期からは「ガンダムバルバトスルプスDX」がラインナップ。初プラキット化となるイサリビや、モビルワーカーが付属する。



BB戦士 ガンダムバルバトスルプス DX

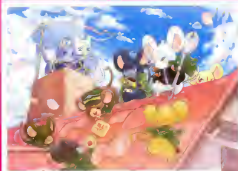
発売元: バンダイホビー事業部
◆1296円、発売中 ◆プラキット



「バンダイホビー事業部からのコメント」

進力あるソードメイスも見どころで、デフォルメされたイサリビやモビルワーカーも必見です。イサリビにはルプスの武器をマウントできるオリジナルギミックも搭載しています！

3丁目の おるふえんちゅ ミカヅキと オルガの大冒険



「3丁目のおるふえんちゅ」とは?

クラセ町3丁目にある1軒の大きなお屋敷「セブンスターズ家」。その壁の中にはクマネミのミカヅキ、オルガ、ビスケットたちが肩身を寄せ合いながら暮らしています。お屋敷には「ニャルホルン」と呼ばれるネコたちがいっぱいいて、ミカヅキたちを助けているみたい。ネズミたちは、自分たちがめざす「あったかいコロ」を見つけることができるのでしょうか? 他聞書店刊「月刊アニメージュ」にて連載中。

フィギュア



ヴァリアブルアクション 機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 鉄華団モビルワーカー

メガハウスからのコメント

モビルワーカーに加え、搭乗するオルガとビスケットもめくりなく造形しました。フィギュアの彩色版も出たかった！モビルワーカーは戦車のプラモデルと並べても違和感のないサイズで作られているので「現実世界に鉄華団がいたら？」という「If」の設定を楽しむことができます。

発売元 メガハウス
◆11232円、要注釋了
◆塗装済完成品
プレミアムバンダイ販売アイテム

G.E.M.シリーズ

機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ
三日月・オーガス オルガ・イツカ



発売元 メガハウス
◆各11880円、発売中
◆塗装済完成品

「メガハウスからのコメント」
OPテーマ「Raise your flag」と「Survivor」の印象が強く残ったので、オルガとミカルの背中を作りたかったんです。「この背中についていこう！」と思う気持ちだけは常に鉄華団員でした。

GGG-DX

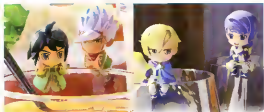
機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ
クーデリア・藍那・バーンスタイン



メガハウスからのコメント

「GGG-DX」第一弾としてクーデリアを商品化しました。企画しようと思った当時、手元にあった彼女の資料は赤い衣装と随器。どちらにするか悩みましたが、第7話「いざなとり」を見てイメージが湧き、社内と原型師さんに相談して今回の造形ができました。宙に浮いた姿を再現するため台座をパースディオラマ風にし、二つ目も形もてお流線が詰め込まれた仕様です。すでに手元にある方これから大事にしたいだけだと幸いです。

発売元 メガハウス
◆15560円、発売中
◆塗装済完成品



お茶友シリーズ 機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ いのちの糧は食事にある!

メガハウスからのコメント

ニッパに集まる光駒、三日月とオメガの3人組が食事や食事シーンに描かれました。ギャラルホルンの3人は、酔った時に食話などの想像が膨らむように考えています。腹を膨らませる弱気のミニサイズとは思えない、筋肉に注目してください!

発売元 メガハウス
◆7560円、発売中
◆塗装済完成品
◆全5種



機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 3D目のおるふんちゅ 第3弾

発売元 メガハウス
◆6724円(送料込)、11月発送予定 ◆塗装済完成品 ◆6種セット
プレミアムバンダイ、メガトレッシュショップ限定アイテム



機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 3D目のおるふんちゅ ちゅー! (2)

発売元 メガハウス
◆799円、発売中 ◆塗装済完成品 ◆全6種

「メガハウスからのコメント」

ファンみなさんの声によって第3弾まで展開することができました。我がガンダム人生に一片の悔いなし!「おるふんちゅ」の最初の副題は「ビスケットの大冒険」でした(笑)。劇中に「宇宙ネズミ」という単語が出ていたので「よしネズミにしちゃえ!」的なノリでサンライズさんに相談してみんです。ガエリオのお尻の「M」マークはキャラクターデザイナー徳尾さんの案なんです。関係各所の方々、協力してくれた方々も本当にありがとうございました。



機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 3D目のおるふんちゅ

発売元 メガハウス
◆799円、発売中 ◆塗装済完成品 ◆全6種

鉄血のオルフェンズ 月鋼

機動戦士ガンダム

月刊ホビージャパンにて第2期も好評連載中の
公式外伝『鉄血のオルフェンズ 月鋼』。
歴史に語られることのない彼らの旅路は、
新たなガンダム・フレームの登場とともに急展開を迎える!

企画▶サンライズ
企画協力▶バンダイホビー事業部
協力▶KADOKAWA、ホビージャパン
脚本▶崎本司一
キャラクターデザイン原案▶伊藤 悠
ガンダム・アスタロトデザイン▶杉部一平
ガンダム・ダントリオンデザイン▶藤原 保

月刊ホビージャパンでは、2017年7月号より『鉄血のオルフェンズ 月鋼』第2期が展開中。戦争団の活躍の裏で行なわれた復興者たちの戦いの記録が、MSV作例&フォースストーリーとともに描かれている。

父を暗殺した犯人が彼の部下ロザリオ・レオーネと知ったリアリナ・モルガト。彼女はタントテンポの幹部である青年ジャンマルコ・サレルノの助力を得て、ついにその復讐を果たす。半年後、父の跡をつぎタントテンポの頭目となったリアリナは、ギャラルホルンとの会談の帰路にミーナと名乗る不思議な少女と出会った。追手からミーナを保護したリアリナたちは、タントテンポの拠点であるアバランチコロニー群をめざす。だがその道中、彼女たちにさらなる追手が襲いかかる。それはアルジ・ミラージュの憎悪の対象ともいえるガンダム・フレームMS、ガンダム・ダントリオンだった。ダントリオンのパイロット、ザザ・フォッセルの高い機転技術に苦戦を強いられる中、ギャラルホルンの部隊も現れたことでアルジは絶対絶命の危機に陥ってしまう。

MOBILE SUITS

ガンダム・アスタロトリナメント

ナナオ・ナロリナに盗奪されたガンダム・アスタロトをジャンマルコが闇市場で買い戻し、改修した新たな姿。ガンダム・ウヴァルを奪取したことで、本来の姿の82パーセントの状態にまで復元されたガンダム・アスタロトだったが、闇市場に流されたジャンマルコが見つけた際には半分以上の外装パーツが失われていた。アスタロトリナメントは、アルスの戦艦スタイルにあわせて重武装と重装甲が施された結果として、アルジが抱えるないほどバランスが崩壊した機体となっている。

ガンダム・アスタロト



ガンダム・ダントリオン

ザザ・フォッセルの機体。元暴走の最末期に開発されたガンダム・フレームMSで、先行してローランドされたガンダム・フレームの戦闘データをもとに単独である戦局に対応できるよう設計された機体となっている。フレームは独自の改修が施されているほか、様々なオプション兵装の装着が可能。現在、ザザが搭載するダントリオンのフレームは最も機体に近い状態で「ネイキッド」と称される。

CHARACTER

ヴォルコ・ウォーレン

ガンダム・アスタロトの所有者であるタントテンポの頭目。ギャラルホルンの元豪傑ウォーレン家の出身だが、何者かの策謀で家柄と財産を失ったアスタロトを未来の帝に復元しようとしている。

アルジ・ミラージュ

リアリナがボディガードを務めるガンダム・アスタロトリナメントのパイロット。幼少の頃、とあるガンダム・フレームMSに接触したことで自身の右腕と左腕を失い、その復讐に燃えている。

ザザ・フォッセル

リアリナたちからミーナを奪還しようとする連年の戦の青年。ガンダム・ダントリオンのパイロットで、同じくミーナを狙うギャラルホルンとは別に単独で行動していることが聞える。

リアリナ・モルガト

タントテンポの頭目である17歳の少女。もとは学生だったが、前代家の父が暗殺されたことで継母の手に巻き込まれ命の危機にさらされる。母を救った後、新たな頭目となった。

ミーナ・セルリアン

リアリナたちがドルココロニー群で保護した記憶喪失の少女。ザザやギャラルホルンなど複数の勢力に養育を巡られており、彼女の帰属ともなるキム・セルリアンとともに行動している。

『月鋼』 第2期 PLAYBACK

第一話▶重なる出会い

ガンダム・アスタロトが失われたことで、ガンダム・ダンタリオンとの戦闘では汎用MSラプソジの慣れない操縦に苦戦するアルジ。さらにギャラルホルンのMS部隊の襲撃で窮地に陥る。そこでヘジヤンマルコが新たなアスタロト、ガンダム・アスタロトリナシメントをもって救援に現われた。アスタロトリナシメントの力は絶大で、防御した敵機をデモリッション・ナイフで粉砕。部隊を撃退させることに成功する。



第三話▶ギャラルホルンの名家

再びギャラルホルンの追撃を受けることになったアルジたち。敵機の一団、ジジルの乗機した技量によってデモリッション・ナイフを折られたアルジは苦戦を強いられる。そこでアルジがとった行動は捨て身の特技。オルトリンデの機でシールドアームを展開させたアスタロトリナシメントは、折れたデモリッション・ナイフを敵機の背部へ叩きつける。

【月鋼 シナリオ】

鴨志田 一

INTERVIEW

——アニメの制作を終えられた感想は？

全50話におけるTVアニメのタイトルに関わらせていただくのは、『オルフェンズ』が初めてのことでしたので、脚本会議に参加しているうちは、ずっと終わらないような気がしていました。今振り返ると長いようで……やっぱり、長い戦いだったと思います（笑）。ただ、『月鋼』も担当させていたでいるので、気持ちのうえでは、まだ戦っている感じがしています。

【月鋼】を振り返って戦ったことは？

毎回戦闘シーンを入れて、MSのかっこいいところをたくさん描く。それが『月鋼』をスタートさせるにあたり、最初の決まりごとにした部分なので、MS戦を追求していくことが、作品における一番の表現になるのかもしれない。とはいえ『オルフェンズ』の世界観の一部でもあるため、少女少女の物語であることも意識しています。鉄華団が生きる現実よりは少しだけやさしい環境を心がけています。

【月鋼】の魅力とは？

アニメでは描けなかったアスタロトやワウバル、ダンタリオンといったガンダム・フレームの登場

機が大きな魅力です。72体のうち、現存が確認されているのは26体あり、先に名前をあげた3体以外にも『月鋼』では新たなガンダム・フレームが登場するかもしれません。同時に本編でお馴染みのMSもカスタマイズされた姿で登場するので、メカ成分を存分に補給していただけるのではないかと。

【月鋼】に登場した機体のデザインを触られた感想は？

【月鋼】のMSは個性的なデザインだったり特徴的な武装の機体が多いので、組み上げたものをボーリングさせるだけでも楽しいです。デモリッション・ナイフのギミックや、オリンの剛直な面など、遊び心をくすぐられる感じが好き

です。ワウバルはファンからも人気で、個人的にも「ワウバルのガンパはほしい」と思っていたので、発売が決まったときはうれしかったです。

フア めいさんへメッセージを。

【月鋼】第2期では、ガンダム・フレームを保有しているギャラルホルンの名家にもスポットを当てた物語が展開していくので、本編とは別の角度から組織の内情を描いていければと思っています。第2期から新たに登場するキャラクターも、本編や第1期と同様に伊藤修さんにデザインしていただいているので、魅力的なキャラクターのドラマも書めて、作品を盛り上げていきたいと考えています。

ガンダム トライエジ 鉄華繚乱5弾

約2年に渡る軌跡を振り返る トライエジ×『鉄血のオルフェンズ』の全容を大紹介!!

稼働から6年を迎えた『ガンダムトライエジ』。歴代の様々なMSとキャラクターで部隊を編成し、ユーザー同士で熱いバトルを繰り広げる大人気トレーディングカードアーケードゲームだ。
鉄血の1弾と銘打たれた 鉄血のオルフェンズ との連動は、2015年10月より開始された。
ここではその魅力をあらためてお伝えしよう。



ガンダム・バルバトス・ブルーステス

鉄血のオルフェンズ 連動の記念編ともいえる「鉄血 鉄華繚乱5弾」がリリースされたのは2017年6月。この弾で最も大きなサプライズとなったのは、ガンダム・バルバトスのデザイナー 鷺尾直広本人が描き下ろしたイラストが投入されたことだろう。バルバトスブルーステスのほか、ガンダムリベイクフルシティ、バエルも鷺尾氏の手によって描かれたものだ。



ガンダム・グンオン
リベイクフルシティ



ガンダム・バエル



TVアニメ最終話の姿が描かれたバルバトスブルーステスのレアカード。このカードに付与されたアビリティ「不意」は、相手の攻撃を受けながらもダメージを大幅に軽減できるアビリティだ。

『鉄血』 POINT

POINT1. 『鉄血』の特別なCPカード



バージョンアップごとに更新されていくCP（キャンペーン）カードもトライエジの地力のひとつ。MSの前に専用パイロットが描かれたオリジナルイラストが鉄血の5弾では全12種で公開された。組み合わせによって様々な効果やボーナスも得られる。



POINT2. 絆アシストで追加ダメージ



鉄華繚乱5弾では、絆アシスト、と呼ばれるシステムが導入された。これは、三日月とマウキリス、ガエリオとアインといった対となるキャラクターと一緒に攻撃させ、敵を同時に攻撃すると追加ダメージを与えるとともに特別な演出を見ることができる。



鉄華繚乱5弾には 鷺尾直広描き下ろしイラストが登場!

「鉄血の5弾」からは月鋼MSも登場
2体の初出は特殊ミッションだった!!



ダンタリオンの
イラストは
デザイナー
篠原保の
描き下ろし!!



ガンダム・アストロ

ガンダム アストロが初めてトライエ
イジに登場したのは「鉄血の5弾」のデ
ザインシモトから 迫りくるアストロ
の猛攻をかくくり フルモデル! を
獲得すれば、自分でもアストロの開発
が可能になるというものだった



ガンダム・ダンタリオン

月鋼 でも活躍を見せるダンタリオン
だが、その初出は「鉄血連風の1弾」
オリジナルMSとして登場したダンタ
リオンは預備の機体で形態を変化させ
る攻撃に優れた機体は イラストはデ
ザインを手がけた篠原保の描き下ろし
になっているも見逃さない



7月からは「バーサスイグニッション」が稼働 新たに追加された新カテゴリーも紹介!

トライエイジでは、2017年7月20日より最新シリーズ「バーサスイグニッション01」の稼働が開始された。現在ネット配信にて展開中の「機動戦士ガンダム Twilight AXIS」登場機体が参戦するほか、7枚目のカードとなる「イグニッションカード」が追加されるなど、新感覚のカードバトルが体験できる。また、1年ぶりとなる「シークレットレア」が今作で復活したことにも注目したい



イグニッションカードとは?

イグニッションカードは「MS
カード」「パイロットカード」に加
えて新しく追加された第3のカード
カテゴリ。必殺技で敵を撃破でき
なければ、イグニッションカードの
効果で味方が攻撃の必殺技を放つて
くれる



DATA
[メーカー]バンダイ
[ジャンル]トレーディングカード
アーカードゲーム
1プレイ 100円(税込)
※100円につき1枚、現金でカードが買えます
<http://www.gundam-try.com>



裏レアカードには、「Twilight
AXIS」からトリスタン、ザク
軍医のほか、ガンダムUCの
ユニコーンガンダムなど多数が
追加。「イグニッションカード」
にも裏レアな物があるようだ

MOBILE SUIT GUNDAM IRON-BLOODED ORPHANS

ALL CREDIT

STAFF

企画——サンライズ
原作——矢立 肇、富野由悠季
監督——長井龍雪
シリーズ構成——岡田卓里
キャラクターデザイン原案——伊藤 悠
キャラクターデザイン——千葉道徳
メカデザイン——齋屋直広、海老川善武、形部一平、
寺岡賢司、篠原 保
美術——森藤
音楽——横山 克
制作協力——創通・ADK
製作——サンライズ・MBS

CAST

三日月・オース | 河西健吾
オルカ・インク | 桐谷健太
ビスケット・グリフォン | 花江夏樹
ユー・ジン・セブン・スターク | 梶原裕一郎
即弘・アルトランド | 内匠靖明
ノルバ・シン | 村田太志
タカ・キウノ | 天崎滉平
ライド・マウス | 田村睦心
ヤマギ・キルマートン | 斎藤壮馬
クー・デリア・観音・バーンス・タイン | 寺崎裕香
アトラ・ミクス・タ | 金元寿子
マクギリス・フィア | 櫻井孝宏
ガエリオ・ボードウィン | 松風雅也
ラスター・エリオン | 大川 透 他

STORY

【第1話】鉄と血と
脚本——岡田卓里
絵コンテ——長井龍雪
演出——長井龍雪、ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督——千葉道徳
メカニック作画監督——有澤 寛
【第2話】バルバトス
脚本——岡田卓里
絵コンテ——長井龍雪、ヤマトナオミチ、緒田慎也
演出——ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督——赤井方尚
メカニック作画監督——久壽米木信弥
【第3話】敗者
脚本——岡田卓里
絵コンテ——緒田慎也、大張正己
演出——緒田慎也
キャラクター作画監督——大貫健一、大龍之仁
メカニック作画監督——大張正己
【第4話】命の値段
脚本——根元光三
絵コンテ——宮尾佳和
演出——池野昭二

キャラクター作画監督——牧 孝雄
メカニック作画監督——宇田早輝子

【第5話】赤い空の向こう
脚本——鶴田 一
絵コンテ——大塚 健
演出——うえだしげる
キャラクター作画監督——しんぼたくろう
メカニック作画監督——大塚 健

【第6話】彼等について
脚本——土屋理敬
絵コンテ——西澤 晋
演出——孫 承希
キャラクター作画監督——小谷香子
メカニック作画監督——阿部宗孝

【第7話】いざなとり
脚本——鶴田 一
絵コンテ——西澤 晋、寺岡 賢
演出——ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督——戸井田珠里
メカニック作画監督——有澤 寛

【第8話】寄りあふたち
脚本——根元光三
絵コンテ——久藤 誠
演出——久藤 誠
キャラクター作画監督——赤井方尚、坂本修司、
中島 清
メカニック作画監督——久壽米木信弥

【第9話】轟
脚本——岡田卓里
絵コンテ——大橋誉志光
演出——池野昭二
キャラクター作画監督——大貫健一、大龍之仁
メカニック作画監督——大張正己

【第10話】明日からの手紙
脚本——土屋理敬
絵コンテ——西澤 晋
演出——大久保 朋
キャラクター作画監督——牧 孝雄、宇田早輝子
メカニック作画監督——宇田早輝子
キャラクター作画監督協力——中島 清、坂本修司、
山本美佳

【第11話】ヒューマン・デナリ
脚本——鶴田 一
絵コンテ、演出——緒田慎也
キャラクター作画監督——しんぼたくろう
メカニック作画監督——阿部宗孝

【第12話】暗礁
脚本——根元光三
絵コンテ——西澤 晋
演出——うえだしげる
キャラクター作画監督——小谷香子
メカニック作画監督——阿部宗孝

【第13話】静寂
脚本——岡田卓里
絵コンテ——声野芳晴

演出——ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督——戸井田珠里、中島 清
メカニック作画監督——大張正己

【第14話】希望を運ぶ船
脚本——土屋理敬
絵コンテ——久行宏和
演出——孫 承希
キャラクター作画監督——赤井方尚、坂本修司、
牧 孝雄
メカニック作画監督——久壽米木信弥

【第15話】足跡のゆくえ
脚本——鶴田 一
絵コンテ——寺岡 賢
演出——池野昭二
キャラクター作画監督——大貫健一、大龍之仁
メカニック作画監督——阿部宗孝
キャラクター作画監督協力——中島 清、戸井田珠里

【第16話】フミタン・アドモス
脚本——大西俊介
絵コンテ——大橋誉志光
演出——久藤 誠
キャラクター作画監督——野崎真一、山本美佳、
河合鏡子、宇田早輝子
メカニック作画監督——宇田早輝子
キャラクター作画監督協力——坂本修司

【第17話】クーデリアの決意
脚本——土屋理敬
絵コンテ——西澤 晋
演出——大久保 朋
キャラクター作画監督——しんぼたくろう
メカニック作画監督——有澤 寛

【第18話】声
脚本——根元光三、岡田卓里
絵コンテ——久行宏和、大橋誉志光
演出——大橋誉志光
キャラクター作画監督——小谷香子
メカニック作画監督——阿部宗孝

【第19話】闘いの重力
脚本——岡田卓里
絵コンテ——緒田慎也、寺岡 賢
演出——緒田慎也
キャラクター作画監督——戸井田珠里、中島 清
メカニック作画監督——阿部宗孝

【第20話】相棒
脚本——大西俊介
絵コンテ——西澤 晋
演出——孫 承希
キャラクター作画監督——坂本修司、赤井方尚、
真島シロウ
メカニック作画監督——久壽米木信弥

【第21話】運るべき場所へ
脚本——鶴田 一
絵コンテ——西澤 晋、久行宏和
演出——うえだしげる
キャラクター作画監督——大貫健一、大龍之仁
メカニック作画監督——大張正己

【第22話】まだ濡れない

脚本……土屋隆敏
絵コンテ……西澤 晋
演出……ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督……野崎真一、山本美佳、河合根子
メカニック作画監督……阿部邦博

【第23話】最後の嘘

脚本……岡田豊里、朝志田一
絵コンテ……西澤 晋、寺岡 晃
演出……池野昭二
キャラクター作画監督……しんぼたろう
メカニック作画監督……宇田早輝子

【第24話】未来の報酬

脚本……岡田豊里、朝志田一
絵コンテ……寺岡 晃、長井雄雪
演出……大橋美幸光、大久保 朋
キャラクター作画監督……小谷吉子、中島 浩、高部貴典
メカニック作画監督……阿部慎吾、片山 学、有澤 寛
キャラクター作画監督協力……山本美佳、河合根子
メカニック作画監督協力……伊藤一樹

【第25話】族長団

脚本……岡田豊里
絵コンテ……長井雄雪、寺岡 晃
演出……長井雄雪、横田博也
キャラクター作画監督……千葉道徳、大貫健一、牧 幸雄、戸井田珠里
メカニック作画監督……有澤 寛
メカニック作画監督協力……阿部宗孝

【第26話】新しい山

脚本……岡田豊里
絵コンテ……長井雄雪
演出……長井雄雪
キャラクター作画監督……千葉道徳
メカニック作画監督……有澤 寛

【第27話】燃える渦中で

脚本……岡田豊里
絵コンテ……西澤 晋
演出……ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督……戸井田珠里
メカニック作画監督……有澤 寛

【第28話】夜明け前の戦い

脚本……朝志田一
絵コンテ……寺岡 晃
演出……うえだしげる
キャラクター作画監督……小谷吉子
メカニック作画監督……大塚正己

【第29話】出世の引き金

脚本……朝志田一
絵コンテ……亀井 治
演出……藤 承希
キャラクター作画監督……しんぼたろう
メカニック作画監督……阿部宗孝

【第30話】アープラウ防衛軍先足式典

脚本……大西信介、岡田豊里
絵コンテ……西澤 晋
演出……池野昭二
キャラクター作画監督……中島 浩、大塚之仁
メカニック作画監督……高瀬誠一
キャラクター作画監督協力……戸井田珠里、野崎真一

【第31話】無言の戦争

脚本……岡田豊里
絵コンテ……藤澤俊幸
演出……三宅和男
キャラクター作画監督……吉川真一、斎藤 香
メカニック作画監督……宇田早輝子

【第32話】友よ

脚本……岡田豊里、朝志田一
絵コンテ……寺岡 晃、横田博也
演出……横田博也
キャラクター作画監督……遠藤広隆、中本 尚
メカニック作画監督……久壽米木信弥
キャラクター作画監督協力……中島 浩、大塚之仁、斎藤 香

【第33話】火星の王

脚本……岡田豊里
絵コンテ……亀井 治
演出……久藤 誠
キャラクター作画監督……戸井田珠里、森下博光
メカニック作画監督……大塚正己
キャラクター作画監督協力……中島 浩、野崎真一、斎藤 香

【第34話】ヴィーデル立つ

脚本……朝志田一、岡田豊里
絵コンテ……斎藤哲人、横田博也
演出……ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督……小谷吉子
メカニック作画監督……高瀬誠一
キャラクター作画監督協力……中本 尚

【第35話】日常めし厄祭

脚本……横口達人、岡田豊里
絵コンテ……亀井 治、赤根和樹
演出……うえだしげる
キャラクター作画監督……しんぼたろう
メカニック作画監督……阿部宗孝

【第36話】続れた裏

脚本……吉野弘幸
絵コンテ……赤根和樹、斎藤哲人
演出……藤 承希
キャラクター作画監督……中島 浩、斎藤 香
メカニック作画監督……久壽米木信弥
メカニック作画監督協力……高瀬誠一、阿部宗孝

【第37話】クリュセ防衛戦

脚本……朝志田一、岡田豊里
絵コンテ……寺岡 晃、亀井 治
演出……池野昭二
キャラクター作画監督……大貫健一、中本 尚
メカニック作画監督……有澤 寛

【第38話】天使を拝する者

脚本……横口達人、岡田豊里
絵コンテ……寺岡 晃、斎藤哲人、忍海倫一
演出……横田博也
キャラクター作画監督……堀川貴史、豊田稔子
メカニック作画監督……大塚正己
キャラクター作画監督協力……別所ゆうさ、斎藤 香、江上夏樹
メカニック作画監督協力……久壽米木信弥、野崎真一

【第39話】助鳥

脚本……岡田豊里、吉野弘幸
絵コンテ……遠藤広隆、亀井 治
演出……三宅和男
キャラクター作画監督……戸井田珠里、森下博光
メカニック作画監督……阿部邦博
キャラクター作画監督協力……野崎真一

【第40話】燃ゆる太陽に照らされて

脚本……岡田豊里
絵コンテ……高瀬誠一、亀井 治
演出……ヤマトナオミチ
キャラクター作画監督……小谷吉子
メカニック作画監督……阿部宗孝
キャラクター作画監督協力……豊田稔子

【第41話】人として当たり前の

脚本……岡田豊里

絵コンテ……遠藤広隆、忍海倫一
演出……うえだしげる
キャラクター作画監督……しんぼたろう
メカニック作画監督……宇田早輝子

【第42話】涙と絆

脚本……横口達人、岡田豊里
絵コンテ……斎藤哲人、亀井 治、浅田勇樹
演出……浅田勇樹
キャラクター作画監督……中島 浩、斎藤 香、吉川真一
メカニック作画監督……高瀬誠一、鈴木敏夫

【第43話】たどりついた真意

脚本……朝志田一、岡田豊里
絵コンテ……小林 貴、大塚正己
演出……藤 承希
キャラクター作画監督……大貫健一、江上夏樹、吉田雄一
メカニック作画監督……大塚正己

【第44話】壊を手にした男

脚本……岡田豊里、横口達人
絵コンテ……西澤 晋、忍海倫一
演出……池野昭二
キャラクター作画監督……豊田稔子、中本 尚、大塚之仁、堀川貴史
メカニック作画監督……久壽米木信弥
キャラクター作画監督協力……中島 浩、斎藤 香

【第45話】これが最後なら

脚本……黒田洋介
絵コンテ……寺岡 晃、亀井 治
演出……横田博也
キャラクター作画監督……戸井田珠里、森下博光、神谷美也子、山崎寛之
メカニック作画監督……斎藤 香、久壽米木信弥
キャラクター作画監督協力……野崎真一

【第46話】誰が為

脚本……朝志田一、岡田豊里
絵コンテ……小林 貴、イシヨウヘイ
演出……三宅和男
キャラクター作画監督……小谷吉子、戸谷賢都
メカニック作画監督……阿部宗孝

【第47話】生け贄

脚本……岡田豊里
絵コンテ……斎藤哲人、亀井 治
演出……うえだしげる
キャラクター作画監督……しんぼたろう
メカニック作画監督……阿部邦博

【第48話】約束

脚本……岡田豊里
絵コンテ……遠藤広隆、西澤 晋
演出……池野昭二
キャラクター作画監督……中島 浩、斎藤 香、吉田雄一、江上夏樹
メカニック作画監督……大塚正己

【第49話】マクギリス・ファド

脚本……岡田豊里
絵コンテ……遠藤広隆、亀井 治、寺岡 晃
演出……大久保 朋
キャラクター作画監督……大貫健一、中本 尚、豊田稔子、神谷美也子、山崎寛之
メカニック作画監督……宇田早輝子、高瀬誠一
キャラクター作画監督協力……平沢親樹

【第50話】彼等の伝説

脚本……岡田豊里
絵コンテ……寺岡 晃、小林 貴、長井雄雪
演出……長井雄雪、横田博也
キャラクター作画監督……千葉道徳、大貫健一、森下博光、小谷吉子、戸井田珠里
メカニック作画監督……有澤 寛

STAFF

監製

林 彰奈
鈴木進介(セブンデイズウォー)
清水耕司(セブンデイズウォー)

執筆

木川明彦(SKULL BEAR)
坂井由人
坂井直人
河合宏之

デザイン

川島弘世

協力

サンライズ
バンダイホビー事業部
メガハウス
バンダイカード事業部
(順不同・敬称略)

ホビージャパンBOOK807 機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ 第2期 コンプリーション

2017年9月1日 初版発行

【編集人】木村 学

【発行人】松下大介

【発行所】株式会社ホビージャパン

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-15-8

TEL.03(5304)7601(編集)

TEL.03(5304)9112(営業)

【印刷所】株式会社廣済堂

乳子・魚(1本のページ(1冊作)の間違いや抜け漏れ)は
購入された会報名を明記して当社のプリンティングサービス課まで送りください。
送料は当社負担でも取り替えます。
但し、古書店で購入したものに 대해서는お取り替えできません。

禁無断転載複製

©2016 サンライズ・HBS
の監修 サンライズ

Printed in Japan
978-4-2986-1493-9 C9476